大和巡

Mizuki, Yotarō.

History of Temples etc
Yamato-Meguri.
1903

第一圖
大和國全圖
五十万分一
零 一里 二里 三里 四里 五里
主要地里程
奈良ヨリ
法華寺 半里余
西大寺 唐招提寺 藥師寺 一里余
郡山町 一里半
法隆寺 三里半
龍田 四里
生駒山 三里半
信貴山 五里余
月瀬 七里
丹波市 三里
三輪 五里
櫻井 五里半
松山 八里半
初瀬 七里
榛原 九里
室生 十一里
多武峰 七里
畝傍 六里半
岡寺 七里
壺阪 八里
高田 六里半
當麻寺 七里余
御所 八里
葛 九里半
阿田 十里余
五條 十二里半
賀名生 十四里半
下市 十一里
上市 十里
吉野山 十一里
大峰山 十六里
大瀧 十三里
大和
山城
近江
伊賀
伊勢
紀伊
和泉
河内
攝津
丹波
東山中
宇陀
吉野
北山
十津川
京都
伏見
大津
大阪
堺
奈良
郡山
上野

第貳圖
奈良公園及市街
二万分之一尺
5 4 3 2 1 0 5
町
平城旧都趾
平城旧都
大極殿遺址
北面歩廊
西面歩廊
東面歩廊
大極殿
(新北)
春日山中里程
水谷ヨリ 月日磐マデ 三丁
月日磐ヨリ 中水谷マデ 十二丁
中水谷ヨリ 鳥居前マデ 八丁
鳥居前ヨリ 鶯滝マデ 十六丁
鶯滝ヨリ 高山マデ 二十丁
高山ヨリ 三本杦マデ 十九丁
三本杦ヨリ 春日大杦マデ 十三丁
春日山
花山
芳山
若草山
手向山
御笠山
般若寺
興福院
大佛停車場
奈良停車場
京終停車場
東大寺大佛殿
春日野
荒池
白毫寺
紀寺
月瀬街道
朝日観音
春日大杉
鶯滝
鳥居前
中水谷
上ノ水谷
七本杉
佛頂塔
五重塔
猿澤池
郡山
朱雀大路
大安寺
薬師寺
唐招提寺
法華寺
佐保川

第三圖
大和平野及吉野川沿岸
畝傍飛鳥附近
八万分ノ一
吉野山附近
八万分ノ一
二十万分ノ一
符号
国界
市街
地名
神社
寺院
陵墓
名所
古趾
鉄道停車場
道路
山岳
河川
池沼
奈良
郡山
丹波市
桜井
高田
御所
今井
八木
畝傍
法隆寺
王寺
三輪
初瀬
上市
下市
五條
吉野山
大和川
吉野川

河瀬緞通場

河瀬敷物店

河瀬装飾店陳列場

河瀬洋服店

河瀬三店々舗

室内装飾圖

河瀬商店ハ京都市寺町通松原上ル十四、十六番戸東側ニシテ一家屋内ノ北部ヲ洋服店中央ヲ敷物店南部ヲ装飾店トス緞通場ハ敷物部ニ附屬シ装飾品家具類陳列場ハ二階ニ在リ

奈良公園 四季亭 實景

謹啓弊舘は奈良名所中尤有名なる淺茅ヶ原遊園内にして春日一の鳥居に隣り園麓荒池の湖水に面し山水の奇景地形の風致天然に備り其絶景なること近畿に其比を見ず四季の眺め 卿客位の旅情を慰むるに足る好適地をトし今回開設の大阪大博覧會を期し家屋を新築し空氣の流通光線の透射等專ら衞生上注意を加へ清潔を主とし加ふるに園内十三ヶ所の離座敷には最新式の共同電池式電話交換機を据付專ら便利を計り夏日納涼の各位御求によりては電氣扇風機の設備をも致置候に付遠く奈良觀光の士近く地方休養の諸士賑敷御來遊被下度偏に奉希上候　謹白

	會席	宿泊料	中飯料
特等	金壹圓	金壹圓	金五拾錢
上等	金五拾錢	金七拾錢	金參拾錢
並等	金參拾錢	金五拾錢	金貳拾錢

以上は御好に應し何程にても仕候、席貸料は一室一時間拾錢

尙園内十三ヶ所ノ亭ハ避暑ノ候ニハ尤モ適當ノ地ニシテ御滯在ノ諸君ニ限リ席貸料ハ特ニ日期月賦ニテモ御相談ニ可應候

奈良公園春日一ノ鳥居南

淺茅ヶ原

温泉 四季亭

（奈良驛三條ヨリ六丁東）

大和巡

目録

巡遊順序及日時概定

巡遊順序

（甲）

- 奈良
- 奈良郡山附近
- 法隆寺附近
- 當麻寺
- 御所附近
- 五條附近
- 吉野
- 畝傍附近
- 飛鳥附近
- 多武峯飛鳥ヨリ上ル路險
- 初瀬
- 室生
- 三輪奈良間
- 月瀬

（乙）

- 奈良
- 奈良郡山附近
- 法隆寺附近 當麻寺ノ次ニスルモヨシ
- 奈良三輪間
- 初瀬
- 室生
- 多武峯 或ハ直ニ先吉野ニ出ツベシ
- 飛鳥附近
- 畝傍附近
- 壺阪又ハ葛
- 吉野
- 五條
- 御所附近
- 當麻寺 法隆寺ヲコノ次ニスルモ可ナリ

日時概定

車行最短ノ時間ヲ概示ス

地域	箇所	日時	備考
奈良公園	春日大佛、等社寺	半日餘	
	三笠山	登降一時間半	
	春日山中	半日以上	
奈良公園外社寺諸陵		半日	
奈良郡山附近	平城宮趾、諸大寺	半日以上	
	矢田、松尾、靈山寺等	半日	
法隆寺附近	法隆寺、廣瀬神社、龍田川	半日	
信貴山、龍田神社、達磨寺		半日	
生駒山寶山寺		半日	
月瀬笠置		一日	
上街道	石上、大和、三輪三社、柳本陵	半日	
	初瀬	三時間以上	三輪櫻井ヨリ往復トモ
室生寺		一日以上	仝上
多武峯		半日	仝上
畝傍飛鳥附近		半日以上	仝上
壺阪		四時間以上	畝傍ヨリ往復トモ
當麻寺		三時間	高田下田ヨリ往復トモ
御所附近		半日	
金剛山		一日	
葛温泉、阿田桃園 / 五條附近		半日以上	
賀名生		半日	
吉野		一日以上	

四季の遊楽

梅　月瀬、春日野
桃　阿田、
櫻　吉野、奈良公園
初瀬(はせ)、多武峰(たうのみね)
柳本陵、郡山城趾
柳　猿澤池、六田渡(むだのわたし)
藤　春日野、南圓堂
菖蒲(あやめ)　橿原神宮(かしはら)、
躑躅(つゝじ)　神野山(かうの)、月瀬
牡丹　初瀬(はせ)、
若葉　春日山、三輪山
吉野山、大和三山
早蕨(さわらび)　嫩草山(わかくさやま)、

鮎取　吉野川、
納涼　鷲瀧、桃尾瀧
櫛羅瀧、大瀧
蜻蛉瀧、吉野山
多武峰、信貴山
生駒山、葛濫泉
榮山寺、五條城山
螢(ほたる)　佐保川(さほがは)、
月　猿澤池、三笠山
高圓山、吉野山
五條城山、
虫　春日野、
松茸　矢田山、法隆寺山

重坂山(へさか)、其他各地
鹿　春日野、
萩　春日野、五條城山
紅葉　龍田、多武峰
初瀬、奈良瀧坂
手向山(たむけやま)、洞紅葉(ほらのもみぢ)
雪　春日山、三笠山
金剛山、二上山
三輪山、吉野山
四時奈良公園吉野公園
初瀬山、多武峰
五條城山
吉野川
榮山寺、
妹背山、
柴橋大瀧
どろ八町、室生

年中行事

一月六日―八日　天理教會節會
九日初瀬佛名會
舊十四、十五日　初瀬會式
舊廿六日天理教會春季大祭
舊初午松尾寺、岡寺
舊一日―三日　法隆寺修二會
二月四日年越春日
十一日橿原神宮祭
三月一日―十四日　二月堂
二日―十二日　初瀬法華經千部會
十日―十六日　藥師寺花會式
十二日水取
十三日春日祭
十五日　二月堂韃靼帽子、
春日御田植
廿一日彼岸矢田寺
室生寺大師忌
廿二日―廿三日　法隆寺聖靈會
若草山燒？

四月一日大和神社
三日神武天皇祭
四日廣瀬龍田祭
舊八日九日久米寺練供養
九日大神神社祭
舊十四日十五日當麻寺練供養
舊廿三日廿四日矢田寺練供養
五月二日東大寺聖武天皇會
十九日招提寺團扇撒
六月一日　丹生川上下社祭
八月十八日―廿五日　西大寺光明眞言
九月舊十五日　石上神宮祭
彼岸矢田寺
廿七日吉野宮祭
十月八日　丹生川上上社祭
舊廿六日　天理教秋季大祭
十一月一日二日鹿角切
十七日談山社祭
十二月九、十日　初瀬佛名會
十七日　春日若宮御祭
毎月一日十六日　生駒山寶山寺
毎月初寅　信貴山

奈良遠景

南都八景

南圓堂藤　佐保川螢
猿澤月池　春日野鹿
三笠山雪　雲井坂雨
東大寺鐘　轟橋行人

半空涌出両峯圖。更有伽藍俯九衢。
十二帝陵低不見。黑風白雨滿南都。　藤井竹外

菊の香や奈良には古き佛達　芭蕉

平城懐古　梁川星巖

雲端雙闕古神京。憶昔春風駐霓旌。
園沼已荒槐柳合。衣冠何在壠墳平。
一溪豐草呦々鹿。千樹殘花恰々鶯。
行盡借香山下路。流泉鳴珮最關情。

南圓堂

猿澤池

わきも子がねくたれ髮を猿澤の
池の玉藻と見るぞ悲しき　柿本人麿

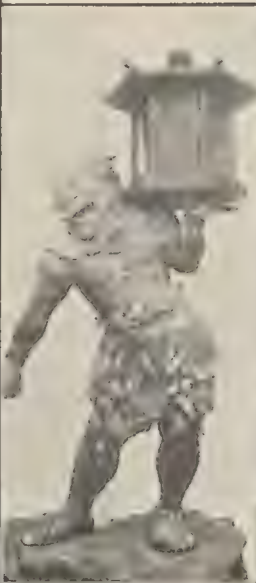
月を手に取りはづしてやそこが毛の
三本たらぬ猿澤の池　讀人不知

借香野幽色宜夏　采女池光艶勝春　關根痴堂

東大寺連西大寺　南圓堂接北圓堂　小原竹香

興福寺は七堂伽藍、はじめは、山階寺といひ、中比は馬屋寺と號す。東金堂、中金堂、食堂、講堂、南圓堂には、補陀落の藤をうつして、順禮の札を納め、東圓堂には、いにしへの、八重櫻を殘して、花垣の庄を領す。西金堂の樂をあらため、南大門に移して薪の能をはじむ。七度半の使に、四座の猿樂をめす、雨天には紙をふんで試み、夜陰には薪を積でたく、保生が鉢の木に名人の號をそげ大倉が芭蕉に、達人の名をあらはす、（南都[illegible]）

天燈鬼

同寺八部衆乾漆像

興福寺釋迦十大弟子乾漆像

同寺東金堂及五重塔

奈良七重七堂伽藍八重櫻　芭蕉

綿百量　願主　大法師　聖勝　生年五十一

建保三年卯月廿六日　法橋康辨作（書判）（龍燈鬼胎中墨書）

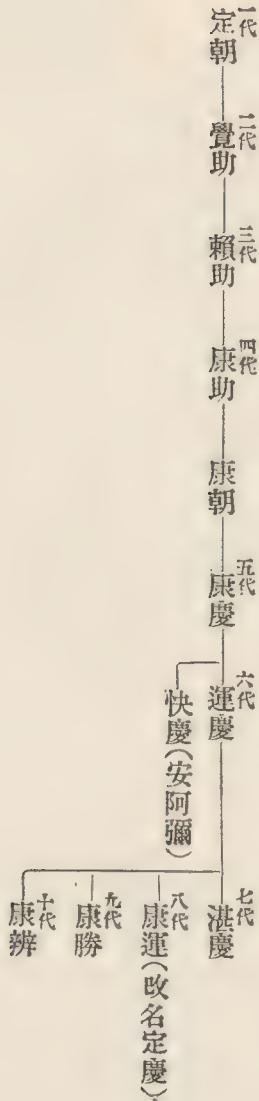
佛工系圖

一代 定朝――二代 覺助――三代 賴助――四代 康助――康朝――五代 康慶――六代 運慶――七代 湛慶

（運慶の弟子）快慶（安阿彌）

（運慶の子）八代 康運（改名定慶）

（運慶の子）九代 康勝

（運慶の子）十代 康辨

興福寺華原磬

享保十二年三月十一日傳來の華原磬幷泗濱浮磬可被備天覽之旨以南曹辨中御門宣誠被仰出其旨別當尊昭權別當光範上洛三月廿九日已之刻兩磬幷妙幢の像淸涼殿中壇御叡覽也

（興福寺年代記）

正倉院御物の外に忘るべからざる當代鑄銅の名品は、興福寺の鉦鼓並に磬なり。これを華原磬と名づけしは、華原は支那の名石を產する地名にして、其の石にて作りし磬の世に賞せられしより起りしものなり。されど此の物たる全く鉦鼓にして磬に非らず、唯其の佳名を取りて假りに負はしめたるものなるべし。高さ六尺二寸五分ありて、全體銅鑄物なり。金鼓は四つの龍のからめる中につるされ、中央の柱は猶犬の背に由りて支へられたり。其の形狀よく整ひ鑄造亦巧にして、實に端嚴にして雄麗なる趣を顯せり。

（日本美術略史稿）

春日一ノ鳥居

春日野鹿

治承三年二月八日丙申天晴今日春日祭也……近衞使自南門退出舞人等於此處懐中冠騎馬取松明作法如恒至于一鳥居邊參入之時未及二鳥居五六町前驅取松明馬副二人張口隨身二人雜色六人各取松明在馬後參入之間與福寺東北邊鹿二三十頭迎來前行至于二鳥居邊退出之時又四五頭自二鳥居至于一鳥居云々此事極吉祥也有感歟　（山槐記）

禁　制

一春日山内諸屋亂妨強盜事

一於山内甲乙剝取事
　付自寺内至社頭幷野田高畠出入違亂事

一神鹿殺害山林伐用事

右條々令停止訖若有違犯之輩者速可被處嚴科者也仍下知如件

永祿十年十一月　日

義　繼（三好左京太夫）

灌佛の日に生れあふ鹿の子かな　芭蕉

鹿を追ふ獵師なければ奈良の町
　西も東も山を見るかな　問屋酒舟

春日野の飛火のどもり出でゝ見よ
　いいいくかありてわわわかなつまん　蜀山人

行く人のくはへ煙管の吸殼も
　横に飛火の野邊の春風　梅園靜廬

子に臥して鹿におこされ奈良の宿

博物館

物產陳列所

倶樂部

古梅園のぬしは古き知己なれば
其墨のほまれを賞して　貞柳

月ならで雲の上まですみのぼる
これはいかなるゆえんなるらん

天正八年九月廿六日瀧川左近丞
惟任日向守滯留中ニ安土へモ両
人へモ菓子結構ニ令用意被遣其
外両人ハ大油煙廿挺又霰酒以下
度々音信有之（妙喜院宗英記）

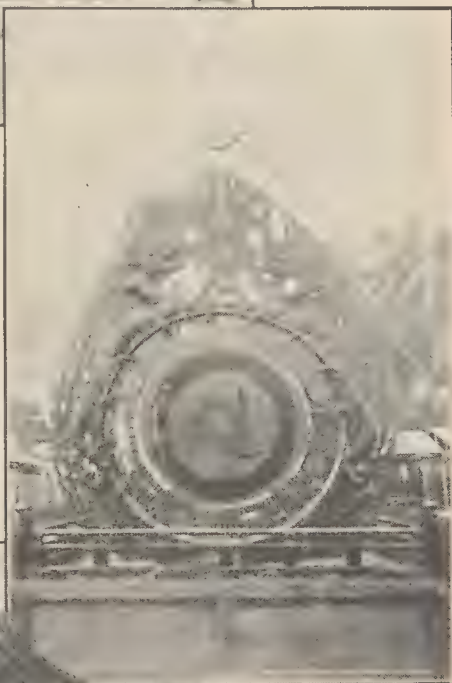
奈良團扇もとの都の風ぞ吹く　袁立

元直にも奈良の物とて澁々に
手をうちは賣挊ぐ商ひ　雲樂齋

奈良漬は奈良に限らず何處でも
かすがあるから奈良漬といふ　鵜柄仙口

春日本社

鼉大皷

春日社南門

鼉大鼓：：：口徑は七尺にわたり胴部を黑塗となして龍と鳳凰の彫刻を表裏につくことに後の世のよくし難き風致をも具へていとめでたく造られたるものなり尙同社に藏せる他の類とよせ見る時は優に勝れる夫等の音の古く祭の庭に神の御靈を慰めまつりてなほ春の晨伶人が衣手に散る花に和しあるは月の秋にあはれ人の心を澄まさしめしなと思はれてさらに溫古の情趣たへ難かるものあり（國華）

春の日も光ことにや照すらん
　玉くしのはにかくる白ゆふ　　藤原俊成

春日山水屋の水の末までも
　神にまかせて身を賴む哉　　衣笠大臣

めつらしやけふの春日の八乙女を
　神もうれしと思はざらめや　　藤原忠房

大杉

雷瀧

昨日こそ年はくれしか春霞
　春日の山にはや立ちにけり　　山邊赤人

名のみして山はみかさもなかりけり
　朝日夕日のさすに任せて　　紀　貫之

三笠山春は音にて知られけり
　氷をたゝく鶯の瀧　　西行法師

嫩草山

手向山神社鳳輦

今も猶妻やこもれる春日野の若草山に鶯のなく　　宗尊親王

神々と春日茂りてつゝら山　　鬼貫

「春日野の飛火の野守出でゝ見よ、影さす月の三笠山、薄雲かゝる藤山のわかむらさきの名にしおふ木々の梢ものどかなる春の日影ののどけさよ「二月の初申なれや春日山「峯をよむまで、いたゞきまつれや佐保姫の袖もかざしの玉かづら「かけてぞ祈る春日野の「若草の山、水屋の御影「みどりもめぐみも春たつ雲の羽袖なかへすや山かづら　　（謠曲）

來十六日可有東大寺八幡宮神輿路次警固事
可被仰遣武家之旨天氣所候也
　　左大辨忠光
西園寺大納言殿

三月堂本尊

二月堂

三月堂

南都東大寺の法華堂は聖武天皇時代建築の遺物なり其外形は古來屢修繕せられて多く古式を失へりと雖其內部は依然として千餘年の舊觀を存し柱、組物、虹梁、天井の手法悉く當代の嗜好を表示し其の構架亦能く當代建築の眞相を現せり

（美術略史稿）

水取や籠りの僧の沓の音　芭蕉

水取や井をうち回る僧の息　一茶

水取や瀨々の溫みも此日より　蓼太

大佛鐘

大佛殿

奈良の諺に曰く勢は東大寺形は平等院聲は園城寺といふ　（寛文記）

總木數合二万六千七百二十三本
此代銀三千九百七十四貫六百三十一匁六分九厘
此金六万六千二百四十三両三分銀六匁六分九厘
大佛殿大虹梁十三間物二本ノ内
松一本長十三間物　元口　四尺三寸
末口　三尺三寸七分五厘
丈ニシテ八丈四尺五寸　（大佛殿再興記錄）

奈良大佛像

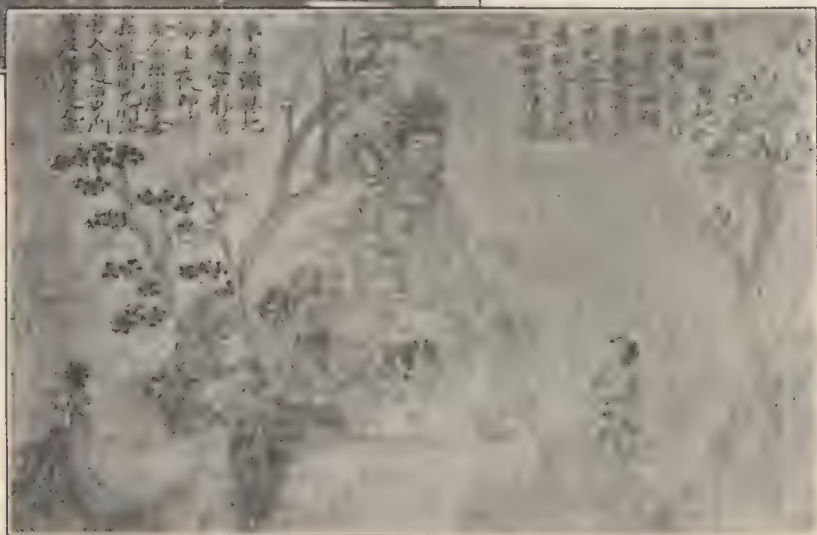
金銅盧舍那佛像一軀　結跏趺坐

高五丈三尺五寸　面長一丈六尺　廣九尺五寸　完髪(肉髻イ)高三尺
眉長五尺四寸五分　目長三尺九寸　鼻長三尺二寸　口長三尺七寸
頤長一尺六寸　耳長八尺五寸　頸長二尺六寸五分　肩徑長二丈八尺七寸一分
胸長一丈八尺　腹長一丈三尺　臂長一丈九尺　肱至腕長一丈五尺
掌長五尺六寸　中指長五尺　脛長二丈三尺八寸五分　膝前徑三丈九尺
膝厚七尺　足心(下イ)一丈二(三イ)尺
螺形九百六十六個　高各一尺三寸　徑各六寸
銅座高一丈　徑六丈八尺　上周廿一丈四寸(尺イ)　基周廿三丈九尺
石座高八尺　上周三十四丈七尺　基周三十九丈五尺
用熟銅七十三万九千五百六十十斤　白鑞一萬二千(千イ)六百十八斤
鍊金一萬四百卅(五十イ四十イ)六両　水銀五萬八千六百廿両
炭廿(廿一イ)萬六千(六千ナシイ)六百五十六斛

備考　實測寸法の前記と異なるもの及び漏れたるもの左の如し　(朝野群載)

鼻前徑二尺九寸四分　中指周三尺二寸　手掌幅六尺八寸
同高一尺六寸　同長五尺八寸　右御手手頸周一丈三尺五寸
耳長八尺五寸　小指長四尺四寸　右御足足裏直徑一丈
腹長一丈八尺　無名指長五尺三寸　同大指三尺二寸
左御手大指周四尺八寸　頭指長五尺四寸　同周四尺二寸
同長四尺四寸　手掌六尺五寸六分

東大寺彌勒菩薩木像

戒壇院四天王塑像

東大寺華嚴五十五所繪卷

四天王像　　東大寺戒壇院

此四天王像は塑像にして各高さ五尺四寸あり四体とも同時代の作にして……何れも一様の名作なり。又四体とも皆彩色を施されしものなれども今は剝落して僅に其痕を留むるのみ、又眼睛には黒曜石を嵌せり。

（美術略史稿）

金剛力士大佛師康譽法眼注進云、二王作者總大佛師運慶金剛東運慶、力士西湛慶倶子息等加造手

（東寶記）

正倉院

南大門

鏡池

正倉院

小杉榲邨

まことこの寶庫の構造は南より北へ三區にして總長十七間はかり一かまへのひろさ凡五六間奥ゆき五間ばかり二階造りにていと高き瓦葺なり下の板間の裏より敷地石ずゑのわたりまで八九尺も有りぬべし外部より見れば床の下の高き事俗に中二階などいふものゝ如くこれを以ても其したゝかなるを思ひはかるべきなり……さて其樣式の大畧をいはんに三稜の大材を疊みかさねて外部はあだかも御箱といふものゝ形したるを四隅は井樓といふものゝ如くあせ合せたればこれをあせくらともいふなり既く藤貞幹の好古小錄に校倉は烈日にあたれども土蒸の氣なく又雨にあひても濕氣を含まず故に其藏むる所のもの數百年を經といへども魚食の患なし古人の遠慮往々此の如しといへるは實に然り

新藥師寺本尊藥師如來

般若寺額

般若寺十三重塔

新藥師寺は東大寺の末寺也聖武天皇御眼を煩はせ給ひし時光明皇后御祈禱の爲造らせ給ひ天皇御眼の病忽愈させ給ふ依之本尊如來の御目もきら〳〵敷作らしめ給ふといひ傳へしを
（和州寺社記）

頼　山陽

門題般若寺猶存。
猶思延秋避賊奔。
貝葉應爲雲五色。
眩迷肉眼護龍孫。

先考宋人行末者吳朝明州住人也而來日域經歲月節大佛殿石壇四面廻廊諸堂垣塌荒：：：：三年建立一丈六尺石卒都婆二基以一本廻過去慈考以一本現在慈母：：：：弘長元年辛酉七月十一日伊行吉
（笠卒塔婆銘）

大和巡

第五回内國勸業博覽會
奈良縣協賛會編纂

総叙

皇祖神武天皇の日向に居給ふや「東に美地あり青山四周す其地必天業を恢弘して天下に光宅するに足るべし蓋、六合の中心か」と宣らせ給ひ日本武尊の「大和は國のまほろばたゝなづく青垣山籠れる大和し美し」と歌ひ給ひしは大和北部の平野を言へるなり。其東西三四里、南北六七里に亘り峰巒四方に繞りて別に一境を開き諸水盡く大和川に集りて土地肥沃禾穀豐熟し戸口繁殖して工商の業亦盛なり。天武天皇の「よき人のよしとよく見てよしといひし吉野よく見よよき人よく見つ」と賞し給ひ平城朝詩人の「高嶺嵯峨として奇勢多く長河渺漫として廻流を作す」と咏せしは南方吉野の地なり。一郡の面積國の三分の二を占め吉野の十二峰其中央を縦斷して山嶽至る處嶮峻を極め山林の業最盛にして多く杉檜の良材を出し水の一半を吉野川に落し一半を北山十

津の二水に分ちて之を熊野川に落せり。平野の東部は東山中とよび其南を宇陀地方となす二地亦自別境をなし諸水皆木津川に入りて淀川となる。國は殆、本邦の中心に位して北は山城に接し西は河內、東は伊賀伊勢に境し南方の大部分は紀伊に包圍せらる、其面積二百方里、畿內を二分して殆と其半を有せり。

史上の事蹟に至りては此國殊に顯著なるものあり、殆日本史上古の一半を占領せり。神武天皇の日向より東征して群兇を討滅し給ひ橿原に宮柱太しく立てゝ皇基を定め給ひしより列聖のこの國に都し給へるもの前後二十餘に及びぬ。四道將軍を置き熊襲蝦夷を征して國威を伸張し給ひしは磯城、纒向の宮の朝なり。文藝始めて韓國より渡來し工藝亦著しく進步したるは輕、泊瀨の宮の朝なり。小墾田の朝には聖德太子出でゝ佛法を興隆し給ひ始めて支那と交通を開き飛鳥の朝には中臣鎌足出でゝ逆賊を殪し大化革新の基をなせり。淨見原、藤原の御代には制度の改修步を進め平城の御代には始めて大規模の都城を仰ぎ文物亦燦然として觀るべきものありき。此間千四百年、時に帝都を他に遷されたるものなきにあらざれども久しく政教文物の中心にして內外の關

目する所なりしかばヤマトの名は遂に日本全國の大號にも用ゐらるゝには至りしなり。平安遷都の後政治の中心は北に移りしも古國の威靈は猶長くこれを失はず、河內は既に久しく我弟の如くなりしに山城はこゝに我子たるの觀あり、其地域相接するを以て其關係父たる日向叔父たる出雲よりも親密なりき。武家の世に推移するに及び緇衣の徒干戈にたづさはり南北朝の亂の際には吉野の山南朝の行在所となり山の險と人の患と五十餘年の皇運を保護したりき。戰國の世に至り筒井順慶各地に割據せる豪族を統一して國の大部を支配し豐臣秀長代りて和泉紀の三州を領せしが德川氏の世に及び太平三百年小藩境を接へ幕末天誅黨の亂ありし外事の言ふべきものなくして以て明治の維新に及べり。

祭政の一致は我國上古施政の綱領なれば敬神の事蹟は列聖にこれを仰ぐ。神武天皇鳥見山(とみのやま)に靈畤(まつりのには)を設け給ひ崇神天皇笠縫邑(かさぬひのむら)に神器を祭り給ひしより大社亘祠の創設最多く延喜式の載する所、二百八十六、全國の十の一餘を有して其數第一位にありき而して今猶十の官幣大社あり。佛教欽明の朝に渡來せしより朝廷の尊崇最厚く蘇我稻目(そがのいなめ)が

向原の家を捨てゝ佛寺となしを始めとして伽藍の創立歷代相踵ぎ平城朝に至りてその盛を極めぬ。飛鳥の三大寺今や其昔を見ずと雖、平城の七大寺猶其五を存し幾多の古伽藍世人の信仰厚きもの亦少からず。

我國山川風土の美は國民固有の美性靈腕を陶冶し加ふるに韓唐技術の長所を鎔化してこゝに我國美術の精粹は發揮せられぬ。而して其非常に發達したる時期の帝都は大和に在りしかば文物隆盛の美觀は皆この一國に聚められたるが如し。中にも法隆寺藥師寺を始め千年以外の建築を存するに至りては天下獨大和あるのみ。これ等の寺院また最多く優秀の佛體精巧の寶器を殘し當時美術極盛の一斑を窺ふべきものあり。殊に正倉院の如きは平城朝の服飾器具儼乎として當時のまゝに存するあり亦驚くべからずや。山水秀麗にして氣候温和に禾穀豐饒にして森林鬱茂せる天與の美國は飾るに吉野、月瀨の花を以てし彩るに龍田、談山の楓を以てし三笠山上の月、葛城峰頭の雪、清邇時に隨ひて生ずるものあり。況んや宮趾陵墓項背相接し巨祠大刹前後相望み山河到る處に千年の歷史を語り風物自高崇の感興を喚ばざるはなし、人は言ふ、日本は世界の

公園なりと、而して大和は日本の公園なり。人は言ふ、日本は世界の寶庫なりと而して大和は日本の寶庫なり。

大和巡遊概説

大和は名勝の國なり歴史の國なり宗教の國なり美術の國なり巡遊の目的人によりて自異なるべしと雖何人も先足を入れざるべからざるは奈良の地なり。春日山を包含する本邦唯一の大公園は山川景勝の賞すべきもの多きのみならず春日社東大寺興福寺等の天下に聞ゆるあり、優秀なる美術の社寺博物館に求むべきあり、少くも此地に一日もしくは二日を費すべきなり、更に半日を費さば平城宮趾に昔を忍びて西郊に眞言律宗の本山なる西大寺、天平時代の大建築を存する律宗の本山唐招提寺、天智時代の三重塔を存する法相宗の本山藥師寺等の伽藍を巡拜するを得べし。奈良の西南三里餘に法隆寺あり亦法相宗の本山にして千三百年前の建築を存し佛体寶器の優秀なるもの擧げて數ふべからず。其西に龍田あり紅葉を以て著れ附近廣瀬、龍田の二大社あり又信貴

山、生駒山に上るべし。奈良の東七里に月瀨あり梅花を以て稱せらる。奈良を南すれば五里にして三輪に至る天下最古の神社と稱する大和の一の宮大神神社あり。石上大和の二社はその途中に拜すべきなり。三輪より東に入れば一里半にして長谷寺あり新義眞言宗の本山にして世人の信仰厚く其東四里に室生寺あり亦名刹なり。三輪の南に接して櫻井あり其南一里半を上れば多武峰にして關西の日光の稱ある談山神社あり。櫻井の西方一里半に畝傍山あり皇祖が肇國の大業を建て給ひし靈地にして橿原神宮、神武帝陵を始め古陵宮趾相連れり。東南一里を距る飛鳥の方面古跡亦最多く岡寺 橘寺の二寺あり、南方一里に高取あり壺阪寺は其南なる山上にあり、西方一里半に高田あり中將姬の曼荼羅に名高き當麻寺は其西なる山麓にありて天平時代の雙塔を遺せり。鐵道高田より分岐して五條に至る、附近に天平の堂宇を存する榮山寺、賀名生皇居趾、阿田桃園等あり。櫻花と史蹟とを以て天下に鳴る吉野山は奈良を距る十一里の南方にありて今公園となれり必遊屐を着けざるべからず。これ等奈良以外諸名勝の大概を通覽せんには滊車人車の便あるを以て平野地方は僅に二日もしくは三日を費して

足るべしと雖月瀬、室生、吉野、五條附近等に至らんには更に各一日を加へざるべからず。此他猶社寺陵墓の多き名區史蹟に富める仔細に之を探討せんには幾旬の日子も猶足らざるの感あるべし。

大和の國をおもひて詠める　　眞淵

神ろぎの、神の御代より、天つ嗣、日つぎしらし丶、御まの尊、わが大君の、とつことは、を丶しくたけく、うちらなば、直くたひらに、見し給ひ、きこし給へば、八十國も、いよ丶眞廣く、百の臣も、いや榮はえき、空みつ、大和の國は、白雲の、とにたちわたり、山見れば、山いや高し、里見れば、里たひらけし、春花の、うらぐはし國ぞ、こ丶をしも、うべ敷きましき、八十國は、うべも榮えつ、古の、其いづみ代の、たりみよを、今も見るかも、日高見の國、

おほたからわが心さへゆたけしもやまと國ばらはろ見てしより

奈　良

緑樹蓊鬱たる春日山は東方に聳えて温乎たる嫩草山と相並び市街山麓に軒を連ねて堂

塔祠宇樹林の間に隱現し景色の絕佳なる一幅の畵圖を展ぶるが如きものこれを奈良となす。この地二千餘年前既に開化天皇の都を定め給ひしことあり、平城朝の時に當りて西郊一面の地に未曾有の大都を構へられしかばこの邊は都邑の一隅に屬し大祠巨刹の境域となりて社家僧坊軒を接し優秀の山容地態は神祇佛陀の威靈を保護して別に一天地をなせり。平安遷都以來都城の建築大方は跡を留めざりしも東方社寺の境域は依然として舊時の面影を存し威靈儼然として猶永く朝廷權家の尊崇を絕たず、南都の名空しく存して北嶺と相對稱せられぬ。應仁の頃までは猶田舍の狀態に過ぎざりしが後民戶も次第に增加し工商の業を營むものさへ多くなりて一市街を形づくるには至れるなり。筒井順慶大和を領し中坊氏をして政刑を掌らしめしより德川氏の末に至るまで奉行所の支配に屬せり。維新の後所管屢變更せしが明治二十年奈良縣を再置せられ大和一國の治所となり工商の業亦日に發達するものあり。況んや近時美術を論じ工藝を說くもの日に盛なるに方り千古優秀の建築彫刻等を多く存せる奈良は名勝古跡を以て著るゝ外更に我邦に於ける美術上重要の地位を占むるに至り既に帝室の博物舘をさへ

開設せられぬ。しかも維新の當時は佛法破壞の刧風に建築彫刻の失はれたるもの數を知らず、興福寺の五層塔をさへ一炬に付せんとしたることありといふ。今の盛况に思ひ比ぶれば實に世を隔てたるが如き感なくんばあらざるなり。

奈良公園　春日神社

奈良公園は春日山を包含して面積五百町の外に出で春日神社は三笠山を合せて面積百餘町地域相接し景勝相依り自一境をなせり。春秋の風色は猿澤池畔に柳櫻をこきまずる、春日の境内に紫の藤波の匂へる、水谷溪畔手向山邊に紅葉を染め出せる皆時に隨ひて賞すべく春日野に千年の老杉根を交へ神鹿優々として遊べるが如きは一種言ふべからざる神韻を認むべく嫩草山の綠草氈を敷けるが如き處に徜徉を試むるも亦最妙なるべし。一歩山中に入れば到る處幽邃淸冷或は近く大杉蝙蝠窟等を探るべく或は遠く鶯瀧に塵氣を洗ふべし。神社は春日の外又手向山、氷室あり寺院には東大寺、興福寺諸堂あり博物館正倉院官衙學校等皆收めて其中にあり、境域の廣き規模の大なる天然の

美と人工の妙と相映發して人をして無限の感興を起さしむるもの天下何れの處にか比儔を求むべき。今は先程を猿澤池に起してこの形勝を探らむ。

猿澤池 （奈良停車場の東九町）

猿澤池は周回百八十六間、乃字の狀をなし柳樹四邊を繞り、興福寺の堂塔を見添へて風景頗佳に月色は奈良八景の一に數へられたり。多く魚鼈を養ひ餌を投ずれば群り來る。其西邊に采女社あり、平城朝に仕へたる采女の寵衰へて身を投じたるを祭れりといひ其時衣を掛けたりとて衣掛柳（きぬかけやなぎ）の名を殘せるもの東岸にあり、大和物語に記せる傳說なり。

興福寺

興福寺は猿澤池の北方にあり。藤原氏の始祖大織冠鎌足。蘇我入鹿を誅伐せん祈願の爲、丈六の釋迦を作り夫人鏡女王（かゞみのひめみこ）山城の山階寺（やましなでら）を建立し給ひ天武天皇の朝に高市郡の廐坂（うまやさか）に遷し建てしが平城の朝に及び鎌足の子不比等（ふひと）更に勝地をトして今の處に大伽藍を造營し藤原氏の氏寺とはしたりしなり。其初めは境內方四町あり昌泰の頃猶堂塔

羅舍百七十五字を有したりといふ。藤氏の繁盛に伴ひ朝廷の東大寺を興隆し給へるに對して一門の尊敬を集め伽藍の宏大莊嚴なる人目を驚かせりしに爾後屢風火雷震の災厄に罹り且は中世以降一山の僧徒富勢を恃みて干戈を執り爲に兵燹に罹れることさへありて其興廢一ならず。今は境内縮小して堂宇亦多くは廢滅したるも猶優秀なる佛体寶器を存し現に法相宗(ほつさうしゆう)の本山たり。

金堂は興福寺境内の中央にあり不比等の創始する處なるも屢火災を經て今のは假建立なり、釋迦如來を本尊とし脇士日光月光菩薩四天王立像の外に法相六祖坐像（善珠、玄賓、行賀、善操、常騰、信叡）釋迦如來坐像、帝釋天、多聞天立像等を安す。金堂の北方に講堂趾あり南方に南大門趾あり。

薪能 往昔毎歳二月七日より七日間、南大門の前庭にて春日神事の猿樂を演せり。庭上薪を積みて篝となすをもて薪能の名あり。幕府の時は能料として三百石を充てられ頗盛なりき。

南圓堂 弘仁四年藤原冬嗣先考内麿呂（不比等の曾孫）の遺願によりて創立する所。今のは寛保元年の造立にして八角造り一面三間二尺五寸あり。西國三十三所の第九番にして不空

羂索觀音座像を本尊とし春日大佛師實眼作と傳ふる四天王、安阿彌作と傳ふる千手觀音立像及び、阿彌陀如來坐像等を安す。堂前の藤花は奈良八景の一なり。其北方に西金堂趾あり。

三重塔は南圓堂の南方一段低き處にあり、康治二年鳥羽天皇の皇后待賢門院の本願によりて建立する所、今猶創建のまゝに存し内陣の佛壽堂内綵繪の模樣等猶當時壯嚴の面影を見るべきものあり。

北圓堂は南圓堂の北方にあり、養老五年元明元正二帝、右大臣長屋王に勅して不比等追善の爲に造營せしめ給ひしもの、今のは寛治六年の再興にして八角造り、一面二間三尺あり。境内最古の建築にして三重塔の建立に先だつこと五十年。其建築藤原時代に於て優等のものに屬せり。本尊彌勒菩薩、釋迦如來坐像は定朝の作と傳へられ四天王立像は延暦のものとなす。

東金堂　金堂の東方にあり、西金堂は之と對して南圓堂の北にありしなり。神龜三年聖武天皇太上天皇の御爲に創始せる所、今のは應永三十三年の再建にして本尊藥師如

來両脇士銅像、梵天帝釋、十二神像、運慶の作と稱する四天王、維摩文殊像等を安す。

堂前の花の松は高さ十四間、東西十八間、南北二十二間に廣がれり

五層塔　天平二年光明皇后の創立し給ふ處にして今のは應永三十三年の再建に係り東金堂と共に能く東山時代の趣味を發揮せるものといへり。高十五丈一尺。方四間五尺。

東室は興福寺事務所にして寶藏あり。彫刻の優秀なるに釋迦十大弟子六軀、八部衆八軀あり。皆乾漆にして建陀羅國の佛工文答師の作と傳へられ世親無着の二像最寫生の妙を得たり。其他春日大佛師定慶の作と傳ふる金剛密迹二力士の雄健なるあり、空海の作と傳ふる板彫十二神將の奇古にして比類罕なるあり、康辨の作に係る龍燈鬼、天燈鬼の巧妙なるあり、釋迦如來地藏菩薩、聖觀音の立像、厨子入彌勒菩薩座像等の優秀なるあり、佛畫に絹本の二天王像と慈恩大師像あり。銅器にして古來最有名なる寶器を華原磬となす天平六年文答師の來朝せる砌其國王の献する所といふ、鉦鼓にして

龍を飾れる臺に釣られ其作頗る精妙なり。銅燈臺扉は南圓堂のものにして銘文は橘逸勢の筆と稱し一説に空海の筆といへり、銅鐘は元觀禪院のものにして神龜四年の銘あり、其他有名なる泗濱浮磬、境內より發掘せる銀椀、古版木、古文書等貴重の寺什擧げて數ふべからず。

大湯屋(おほゆや)は東室の南方にあり應永年間の假建にして屋內に口徑四尺五寸、胴廻六尺一寸、高さ四尺一寸、厚二寸五分の大釜あり、一つは外にありて土中に埋れたり、元、興福寺僧徒の浴室にして又衆議所たりしなり。

大御堂　菩提院(ぼだいゐん)といひ俗に十三鐘といへり。往還を隔てゝ南方にあり。天平年間僧正玄昉の建立にして今のは應永年間の再建とす。十三鐘とて寺僧勤行の合圖に六ッ時と七ッ時とに打ちし鐘は此處にありしを今は南圓堂の前に移せり。十三歲の子が石子詰にあひしといふ俗說は妄誕あり。

興福寺の北方なる裁判所はもと興福寺別當一乘院門跡の住房たりし所、縣廳は勸學院のありし所なり。師範學校は觀禪院の舊趾にして門內なる**八重櫻**は東圓堂の趾に栽し

く「古の奈良の都の」名殘を留めたり。師範學校の東の街道に轟橋、雲井阪あり共に奈良八景の一に數へらる。

奈良帝室博物館

奈良帝室博物館は明治二十五年六月初めて工事に着手し廿七年十二月竣工せり。總坪數四百六十四坪餘、中央舘一室、左右舘二室、長方形六室、方形四室を有し歴史、美術、美術工藝の三部に分れ古社寺の寶物名家の逸品を陳列す。殊に古代の彫刻物に至りては遺品の多き此國の上に出づる所なきを以て其陳列せらるゝもの皆優秀ならざるはなし。域内に春日の二基の塔址あり東なるは藤原良房（或は云ふ鳥羽院）西なるは藤原忠實の建立に係れり、此邊古の飛火野の地にして烽火を置きし所といふ。

氷室神社

博物舘の北方にあり仁德天皇鬪雞稻置大山主命額田大中彥皇子を祭る、仁德天皇の御世額田大中彥皇子都介野に遊獵して氷室を見給ひ鬪雞稻置大山主を召して問ひ給ふ所あり氷を齎し歸りて天皇に獻し給ひしは朝廷獻氷の始なり、爾後每年鬪雞の氷室より

献氷するを例とせり、和銅三年遷都に及び氷室を吉城川上郎氷池の舊趾に設け神殿を其傍に作りたるもの是本社の創始にして貞觀二年今の地に遷坐せるなり。寳物に陵王面あり。

春日神社

春日神社は三笠山の麓に鎭坐ましますす官幣大社にして西、一の鳥居より東三笠山の全部を合せて境内に屬せり。其鎭坐の年代に就いては異説頗多けれども今の處に社殿の創建せられたるは神護景雲二年なるが如し。第三殿枚岡（ひらをか）神は殊に藤原氏の祖先なれば一門の氏神として尊敬を集め歷代帝王の行幸さへありて社頭歳を逐ひて繁榮し中世武家の八幡社を尊奉せしより兩社を伊勢神宮に合せて三社と稱し一般の信仰亦薄からず。本社は一の鳥居を距る十餘町の東にありて南面し若宮は其南にありて西面せり。深く人界を離るゝにあらねど樹林鬱茂して神靈の尊嚴を感せしむること他に多く類を見ず。

春日野は一の鳥居より三笠山、嫩草山の麓に至る一帶をよぶ、路の右傍は淺茅原（あさぢがはら）にし

て小亭の設けあり其東圓窓亭邊多く梅樹を植ゑ、雪消澤(ゆきげのさは)は其近傍にありて若菜摘みけむ名殘を留めたり。路の左傍には春日若宮の御旅所、物産陳列所、倶樂部等あり、一歩進むに隨ひて老杉枝を交へ群鹿友を呼び境愈幽に景愈妙なり。先路の右傍に建物を見るは車舍屋(くるまやどりのや)にして貴族御社參の時車を置く所、二鳥居を過ぎて左に祓戸(はらひど)神社あり、社前の石燈籠は祓戸形と稱し名品の一なり。石燈籠は社殿に近づくに隨ひて多く或は古に或は雅に風致を添ふるもの少からず、近時幾分を減じたるが如きも其數猶二千に近しといふ、毎年節分の夜盡くこれに燈を點す頗美觀なり。着到殿の邊より右に入れば社内を流るゝ御手洗川(みたらしがは)を引きて落せる**白藤瀧**あり。其入口の左側に雲卜(うんぼく)の銘ある燈籠あり亦名品の一なり。

春日若宮は天兒屋根命(あめのこやねのみこと)の子天忍雲命(あめのおしくものみこと)を祭る。長承四年の創立にして前に拜屋(はいのや)あり其前なる拜殿は又神樂所ともいひ白衣緋袴の巫子(みかんこ)常に祇候して優美なる倭舞を奉奏する所なり。

手水屋 若宮の南なる石階の下にあり、御供所にして大國主命と其妃とを祭れり。俗

に走元の大黑とも夫婦大黑とも呼べり。柚木燈籠は手水屋の東なる路傍にあり、保延年間攝政關白藤原忠通の寄附する所といふ。若宮と本宮との間にある燈籠を御間形といひ火屋だけは木をもて造れり。三笠山に上らんには若宮より奥に入るべし（二十頁參看）

若宮祭禮は世に御祭と稱し。保延三年關白藤原忠通時の饑饉を憂ひて祭禮を執行したるが始めにて幕府の世には祭祀料玄米二百石を賜はり御旅所を作る假殿の用材贄の鳥獸等は大和全國より課出し祭儀の行列には國中の諸藩旗本皆加はり古來頗盛大なりければ「保延祭は見事な事よ」の童謡を傳へたり。祭儀今は十二月十七日に行ふ、猶古式を摸して遠近の人來集し社頭の雜沓いはんかたなく私祭なれども當國第一の大祭たり。

春日本宮　南門を北に向ひて入る。左方の廊下に小春日神社あり、これ本社創建の前より鎮坐せる地主神なれば本社造營の際には先これよりするを例とすといへり。門を入れば正面なるを幣殿といひ勅使奉幣所にして直會殿といふ。こゝに鳴蟬燈籠とて釣金に蟬を附着し回轉すれば蟬聲を發するものあり。社內の結構廻廊の如きも地盤の自然に隨ひて高低あり、殿宇は屢修造を經たるも其形式古態を存し其配置亦頗趣致ある

を見る。本殿は樓門の內にありて四社相並べり。第一殿は東方にありて武甕槌命を祭り常陸鹿島より御遷坐、第二殿は經津主命を祭り下總香取より御遷坐、第三殿天兒屋根命、第四殿比賣神は河內枚岡より御遷坐ましませり。樓門なる鬼形の釣燈籠に慶長十八年の鐫文あり、樓門前の木柵は稻垣といひ、田植神事に稻を掛くる所なり。大宮の西方にて直會殿の北に續けるは大宮造營の時の遷宮所にして遷殿とよび大宮の西廊に懸れる登廊は斜方形に作りなして捻廊架といひ、今のは左甚五郎の作と傳ふるものなり。

祭禮　嘉祥三年始めて本社の祭禮あり。貞觀元年以來春二月と冬十一月何れも上申日に執行せられ申祭と稱し儀式加茂の祭に同じかりき。明治十九年以後三月十三日に定められ祭儀舊に復し勅使參向ありて頗莊嚴を見る。

寶物は祭器に鼉大皷一對、木造舞樂面（皇仁、新鳥蘇、地久、納曾利、崑崙八仙、）を始め多く舞樂の裝束樂器等あり。武器に友成の作に係る赤銅造太刀、耳木菟短刀、菊作短刀、源義經の所用と稱する籠手一雙、又其寄附に係るといふ兜及び緋威甲冑等あり。

回廊を出でゝ北すれば水谷神社に至る。素盞嗚命外二神を祭れり、昔時は毎歳四月鎭花祭典ありて神樂及能樂ありき。水谷神社の後を流るゝは水谷川にして春日山中上水谷に發源し下流は東大寺南大門前を流るゝ吉城川となる。橋を渡りて北すれば嫩草山にして直に右すれば洞紅葉なり老樹溪流を覆ひ綠蔭夏を知らず紅楓秋を愛づべし。其東に氷池の舊趾あり、これ古氷を結ばしめたる處にして六月朔日朝廷供御の料としたるものなり。此處に日月の形を刻める磐あり、月日の磐といふ。春日山中に入らんにはこれより東に上るべきなり。(二十一頁)

三笠山　大杉、蝙蝠窟、七本杉、

安倍仲麿の詠歌に名高き三笠山(御蓋山)は其形の笠に似たるよりよべるなり。これに登らんには若宮より奥に入る。二町許にして紀伊神社あり、こゝに奥院形と稱する燈籠を据う。行くこと四町ばかりにして大杉あり。周り三十尺高さ六十二尺ありて頗壯觀なり。又上ること三町許、右に少し入れば蝙蝠窟に至る。これ春日祗を掘取りし趾にして中央口廣き處幅五六間、奥行亦相如けり、口の高さ二間許ありて奥に至れば

低し。元の道に返りて更に四町許上れば頂上に本宮神社の小祠を拜すべし。傳へ云ふこれ天兒屋根命の始て鎮坐し給へる處と。社の西の下方に七本杉あり長さ十二間許ある杉の老樹地上に倒れたるに其枝直立して七本の立木とはなれるなり其大なるは周り一丈二尺に及ぶものあり其南方標石のある處より直下すれば本宮社の舊道にして直に大宮と若宮との間に出づべく北すれば氷池月日磐に至るべし。

春日山　鶯瀧、香山、瀧阪、

通稱春日山といふもの春日山芳山、花山の三峯に分れ芳山最高くして其高さ千七百尺餘あり、古來神靈の宅として狩獵伐木を禁し給ひしかば一山鬱蒼として四時佳色あり。月日磐より新道を上ること二十町許中水谷を經て阪路の頂點鳥居前に至る。左すれば殆平に歩みて嫩草山頂に出づべく右に上れば上水谷に至るべし、清泉湧き出で長一間餘の水鉢あり銘して西金堂長尾水船文和二年云々といふ。之より更に下ること十六町鶯瀧に至る高七間幅一間半許、綠蔭清風湧きて最暑を避くるによし更に左すれば二十町にして高山神社に至る社前亦水船ありて銘して東金堂施入高山水船也正和四年

五月云々といふ、北方數十歩に鳴雷神社あり、中世香山龍王社と稱し社前の池に旱魃の際雨を祈れりといふ。之を下りて新路を右に取れば三本杉を經て春日の大杉に還るべし此間三十二町あり途中より右に七町許上れば春日山中第一の大杉周三十六尺なるあり。

瀧阪街道溪流に沿ひ景致幽雅最紅葉を賞すべし沿道附近岩石の佛像を刻せるもの頗多し、榛莽深く封するの間に古人奇古の技術を探る亦一種の趣味あるべし。

香山の南東二町餘に二窟の諸佛を半肉彫にせるあり之より瀧阪街道を横ぎりて南方十町許細徑を分け行けば地獄谷に聖人窟を見るべし、高さ九尺幅十一尺奥行八尺正面の岩壁に釋迦觀音彌陀を刻せり左右は缺損して明に見る能はず、之に並びて又一の岩窟あり。元の街道に出で三町許下れば朝日觀音とて彌陀釋迦地藏を半肉彫にせる岩石あり。又四町許下れば寢佛とて大日如來を刻せる石路傍にあり、此上方亦佛体を刻せる岩石あり。これを西すれば新藥師寺の傍に出づべし。

嫩草山

嘗て火を噴き灰を雨らしゝ一個の火山、今は一面の芝生青氈を敷けるが如く緑樹森發

なる春日山と照映して一段の風致を添ふるもの是を嫩草山となす。段別三十三町高さ千百尺餘あり山容三層をなし俗に呼んで三笠山といふ、上るに隨ひて光景遠く開け大和の平野、山城の連山皆一眸の中に收めて眺矚最佳なり。此山東大興福兩寺の境界なれば所屬の爭より遂に南都五大寺の預りとなり雙方立合の上之を燒拂ひて和解せしことありしより今に至るまで每春芝草を燒拂ふを例とせり。「今日はな燒きそ若草の妻も籠れり我も籠れり」の歌に名高き武藏野はこの西麓をいふとぞ。

手向山神社

手向山は嫩草山の北に隣り紅葉に名あり。縣社手向山神社其麓に鎭座ましませり。初め聖武天皇の大佛を造らんとし給ふや豐前なる宇佐八幡の神慮を窺ひ其加護を祈り給ひしより天平勝寶元年像成るに及びこゝに鎭祭して其守護神とはし給ひしなり。（初め宮南梨原宮に鎭座し後大佛殿の東南に移り建長二年更に今の處に移り給ひぬ、鎭祭の當時八幡大神に一品比賣神に二品を授け給ひしは神に授品せる始なりといへり）往古の勅祭は天文八年まで行はれ轉害會と稱し附近六國の殺生を禁斷したりき。寶庫の祭器は皆これに用ゐられたるものにして中には往古鎭祭當時のものを存するあり。鳳輦、葱花輦は古式を

存して史家の參考に資すべく木造舞樂面十五面、天平年間の作と稱する四枚居木、黑漆螺鈿の唐鞍等最優秀なり。南方に若宮あり仁德天皇を祭る社前の石壇下にある春日社の燈籠には文治二年僧勇尊奉納の銘あり世に八幡形とよぶ。

東大寺

東大寺は南都七大寺の一にして八宗兼學、華嚴宗の總本山たり。時は文物最隆盛を極めたる平城朝に於て最佛法を尊敬し給へる聖武天皇の行基、菩提、良辨と共に力を戮せて創始し給へる所、奈良といへば直ちに世人の想ひ起す大佛は實に其本尊なり、元水田一万町寺封五千戶を寄せられ境域方八町に亘り大日本總國分寺として朝廷の尊崇最厚かりき。其規摸たる大佛殿中央に南面して步廊之を繞り南に南大門あり、北に大講堂趾あり、西に正倉院戒壇院等あり、東に二月堂、三月堂、四月堂、開山堂、鐘樓等山に據りて相並べり。東西に對立せる七重の高塔は最壯觀を添へたるべきも久しく再建を見ず、今の京都街道に開ける三門も唯一の轉害門を殘すのみ、舊時に比すれば境域亦大に縮小せりと雖猶儼乎たる大伽藍たり。

三月堂　は天平五年良辨僧正の開創したるものにして大佛の建立に先だつと十五年、實に奈良第一の古建築たり。桁行十間餘梁行十四間餘、屢修繕を經て前方の如き鎌倉時代に補ひ建てたるものなれども內部はよく其舊觀を存し貴重の建物なり。堂內安置する處乾漆若しくは塑像の鉅作にして皆天平の盛時に成れる優物とす。本尊不空羂索觀音（乾漆長一丈二尺、傳良辨作）と日光月光二佛（塑造形長六尺八寸）中央の壇上にあり、本尊の寶冠は無類の物となす。其左右にあるもの梵天帝釋二天（乾漆、長一丈三尺二寸、傳行基作）金剛密迹二力士（乾漆長一丈傳行基作）辨財天、吉祥天（塑造長六尺八寸）四天王（乾漆長一丈）あり。執金剛神（塑像長五尺五寸）は背面の厨子中に安置し古來秘佛にして良辨の念持佛と稱す亦神品たり。

二月堂　又羂索堂と云ひ天平勝寶四年良辨の高弟實忠和尙の建立する所、今の堂は寬文九年德川家綱の再興に係れり、本尊は十一面觀音の銅像にして別に人身の暖みありといふ秘佛の小觀音あり世人信仰最深し。每年三月朔日より二七日の間修二會の行法あり、實忠和尙の行ひ始めし處、其十二日に大松明を下の廊より堂上に持ち上りて僧の籠所より昇る道を照すを以て俗に大松明といひ又廊の下なる若狹井といふ閼伽井よ

り同日夜半に七荷半の水を汲取り堂内に納めて香水となすを以て御水取ともいふ。此行法元は二月に行はれしより二月堂とは呼べるなり。

開山堂　若狹井の西南にあり、寛仁三年の造立にして良辨堂ともいひ傳自作の良辨僧正坐像を安置せり、東面に實忠和尚の木像あり。三昧堂は開山堂の南に隣り俗に四月堂といふ。鐘堂は其下方にあり、鎌倉時代の建築にして柱の配置、組物の手法巧妙を極め雄健莊重の態度を見る。鐘の高さ一丈三尺六寸、口徑九尺一寸廻二丈七尺厚八寸、費す處熟銅五万二千六百八十斤、白鑞二千三百斤、天平勝寶四年鑄造のものといふ。念佛堂は其東にあり、地藏菩薩坐像千手觀音立像を安す。行基堂其北にあり、淨土堂其西北にあり本尊阿彌陀、傳自作の俊乘上人坐像を安す。行基堂の下に大湯屋あり、建久年中の建築を公慶上人の修造せる者、昔時僧徒の浴室たりしといふ、大釜水二十八石を容るべきものあり。

大佛殿　是東大寺の金堂にして回廊を繞らし正面に中門東西に樂門ありもと天平十九年に功を起し天平勝寶三年其大体の構造を終れる空前の大建築なりき。治承年間平重

衡の兵燹に罹り建久六年源頼朝大檀那となり重源勸進して再興ありしを永祿年間亦三好松永の戰亂に遇ひて再烏有に歸しぬ。今のは元祿年間公慶上人の勸進により再興せるものにして其十四年に工を起し寶永五年に至りて落成せり。其規摸舊時のに比すれば頗縮小せるものあり、其砌の面積は七割一分建物の面積は六割六分內陣面積は四割四分となれり。

當初	現今
二重　十一間	二重　七間
高十五丈六尺	十五丈六尺
東西長二十九丈	十八丈八尺
廣十七丈	十六丈六尺
基砌高七尺	六尺餘
東西砌長三十二丈二尺	二十二丈三尺
南北砌長二十丈六尺	二十丈二尺

本尊大佛　聖武天皇天平十五年を以て盧舍那佛(るしやなぶつ)建立の大叡願を發したまひ始め近江の

信樂京に造らんとし給ひしが之を中止して更に平城京に移し給ふことゝなり天下に勸財して幾多の經營を重ね天平十七年より天平勝寶元年に至る三年間に八度の改鑄を經て初めて成就したるもの、高五丈三尺五寸、面長一丈六尺廣九尺五寸、目長三尺九寸、口長三尺七寸他之に稱ふ、銅坐大小五十六枚高一丈彫刻の圖樣天平の筆意を窺ふべきものあり、實に我國に於ける古今の大作にして時の佛工長は國中連公麻呂、冶工長は柿本男玉、高市眞國、高市眞麻呂等なりき。四年四月開眼供養あり、此日天皇上皇行幸し給ひ文武の百官之に供奉し儀式の盛なる前古未だ曾て見ざる所なりしといふ。佛頭は治承の兵火に燒け落ちしを宋の佛工陳和卿之を修補し永祿に再落ちしは筒井氏の一族山田道安之を修補したり、

大佛殿前に銅燈籠あり八角にして高さ一丈三尺、火屋に菩薩走獸等を鑄出し燈柱には經說を彫れり。天平年間の鑄造にして陳和卿の修造を經たり、

大佛殿中門前に鏡池あり、一に八幡池といひ八幡祭日に生を放ちき。

東南院は池の南にあり。初め聖寶僧正の住坊たり後、後白河法皇、後醍醐天皇こゝに

幸し給ひて御坐所となりしことありき。天皇殿あり聖武天皇を奉祀し、校倉あり寶物を藏す。佛像に良辨念持佛と稱する彌勒菩薩坐像、金銅の誕生釋迦佛及灌佛盤、觀音、釋迦、多寶塔如來の銅像、胎內木札に治承二年の銘ある多門天像、快慶作僧形八幡神像等あり、樂器に伎樂面四十四面、舞樂面九面の如き漆器に大講堂の所用と稱する黑漆螺鈿の卓、黑漆密陀の花鳥畫箱の如き鍍金の舍利塔、舟形後背、聖寶僧正の所用といふ玳瑁如意(一に五獅子如意)の如き天平年代の所製と稱する染革の如きあり。繪畫には華嚴五十五所畫讃の掛幅同圖の古繪卷物、香象大師畫像、倶舍曼荼羅、蔡山の十六羅漢、芝琳賢、古磵の繪卷物等あり。經卷には大毗婆娑論、賢愚經等を始め優品多く聖武天皇宸翰と稱する西大門額、東大寺要錄及續錄其他古文書、佛書等珍什頗多し。

南大門は東大寺の總門なり一度大風に倒れたるを正治元年修造せるものといふ、外部の二王は西方金剛力士運慶作、東方密迹力士湛慶(或云快慶)作といふ、共に長二丈六尺五寸二王中の大作たり。北面に陳和卿作と稱せる石造獅子の名品あり高五尺八寸五分。

眞言院は南大門の西北にあり、勸學院は大佛殿の西にありて空海の灌頂道場を開きし所、戒壇堂は其西方に在り堂內に戒壇あり初め唐僧鑑眞大佛殿の前庭に造り天皇皇后太子大臣等皆受戒せられしがやがて此處に移されたりといふ。堂內に塑造の四天王立像あり天平時代傑作の一なり。大佛の西廊の外を北すれば正倉院の前に出づ、これより東すれば知足院に至るべく、西すれば轉害門に出づべし。此門佐保路門とも景淸門ともいふ、手向山祭禮を行はれし處にして舊都一條通の東端に當れり。

正倉院

正倉院はもと東大寺の境內なりしを王政復古の後帝室の有となりたり。これ孝謙天皇光明皇后より聖武天皇七々の忌辰に當り冥福を祈らせ給はんため大佛に獻納せられし御物を藏めんとて造らせ給へるもの所謂校倉にして三稜の大材を疊みて四隅を井樓の如く合せたり、長さ十七間許ありて三戶前に分れたれば三藏ともいひ古來勅封にして開閉頗嚴重なり。其藏する處の寶器無慮三千點、劍鏡、武器、樂器、佛具、服飾品、文房具、翫弄具、圖書、藥品、香料等あり。中には傳來の者なきにあらねど多くは當

代に製作せられたるものにして當時各種工藝美術の發達を知るべく歴史の參考に資すべし、中にも蘭奢待の香木は足利義政織田信長等の寸片を切りて珍襲したることあり、鴨毛の屏風と共に古來俗間にも膾傳せられたり此無二の寶庫が一千一百餘年の今日に至るまで天災兵火に罹らず保存せられたること鬼神の呵護ともいはまし。

今は公園外に於ける奈良市内の社寺名勝を探るべし

轉害門を北すれば三町にして佐保川を渡る、鶯の瀧は其水源にして下流を奈良川ともいふ、螢を以て奈良八景の一に數へられたり。其北方に北山十八間戶あり鎌倉極樂寺の忍性菩薩が病者乞丐の徒を集めて入浴せしめたる所なり。

般若寺は眞言律宗にして轉害門の北方九町にあり、白雉五年孝德天皇不豫の御爲に蘇我日向臣の創始したりしを聖武天皇の時官寺となしたるもの、屢興廢を經て今は大に衰へたり。金堂には本尊文殊菩薩を安し經藏には今觀音を安す樓門は鎌倉時代の建築に係れり。十三重石塔は聖武天皇の建て給ひしものにして高五丈餘あり、今其前に

笠卒塔婆とて上に石蓋を戴ける石二基並び立てり、これ弘長元年宋人伊行吉其父母の爲に建つる所にしてもと寺の南方にありしをこゝに移したるなり。**實物**には嵯峨天皇宸翰と稱する寺門扁額、嘗て大塔宮の隱れ給ひしといへる黑塗辛櫃等あり。

元明天皇陵は般若寺を五町許北して四町許西に入りたる所にあり陵上碑石ありといふ（文に曰く大倭國添上郡平城之宮馭宇八洲　太上天皇之陵是其所也養老五年歲次辛酉冬十二月癸酉朔十三日乙酉葬）**元正天皇陵**は其西方四町にあり又其西南六町の山中に**聖武天皇皇太子墓**あり四隅に隼人石を据ゑたり、世に七匹狐といへるものこれなり。**聖武天皇陵仁正皇后陵**は相並びて其東南四町許にあり（地佐保村法蓮に屬す轉害門の西方五町大佛停車場の東方三町）陵上嘗て眉間寺を建立したることあり。松永久秀の築ける多門城は此邊を籠め佐保川を前にして構へたるものなりといふ。**開化天皇陵**は猿澤池の西方五町許にあり（奈良停車場より東四町）其東に漢國社あり園神（大物主命）韓神（大巳貴命少彦名命）を祭り南方に率川坐大神御子神社あり大神神社の攝社にして神武天皇の皇后外二神を祭り俗に子守の社と稱す共に推古天皇の朝の創立なり。

極樂院は猿澤池の南方二町許にありもと元興寺の子院にして律宗に屬し本堂に本尊

阿彌陀如來（乾漆、傳稽文會、稽首勳作）を安す。寶物五重塔高一丈五尺餘百濟の工匠が元興寺の塔を建立する時雛形として作れるものなりといへり、又智光感得と稱する曼荼羅圖あり。

元興寺は極樂院の南方三町にあり、初め蘇我馬子、聖德太子と相議りて高市郡飛鳥に創始したるを元正天皇の時此處に移したるものにて七大寺の一に居り規模頗宏大なりしが今は廢頽して見るべきものなし、唯彫刻に十一面觀音、藥師如來等の像あり。今華嚴(けごん)宗に屬す。

十輪院は元興寺の東二町にあり、眞言宗にして聖寶の開基に係る。空海亦こゝに住し朝野魚養に就きて筆法を學べりといふ。魚養書を能くす藥師寺の大般若經は其筆する所なり、寺内に其墳墓あり。禮堂は奈良朝の宮殿の一部を賜はりしものといへど今のは鎌倉時代の建築なり。護摩堂の本尊は空海の作と稱する石彫の地藏菩薩にして石窟中に安置し石の扉には諸佛像を刻せり。

璉城寺は十輪院の南三町にありて阿彌陀を本尊とし紀寺(きでら)と稱す。行基の開基にして紀有常の再興する所といふ。（或は云ふ天智天皇の御宇百濟高麗の譯語(をさ)等の建立する所に係るも）今天台宗なり。

福智院は璉城寺の北三町にあり。天平八年玄昉の創始せる清水寺の趾に就きて建長年間大乘院實信僧正の再興したるもの、本堂地藏堂は稽文會の作と稱する夾紵漆の地藏（高一丈三尺五寸）を安す。

頭塔は福智院の東三町にあり、塚上の五輪は玄昉の首塚と稱す、塚の周圍に佛像を刻せる石多し。

新藥師寺は頭塔の東七町、華嚴宗に屬す。聖武天皇御眼病平癒祈願の爲行基に詔して建立せしめ給ひしものにして本堂は天平年間東大寺大佛殿造營の殘木を以て建立せりといふもの、創立のまゝに存せり。本尊藥師如來坐像長六尺傳行基作といふもの、十二神將塑像傳鳥佛師作と稱す、（本岩淵寺のものなりしを此處に移せるなりと）其他聖武天皇御祈念佛と稱する藥師如來銅像、千手觀音像絹本の佛涅槃圖等あり皆優秀なり。

白毫寺は新藥師寺の東南九町にあり（東市村に屬す）眞言律宗にして阿彌陀如來を本尊とす地藏堂又閻魔堂と稱し小野篁作と稱する閻魔王坐像を安す。後方に聳ゆるものは高圓山にして春日離宮のありし處、名所にして月に萩に古來詠歌多し。

奈良の市内猶名家逸人の遺跡を求むれば東山公に仕へし有名なる茶人珠光嘗て北袋に住す、其沒めりといふ井は菖蒲池の稱名寺にあり。明智光秀と唱和したる連歌師紹巴は嘗て南市に住み、節用集の著述を以て有名なる饅頭屋宗二は林小路に住めりといふ。百萬辻子に住みたる百萬は謠曲に其名を留め東向中町に住へる大石瀬左衛門は四十七士の列に加はりぬ。劍工千壽院の趾は嫩草山の麓に其の谷の名を殘し鎌槍の祖寳藏院の趾は博物館に其處を失ひぬ。大佛の修造に大功ありし宋の陳和卿は水門に住し劍工包永と彫工後藤とは大字に其名を殘し、甲冑の製造に妙を得たる岩井與左衛門の宅と猿樂四座の一なる金春の屋敷とは相並びて漢國社の北にありき。其他一々は擧ぐるに遑あらざるなり。

南都賦

汶郎

あをによし奈良の都は御さふらひ三笠山の麓なり、元明天皇和銅二年藤原の宮より此京に移さる、大宮殿、大佛殿、佛神をあがめて、王法を輔く。若宮のやしろ、月日の宮、竈殿、尾上の宮、鏡の神は橘の廣繼をまつり、淨雲の宮は鹿島立の始とす。氷室、率川、東大寺の八幡、二月堂に若狹井あり、三月堂、四月堂釣鐘は久我の入道の詩をとゞめ、大門の折釘は、源頼朝の幕を張る。興福寺は七堂伽藍、はじめは山階寺といひ中比は馬屋寺と號す東金堂、中金堂、食堂、講堂、南圓堂には補陀落の藤をうつし順禮の札を納め東圓堂にはいにしへの八重櫻を殘して花垣の庄を領す。西金堂の樂をあらため、南大門を移して薪の能をはじむ。七度半の使に四座の猿樂をめす、雨天には紙を踏んで試み夜陰には薪を積んで焚く、保生が鉢の木に名人の號を取り、大倉が芭蕉に達人の名をあらはす。水屋の能、若宮の能、春日祭、御祭、素絹に大衆の顏をつゝみて大

華表につらなり、錦を着て松の下に弓矢の立合を舞ふ、頭屋の兒は牀木に腰をかけ、赤衣の仕丁は棒を横ふ、大名馬、大名槍、大太刀持、小太刀持、競馬、流鏑馬、長谷川黨は、甲冑を帶し、射手の兒は綾藺笠に弓矢を持つ、關白代は、束帶して藤の花をかざし、パチヨの兒は供つれて、腰に木履をつくろ。ハイケンの神子、奈良の神子、細男、氷室付の樂人、トカミ、柏手は、仕丁の宿老、頭屋の御幣、田樂のビンザロ、春は二月の雪をちらし、冬は霜月の花をさかす。手向山に菅家の紅葉を詠じ、武藏野に業平の若草をよむ、雪消の澤、野守の池、御手洗川、佐保川、一位、二位、五位の橋、馬出、轟、故鄕の橋、鷺の瀧、青龍の瀧、森は神垣、手分の杜、地獄谷、千手谷、釼塚、逢火塚むら雨のたえ間には雲井阪に晴を祈り、雉の羽音には、若草山に眠をさます、鹿は春日野に臥し、魚は猿澤の池に浮ぶ。衣掛柳、良辨杉、夜泣の地藏、文使の地藏、元興寺の鐘は、鬼の手の痕になだれ、十三鐘は、七ツ六ツの間につく。角寺、紀寺、般若寺には大塔宮を隱し、何がしの坊には義經の鎧をとゞむ、重衡は治承に燒き、松永は永祿に亡す、俊乘坊の跡をふんで龍松院は願をおこす、與懸石は伊勢の御の眺望をなし柳綠花紅の碑は紹巴翁のしるしとかや、華原磬、泗濱石、蘭奢待の伽羅、鴨の毛の屛風、柳生家の劍術、寶藏院の十文字、法花寺の作り犬、西大寺の豐心丹、法輪味噌、力饅頭、奈良漬、奈良酒、奈良こんがう、奈良團扇、墨、曝、世に名高く、打箔、中繼は此京より起る岩井が具足、文殊が打物、膠、綠青、粗、鼓の皮、土風呂、灰炮烙、櫟、木練、なら茶はヤザウと名づけ、嘉食を硯水といふ、油煙取、五合爾宜、乞丐坂の石、穢多村の木格子、赤きものは頭屋の赤飯にたとへ、痩たる人は金堂の餓打といふ。木辻の待宵、鳴川の別れ、情に萬金を盡し、思ひに一命を輕んず。口は七口、縣は八縣、町々に御門の名ありて、五條三條の巷をわかち夏冬の朝起、春秋のなりはひ諸國にすぐれ、諸人にこえたり。是皆舊都のありがたき、遺風なるべし。

法華寺本尊十一面觀音木像

同寺阿彌陀如來畫幅

十一面觀世音：：：意匠手訣とも精妙を極め全身を右脚に支へて稍体を斜ならしめ左足は踏み出だして輕く指端を上げ右手は印を結び左手は膝下に垂れて衣端を拈す丶其配合妙に宜しきを得て自ら優美の趣を顯はせり。特り顔面は正眼儼然として大光普照救世を誓ひ大悲を衆生に施さんとするの風貌を具ふ。彫刻に於ては故らに細巧を用ゐず丶然かも刀鋭く而滑かにして非常なる熟練を表はせるものなり。實に聖武天皇時代遺物中最優等の像と稱すべきなり。

（美術略史稿）

平城舊都圖

朕祗奉上玄、君臨宇内、以非薄之德、處紫宮之尊、常以爲、作之者勞、居之者逸、遷都之事必未遑也、而王公大臣咸言、往古已降、至于近代、揆日瞻星、起宮室之基、卜世相土、建帝皇之邑、宗鼎之基永固無窮之業斯在、衆議難忍、詞情深切、然則京師者百官之府、四海所歸、唯朕一人獨逸豫、苟利於物其可遠乎、昔殷王五遷、受中興之業、周后三定、致太平之稱、安以遷其久安宅、方今平城之地、四禽叶圖、三山作鎭、龜筮并從、宜建都邑、宜其營構、資須隨事情奏、亦待秋收後令造路橋、子來之義勿致勞擾、制度之宜令後不加

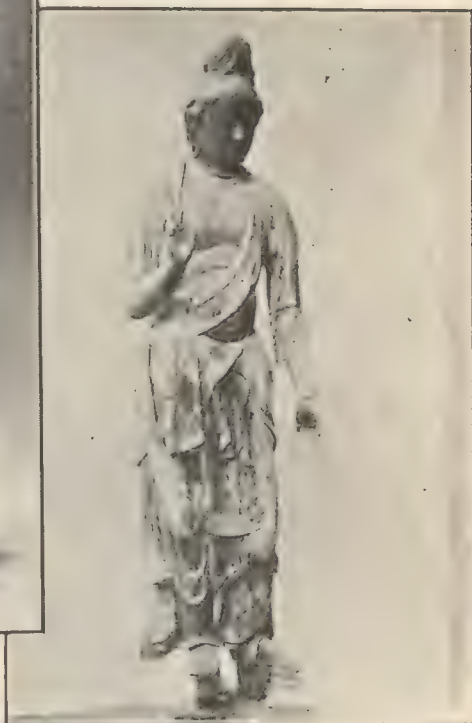
（和銅二年二月遷都詔勅）

あをによし奈良の都は咲花の
にほふが如く今さかりなり　（万葉）

ならの帝の御歌

ふるさとゝなりにしならの都にも
色はかはらず花は咲きけり　（古今）

西大寺舍利塔

秋篠寺技藝天

西大寺經卷

伎藝天、體度豐滿にして贅肉なく容貌窈窕にして婀娜ならず一見愛すべく馴るべきが如くにして諦視すれば畏るべく敬すべし而して狎るべからず天女の妙相玆に極まる　（國華）

長き夜のいこまおろしや寒からん　（玉　二）
　秋篠の里に衣うつなり

さりともと西の大寺たのむかな　（夫木集）
　そなたの願ともしからしを

以前資財記自寶龜十一年九月至于同年
十二月僧綱已綱衆僧共相商量依本納帳
訂會勘定錄顯如件
寶龜十一年十二月廿五日
少都維那修行滿位證瓊
（西大寺流記資財帳）

本尊盧遮那佛

唐招提寺金堂

延暦二十二年正月戊戌律師傳燈大法師如寶言、招提寺者斯大唐和尙鑑眞爲聖武帝所建也、天平寶字三年、勅以沒官地賜之名曰招提寺、又以越前國水田六十町備前國田地十三町宛給供料令學式法　（日本後紀）

此御堂元亨三年癸亥春三箇月之間成上葺畢以此次同六月候西方鮪作賛之作者壽王三郎大夫正重　（金堂鴟尾銘）

南都招提寺の講堂は平城宮の朝集殿を云傳ふ予其結構を見るに朝集殿の結構に非ず金堂の結構を詳にするに間架結構疑ふべくもなき朝集殿なり（藻井及土壇は當時金堂となして設くる所朝集殿の結構に非ず）材の美も諸堂の及ぶべきに非ず講堂を朝集殿といふ說は古來より誤りを傳へたるものと見ゆ　（好古小錄）

わかばして御目の雫拭はゞや　芭蕉

藥師寺本尊

臺座圖形

神功皇后像

金堂一宇二重二閣五間四面柱高一丈九尺五寸佛壇長三丈三尺廣一丈六寸高一尺八寸以馬瑙爲餝石以瑠璃爲地敷之以黄金爲縄堺以蘇芳造高欄以紫檀爲内殿天井障子以鐵縄釣天蓋寶四端交互白輝寶珠及半月等不可稱計

（流記抄）

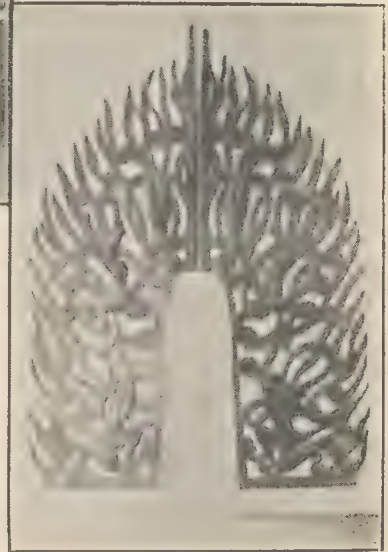
藥師佛并に脇士日光佛月光佛

銅鑄物にして中尊は臺座とも一丈四尺脇士は蓮座とも一丈三尺あり。此像は當代の傑作にしてしかも東洋造像術の一大發達を告げたる標識とも認むべきものなり。……今此の藥師三尊佛の樣式を案ずるに全体は支那唐朝の式にて姿勢雄偉にして手足衣文何れも寫眞に成り裝飾は餘り繁雑ならずしてしかも配合の宜しきを得たり。臺座も形狀よく調ひて縁には青龍白虎朱雀玄武又葡萄草の摸樣あり。側板には邪鬼形を鑄出せり

（美術畧史稿）

藥師寺吉祥天

同寺三重塔

同塔水煙

高さ凡十六丈空輪の長さ五丈ほと有とそ。さても九輪の心柱をくゝみて屋の上におほひたるを露盤といふ。方五六尺もあらんか。高さは二尺はかりあり。露盤のうへに上のひらきける鉢のさましたるものゝふちに手をかけていきみて露盤にのほる。年ころ開わたりぬる銘文は心柱の西の方にゑりてあり。塔の心柱をは擦といふよし順朝臣の和名抄に見えたれは擦の銘といふへきなり。世人の露盤の銘といふはあやまりなり。扨露盤の上に立たれば九輪の第一胸の上にあり。銘はその下にあれはいとよく見ゆ。かねにゑりたるものなればいとあさやかなり。すへて此度のことは夢のことおほゆるにこれはましていへはおろかなり。此銘文は世人もあまねくしりたることなればうつさず。天武天皇卽位八年とかゝれたるは日本紀とたかひてかの親王の御手にてはいかにやあらんといにし年いふかりおもへりしが或人の是はその折からの實錄ならし日本紀撰定の時にいたりては筆をまけさせ給はんもよりところ有へきにやとそいはれし

（道の幸）

この吉祥天女の像は布に畫きしものにして、長さ一尺八寸あり。今より九年前藥師寺內の鎮守八幡宮より發見せらる。正に聖武天皇時代の作なるべし。その裾又は手の邊處々剝損せるも。容姿優美にして着色亦華麗なり。面相は日本樣にして前の樹下美人の畫に類せり。此の吉祥天女の衣服は素より佛像式の莊嚴なれども深紫の衣淺綠の襴など此の時代の內親王女王などの服制に倣たり。或は當代高貴の肖像に憑りて畫きしものなるやも圖るべからず。

（美術略史稿）

維清原宮馭宇
天皇卽位八年庚辰之歲建子之月以中宮不悆創
此伽藍而鋪金未遂龍駕騰仙太上天皇奉遵前緒
遂成斯業照先皇之弘誓光後帝之玄功道濟郡生
業傳曠劫式於高躅敢勒貞金
其銘曰
巍巍蕩蕩藥師如來大發誓願廣運慈哀
猗歟聖王仰延冥助爰餝靈宇莊嚴調御
亭亭寶刹寂寂法城福崇億劫慶溢萬齡

（三重塔擦銘）

奈良郡山附近　（平城舊都域）

大化革新の後制度文物日を逐ひて面目を改め都域の規摸亦舊時の簡樸に安んじて屢所を遷すを便とせざるものあり、元明天皇和銅二年遷都の大詔を下し給ひ經營百方茲に古來曾て見ざる大都域は構へられぬ。地は添上添下（今の生駒郡）兩郡に跨りて東に春日高圓の諸山を眺め北に佐保、佐紀の諸山あり西に生駒の連山を望む、所謂三山鎭を作し四禽圖に叶ふの處にして南北三十町東西二十五町、縱横九條の大路を通じ其中央南北に通せるは朱雀大路（すざくおほぢ）にして左右の兩京を分ち宮城は其北端にありて諸官省皆具備せざるはなかりき。七朝七十餘年の間「さく花の匂ふが如く今盛なりし奈良の都も桓武天皇都を平安に遷し給ふに及び幾ばくもなくして都域道路變じて田畝となり「世の中は常なきものと今ぞ知る」の嘆あらしめぬ。然れども一面の平野猶舊時を回想すべきものあり轉害門より西する街道は一條通に當り三條通亦今に其線を改めず二條より九條に至る地名は各所に其形見を殘して條坊

の田塍（でんとう）の間に存するもの少からず大極殿趾の儀として今に犁鋤（りじよ）を入れざるあり、郡山の東方には都城の正門たりし羅城（らしやう）門趾の存するあり、平城朝佛敎隆盛の間に構へられたる西大寺、唐招提寺、藥師寺等の大伽藍は右京の西端にありて南北に相望めり、左京の大安寺亦七大寺の一なりしも今は僅に遺趾に小堂を設けたるのみ。今は先一條通を西して此平城舊都域の名勝を探らむ。

興福院（こんぶゐん）佐保村法蓮、淨土宗　は聖武帝陵の西方六町にあり、もと聖武天皇の御學問所を和氣清麿に賜ひて寺院としたるものにして寛文年間生駒郡興福院より今の處に移せるなり。

不退寺　同村、興福院の西方八町眞言宗　平城天皇の皇居なりしを御孫在原業平の寺院とせられたるものにして業平の作と傳ふる聖觀音像及び五大明王を安し寶物に金銅舍利塔を藏す。塔の[illegible]層以下を殘せるに鎌倉時代の摸樣を見るべきあり

海龍王寺（かいりゆうわうじ）佐保村法華寺不退寺の西方六町、律宗　法華寺と共に藤原不比等の屋敷跡なりしを伽藍としたるものにして始め僧玄昉を棲ませたりき。本堂に十一面觀音文殊菩薩傳運慶作を安し西金堂內に高一丈五尺の五重塔を置く、塔は西大寺の雛形にして叡尊の作る所と傳ふ建築家

の稱して天智式と呼ぶものに屬す。寶物に毘沙門天畫像（傳空海筆）寺門勅額（傳聖武天皇宸筆）等あり。

法華寺（ほっけじ）　佐保村法華寺 古義眞言宗、

法華寺は海龍王寺の西方にあり光明皇后の御願により聖武天皇の東大寺を造營して女人不入とし給ひしよりこゝに尼國分寺を建て男子不入の地とし給ひしなり、今の本堂は豐臣秀頼の再興にして片桐且元奉行たりき。本尊十一面觀音は高三尺二寸、傳へて文答師が光明皇后の尊影を摸したるものといふ當代製作中優秀なるものゝ一にして古來秘佛として尊重せられき。其他佛体に天平時代唐土傳來といふ乾漆の維摩居士坐像、佛頭、二天頭等あり繪畫に絹本彌陀三尊及童子像三幅あり古來光明皇后御臨終の際に揭げ奉れるものといひ千年以外優秀のものたり、此他寶什に浮牡丹摸樣の青磁香爐唐銅花瓶等を藏す。

●●●極樂寺西方にあり淨土曼荼羅圖（傳淸海曼荼羅）を藏す、もと超昇寺のものにして極樂院當麻寺のと共に大和の三曼荼羅と稱せられたるものなり。

大極殿趾　都跡村佐紀

法華寺の西方七町許、芝地あり東西廿一間、南北七間、田面より高きこと六尺許これ實に大極殿の舊趾にして今大極の芝とよぶ後方に小安殿あり前面に龍尾道あり十二堂、中門、朝集殿、閤門、步廊等の遺趾歷々として今猶見るを得べし。其西北三町に雜木繁茂する處を大宮とよぶこれ內裏(だいり)の趾なり。其西方に榁(むろ)の樹の生ふる所「ダイの宮」といふ內裏宮の訛稱なりといへど其何の趾なるかを詳にせず。

諸陵　平城天皇陵は大極芝の北方三町にあり磐之媛(いはのひめ)(仁德天皇皇后)陵は其東なる佐紀池の北方にあり池の東に二個の大なる車塚の並べるは大鍋山小鍋山といひ古來元明元正二帝の陵と傳說したりしものなり。日葉酢媛(ひばすひめ)(垂仁天皇皇后)成務天皇、孝謙天皇の三陵は相並びて平城天皇陵の西方七八町の處にあり、神功皇后陵は又其北方五町許にあり。野見宿禰(のみのすくね)が始めて埴土(はにつち)を以て人馬等の形を作りて殉死に代へたるは日葉酢媛陵なり。

秋篠寺　平城村秋篠、

秋篠寺は神功皇后陵の西方九町にあり、光仁桓武両帝の本願にして寶龜十一年善珠僧

正の開基に係り勅封一百戸を賜へる大伽藍なりしが後兵火に罹り漸次衰廢して今は僅に講堂を殘すのみ。藥師如來を本尊とし始め法相宗なりしが今淨土宗に屬せり。佛像の優秀なるに十一面觀音、技藝天（傳運慶作）救脫菩薩（傳法橋作）梵天（傳安阿彌作）大元帥明王（傳法橋作）帝釋天等の立像あり

香水閣　傳へ云ふ昔山城國小栗栖の常曉阿闍梨當寺に參籠して曉の閼伽を結べる際井中に大元帥明王の影浮びしより其上に堂宇を建てたるなりと

西大寺

（伏見村西大寺、秋篠寺の南十町許、奈良より一里十町、）

西大寺は眞言律宗の本山にして七大寺の一なり。天平神護元年孝謙天皇の勅願に成り僧常騰の開基に係る。屢火災に罹りて衰頽せしを鎌倉時代の碩德叡尊（諡して興正菩薩といふ）再興して律宗の大道場とせり。其後堂塔亦燒失し今のは皆其後の造營に係れり。**本堂**は寶曆二年の造立にして叡尊作と傳ふる釋迦如來を本尊とし文殊、彌勒、四佛等を安し**愛染堂**には愛染明王を本尊とし自作と稱する行基菩薩の像を安す。**觀音堂**は本堂の東方にあり十一面觀音立像（長一丈六尺）を本尊とし四天王像を安す四天王は天平神護元年孝謙天皇玉

手を以て熟銅を攪り給ひて成りしといへる靈像の形見にして泐鬼は當時のものを殘し頗優秀なり。寶物は空海筆と傳ふる十二天畫像、十六羅漢屛風、金銅舍利塔四種（一は龜山天皇の勅封を稱し二は叡尊感得を稱し一は瓶形のものなり）金光明最勝王經（跋云天平寶字六年百濟豐虫敬寫）大毘盧遮那經（跋云天平神護二年吉備由利奉寫）資財流記（寶龜十一年十二月勘奏）古文書等珍什頗多し。豐心丹は當寺より發賣す其處方は道宣律師唐土より傳來する所といひ一說には畠山某の傳ふる所なりしを當寺大衆の其爲に働きたる賞として處方に三百石を添へて寄附したるものともいへり。奥院は西方三町にあり五輪塔婆を立つ興正菩薩の墓といへり。

菅原

（郡跡村菅原、西大寺の南八町奈良より一里五町）

菅原はもと此邊の大名なりしが今は西大寺の南方なる伏見村の大字たり。菅原氏の祖野見宿禰の土師姓を賜ひしより子孫長く此處に住へり、其始めて菅原の姓を奏請せしは菅公の曾祖古人なり。菅原神社は菅原氏の祖廟にして天穗日命野見宿禰に菅公を配祀し菅原寺は喜光寺ともいひ行基菩薩の寂せる所なり。其南方四町なる車塚の大陵は垂仁天皇陵にして池中に田道眞守の墓あり。田道眞守は垂仁天皇の詔を奉し。非時

香果を常世國に求めて歸りしに天皇既に崩御したまひしかば號哭して死せりといふ。西方十町許に安康天皇陵あり

唐招提寺

都跡村五條、垂仁陵の南五町奈良を距る一里餘

唐招提寺は律宗唯一の本山にして古の十五大寺の一、西大寺衰微の後には當寺を七大寺に加へたることもありき。天平勝寶八年聖武天皇を始め皇族大臣に菩薩戒を授けたる唐の高僧鑑眞天皇の御爲に新田部親王の舊宅に就きて創建する所、屢沿革を經て東西兩塔の如きは既に失はれたりといへども金堂は當時の建築を存し北に講堂あり東に禮堂舍利殿相並び西方に戒壇跡あり皷樓鐘樓は金堂、講堂の間に東西相對し地藏堂、開山堂等北方にあり、佛体亦多く優秀なるものを遺し淸閑幽雅の靈境なり。

金堂 七間四面にして土壇の上に立ち棟の兩端に鴟尾を上げたり、當時創建のまゝに存し堂內裝飾の繪畵等猶見るべきものあり、今存せる天平時代の建築中最宏壯なる堂宇なり。

講堂 傳說には平城宮の朝集殿を賜りて移し建てたるものといへども內陣廻り天井の

外は多く鎌倉時代の修繕に成れり。唐軍法力作の彌勒菩薩を本尊とし十一面觀音二軀、釋迦（厨子入）藥師、寶生如來等優秀なる佛像を安す。

舍利殿は佛舍利三千粒を本尊とし禮堂は釋迦赤栴檀像（傳毗首羯磨作）を本尊とす其他地藏堂には地藏菩薩立像（傳空海作）獅子吼菩薩立像、衆寶王菩薩立像を安し開山堂には紙製鑑眞和尙像、中興覺靜和尙坐像あり、鑑眞は渡海大師ともよび天平勝寶六年遣唐使藤原淸河等の請に應して來朝し聖武天皇を始め菩薩戒を受くるもの萬を以て數へたりといふ、其墓は寺の後方にあり。

寶物は佛像に如來形、天部形立像、佛頭鍍金の銅板佛等あり、繪畫に絹本の大威德明王像あり繪卷に東征傳繪卷あり、鑑眞和尙東海の傳記を圖せるものにして永仁六年蓮行の筆に係れり。講帖に宋元以下大家の筆を集めたるものあり。經卷に鑑眞筆と傳ふる紺紙銀泥の金剛經あり、其他唐招提寺の勅額、佛畫の扉八枚、火焰付の鼉大鼓二個、舍利塔等優秀の寶器を藏するもの少からず。

西方に赤膚山あり陶器を出す嘗て小堀遠州七窯の一なりき、郡山城主柳澤堯山公之を再興したるも今盛なら

す。

藥師寺　郡跡村西京招提寺の南四町、郡山より廿五町

藥師寺は法相宗一本山。もとは天武天皇八年皇后の御病平愈を祈らん爲藥師の像を作り給ひ高市郡今の白橿村喜殿に草創し文武天皇の世に成功したりしを元正天皇養老二年に至りてこゝに移し建て聖武天皇天平年中造營成りたるものといふ。七大寺の一にして往時は盛大を極めたりしが屢災厄に罹り慶長五年の再興を經たり。今は當時の建造物に唯一の三層塔を見るのみ。

金堂　延寶二年再興に係る。佛壇は大理石といひ長九間幅二間高一尺八寸あり養老年中百濟國王の貢献する所と傳ふ本尊藥師如來坐像臺坐共一丈四尺脇士日光月光佛立像臺坐共一丈三尺共に金銅にして行基の作と稱す。天武天皇即位八年より前後十七年を經て造像の功を竣へたるもの、面貌莊重威容儼然當代金工中無類の傑作たり。臺坐の摸樣の如きも奇古言ふべからざるものあり。

講堂　亦銅造藥師三尊を安す優秀の作なり。

三重塔　毎層裳層ありて六層の觀をなす。高さ十一丈五尺、天智時代に屬する建築唯一の標本なり。塔尖の水烟は天人の空中に飛翔する狀を刻す最雄麗なり。塔擦の銘文舍人親王の作といふ。

東院堂　本尊聖觀音立像銅造にして長七尺餘傳養老年中百濟國王貢献する所といふ姿勢直立にして端嚴の趣あり。

佛足堂　有名なる佛足石あり高一尺八寸餘、上面縱橫二尺五寸許、橫三尺二寸五分、其上面に足蹠を刻めり。後方に立てる佛足石碑は佛跡の傳來功德及呵嘖生死の和歌十七首を刻す、古雅愛すべし。

寶物には彫刻に十一面觀音立像、比丘八幡、神功皇后仲津姬等の坐像、乾漆菩薩の面部高麗犬等あり、繪畫に吉祥天畫像あり布に描きて長一尺八寸あり容姿優美着色華麗にして天平時代の珍品に屬す。慈恩大師畫幅あり賛は小野道風の賛と傳へらる、經卷に朝野魚養の筆と稱する大般若經、科野虫麿筆と稱する增壹阿含經あり。

寺の南に鎭守八幡宮あり其西方の大池は勝間田池なり。

大安寺　大安寺村大安寺奈良停車場より十五町

大安寺は奈良の西南にあり、もと七大寺の一にして高市郡より移され高僧道慈の建てたるものなりしが後廢頽して僅に小堂を存するのみ。緣記は菅公の筆に係る今宮內省に入れり。彫刻に千手觀音、不空羂索觀音、楊柳觀音四天王、十一面觀音の諸像あり。南方鎭守八幡男山より勸請したるなり。

郡山城趾　郡山町奈良より一里半

郡山城は足利氏の末小田切宮內の居城たり豐臣秀長が筒井氏に代りて此國を領するに及び城地を修して和泉紀三州百万石の治所たりしが後廢城主を代へ享保以後柳澤氏十五万石の封邑となれり、彩畫に名高き柳里恭は實に此地の國老なり。今本丸に柳澤神社を祭る、風景絶佳なり。郡山町は一國內第二の都邑にして金魚を名產とす。南方一里の筒井村は筒井順慶の城地たりし處、其南方に額安寺あり、聖德太子の創立にして此地に生れたる道慈律師の興隆する處なり。

富小川附近

郡山の西南二十餘町に小泉あり今は片桐村に屬す。片桐氏一万石の城地たりき、石州流茶人の祖なる片桐宗關公は其二代の君なり。西南に法起寺あり、法隆寺と相望む。西方山腹に松尾寺あり、其北方に矢田寺あり。小泉の東を流るゝは富小川にして其上流は國初長髓彦の占據したりし處、靈山寺、王龍寺、長弓寺の諸寺あり。其水源は北倭村に屬する高山にして茶筅の產に名高し連歌抹茶に有名なる高山宗砌は此地の人にして實に其製の工夫をなしたる人といへり。

松尾寺（矢田村山田、矢田寺より半里眞言宗）舍人親王の御願によりて創立する處、松尾山の山腹にありて東方を眺望すべし本堂には千手觀音を安し大黑堂に大黑天を安す。寶物に山田道安筆市守長者像土藏筆愛染畵像等あり。

矢田寺（矢田村矢田郡山の西一里、眞言宗）金剛山寺とよぶ、天武天皇の本願にして智通の開基に係る。金堂に本尊地藏（傳春日作）を安す、寶物に閻魔王坐像、小野篁滿米上人畵像の扉等あり。東明寺は其北方八町にあり、眞言宗にして舍人親王の創造に係り藥師如來を本尊とす、舍人親王御筆法華經日光月光佛畵扉あり。

塔內塑像

法隆寺塔

同中門

之れを要するに當代は佛寺建築旺盛の時代なり。而して其建築の規模は百濟の造寺工が讃策する所なりしが如く其のスタイルも亦百濟のスタイルと名づくべきものなるが如し。當代建築の形式を存するものは大和に法隆寺伽藍及び法輪寺の塔、法起寺の塔などあり、法隆寺は七堂悉く具備せる伽藍なり。而して其金堂、塔婆、中門の三字は依然として推古天皇時代の樣式を今日に傳ふるものなりとす。今其の特徴を略言すれば柱は「エンタシス」なる曲線より成ること猶希臘式に於けるが如く雲形肘木及び雲形斗を實用して普通の組物を用ゐず。高欄に卍形の組子を附し其の內に椽を設けず、軒は「一ト軒」にして「垂木割」粗放に全体の形狀極めて莊重にして且つ奇拔の觀を呈せり。

（美術略史稿）

御佛の道をひろめしいかるかのさとみゝのみこやこゝにましけむ　　蘆庵

五重寶塔東面之塑像。文殊維摩不二法門之体相也。南面彌勒淨土體相。北面釋尊涅槃之處。西面釋尊荼毘所也。右四面之塐像。天竺唐土我朝三國之土ヲ以テ鳥佛師塑之。殊勝無双之靈像也。（法隆寺舊記）

法隆寺金堂釋迦如來

法興元世一年歳次辛巳十二月鬼前太后崩明年正月廿二日上宮法皇枕病弗悆于食王后仍以勞疾並著於床時王后王子等及與諸臣深懷愁毒共相發願仰依三寶當造釋像尺寸王身蒙此願力轉病延壽安住世間若是定業以背世者往登淨土早昇妙果二月廿一日癸酉王后卽世翌日法皇登遐癸未年三月中如願敬造釋迦尊像並挾侍及莊嚴具竟乘斯微福信道知識現存安穩出生入死隨奉三主紹隆三寶遂共彼岸普遍六道法界含識得脱苦縁同趣菩提使司馬鞍首止利佛師造（釋迦如來後背銘）

銅鑄物にして本尊釋迦佛は鍍金を施し高さ四尺五寸あり……。此の像他の夢殿の觀音中宮寺の彌勒菩薩などに比ぶれば其の軀幹短小にして少しく樣式の異なるを見る。是れ或は鞍作止利が傳へたる支那中國邊の樣式にはあらざるか。次の天智天皇時代に及び次第に支那より傳來せる佛像中に此の短小にして面相の小兒に似たる許多の佛像を見るなり。（美術畧史稿）

橘夫人念持佛厨子

黄銅の鑄物にして阿彌陀像及び觀音勢至の二菩薩蓮池より抽でたる三莖の蓮華上に座するの像にして後には光𦦙背と屏障とありその屏障には菩薩像を鑄出し又化佛とて小佛像六個を點裝せり本尊は高さ一尺八分脇士は高さ九寸あり此の佛像は天智天皇の妃橘夫人の作らしめ給ひしものにても厨子の内に安置せしものなりその厨子は橘夫人の厨子とて今も金堂にあり

此の像の製作意匠も巧にして技術精緻を極め日本風の優美なる樣自ら相貌の上に見はれ光𦦙背の如きも著しく模樣組織の發達を表はせり又屏障に鑄出したる菩薩像は頗る金堂壁畫の圖に類似せる點あり

（美術略史稿）

法隆寺金堂

同寺玉虫厨子

同寺九面觀音木像

弘安元年法隆寺寶物和歌　　靈山定圓

鷲の山法のこゝろをいかにして
　　しるしをゝめけむいかるかの宮（法華經義疏御章本）

すかしなす佛のいますかさりまて
　　さそ玉蟲のひかりますらむ（玉蟲・厨子）

這御厨子者後三條
院御宇承暦年中白
橘寺當寺末寺所遷之也
（古今一葉集）

次向東戸有厨子　推古天皇
御厨子也其形腰細也、以玉
虫羽以銅彫透唐草下臥之此橘
寺滅滅之時所送也內
一万三千佛御丈七尺其內金
銅阿彌陀三尊御、其盜人取、
光二許所殘、（古今目錄抄）

中宮寺本尊如意輪觀音木像

同寺天壽國曼荼羅

この繡張はもと二張にて各長さ一丈六尺ありしなり。繡の地は紫色の紗と黄色の綾との二種にて白赤青黄緑樺紫等の色糸にて佛像人像鬼形宮殿花鳥等を繡ひ又百個ばかりの龜形ありて其龜背に四字つゝ四百字ばかりの銘文を縫ひてこの曼荼羅を製せし由來を記されしなり。然るに漸次に朽損して今中宮寺には方二尺八寸ばかりの幅に佛像人物宮殿龜甲などの殘缺を貼り交せたるものを藏するに過ぎず。されども他の殘缺の世に傳はりしものあり。又古き摸造もありて其舊形を窺ふことを得べし。もと其の圖様は全く想像に出で然も多く裝飾的の意匠を加へしが故に佛の臺座の如きは花より成り又雲形をして自在に座邊を繞らしめしなど奇異の觀少からず。

（美術略史稿）

法輪寺藥師如來木像

法起寺三重塔

法名法琳寺東限法起寺堺南限鹿田池堤北限氷室池堤西限板垣岑　（資財雜物帳）

十四年……皇太子亦講法華經於岡本宮、天皇太喜之播磨國水田百町施于皇太子、因以納于斑鳩寺、（推古天皇紀）

君か代は富緒川の水澄みて　源　忠季
ちとせをふとも絶えじとぞ思ふ

龍田川

龍田神社

文武天皇御製

立田川紅葉亂れて流るめりわたらば錦中やたえなむ

春霞たつたの山の略に秋の色なも奪はれやせむ　久我根花作

冬かれや大根葉流る龍田川　宇鹿

さてまた龍田川といふは今の龍田の里より三町計り西にありて今も普く龍田川を呼ふなる川すなはち古歌どもに多く詠おきつる龍田川の事にして尚また今の官道に掛れる土橋より四五町ばかり下なるいはゆる御室山の東の山本な流れ廻りて其處より十町餘り下なる大輪田村といふ處にて廣瀬郡より流れくる廣瀬川に落合ひて船戸、勢野などいふ村なを過て竜野にいたり龍田山の麓を流れ落ちて河内國に行なるな彼の廣瀬も此の龍田川の流れ合ひつる後は廣瀬川の名は無くなりて彼の土橋の邊りより河內の國にいたるまで凡二里ばかりが間なをむかしは龍田川とぞいへりける(龍田考)

信貴山本堂

信貴山縁起繪卷

寶物は繪詞縁起四巻あり其内三巻は鳥羽僧正の筆いかにも疑なく見え侍り詞は行成卿といへども時代たがひぬればあらぬなるべしかの家にては伊行朝臣の比なり（道の幸）

大關　傳云覺融筆或云光長　和州信貴山藏　信貴山縁起

關脇　傳云覺融筆或云信實　栂尾高山寺藏　高山寺繪本

小結　傳云慶恩筆雲州家本　多家伊勢福島氏藏　平治物語繪

大關　傳云光長筆　酒井家藏　伴大納言繪詞

關脇　傳云覺融筆或云信實　栂尾高山寺藏　華嚴縁起

小結　傳云信實筆　佐竹家藏　三十六歌仙像

（大倭畫名巻競）

生駒山寶山寺境内

同寺不動明王木像

同寺聖天堂

湛海律師字は寶山寛永六年伊勢國安濃郡に生る、書畫を善くし又彫刻に巧に造像の技術に至りては眞に其の妙を究めたり。延寶七年大和國膽駒山に上り般若窟を闢き元和元年八月初めて不動尊像を彫刻せりこれより彌勒、虚空藏の尊像を鑄造して雲上閣に又聖天と役小角の像を鑄て之れを嵓洞中に納め又一刀三禮して十一面觀音の尊像を刻み常念觀音院を建てゝ之れに安置せり。總て湛海の作品の秀でたるものはおもに膽駒山寶山寺に藏せり其作頗る纖麗にして精巧なるもの少からず。

春風に伊駒の山の峯はれてへたてぬ雲や櫻なるらむ　　法印定爲

靈山寺 富雄村中奈良より二里弱 郡山より五十町、眞言宗 行基婆羅門二僧正の開基に係り藥師如來 傳行基作 本尊とす。塔又三層塔あり、內部裝飾の摸樣明瞭に見るを得べし。寶物に磚製彌陀三尊像あり。塔頭地藏院に十一面觀音立像あり。

王龍寺 富雄村二名靈山寺の北五十町、禪宗 聖武帝の創立、本堂內に怪石あり。高さ一丈五尺其面に十一面觀音を鐫りて本尊とす。建武丙子三年の銘あり。

長弓寺 北倭村上王龍寺の東南半里、古義眞言宗 聖武天皇の勅を奉して行基の開基する所といふ、本堂に十一面觀音を安す。

法隆寺附近及生駒谷

矢田山脈南北に連りて富小川と龍田川との水脈を分つ。其山脈の南に盡くる處に法隆寺の伽藍あり。千三百年の建築を存して佛体器具亦優秀なるものを殘す少からず、其東北に三井の法輪寺、岡本の法起寺あり、共に古代の三重塔を有す、山背大兄王の墓といへるは法輪寺の前方にあり、嘗て伴林光平の住みし處なる駒塚

は法隆寺の東方にあり。其南方に廣瀬神社あり、更に南すれば箸尾を經て百濟に至るべし。百濟寺は聖德太子の創立なり。法隆寺の西方は龍田町にして、西端に龍田川あり、楓葉の名所なり、龍田神社は又其西方なる龍野にあり信貴山上方に聳え、毘沙門堂は、其山頂にあり、山、北に延いて生駒山となる、其中腹に寶山寺あり、共に世人の信仰淺からず。

法隆寺

法隆寺村法隆寺停車場より北十二町、奈良を距る三里廿五町

法隆寺は法相宗にして南都七大寺の一なり、聖德太子、用明天皇の勅によりて、新堂を創建し給ひ推古天皇元年より十五年に至りて、增築せられたる大伽藍なり。七大寺中或は既に荒廢せるものあり或は屢火災に罹りて舊時の規摸を見るべからざるものあれども此伽藍は創建當時の建造物依然として存し太子在世の佛体器什儼然として今に見るべきもの多く歷史の材料美術の摸範として名聲の內外に嘖々たるもの蓋當寺の右に出づるはなし。境內東西の二院に分れ、西院に金堂、講堂、五層塔ありて、步廊之を繞り正面に中門南大門あり、後に上御堂あり、西方に三經院、西圓堂あり、東に聖靈院、

綱封藏、食堂等あり、東院には夢殿ありて繪殿、傳法堂其北にあり、中宮寺と相接す。

南大門は永享十一年再建する處これを入れば左に寺務所あり、（寺務所の北に新堂あり藥師如來兩脇士天王等の像を安す）其北方正面なるは中門にして桁行六間六尺、梁行四間二尺、和銅年間に作れる二王の塑像を安す。これ金堂五重塔と共に建築家の推古式と稱するものに屬し木造建築中最古のものとなす。

金堂　桁行九間二尺梁行七間四尺、內壁には寺傳鳥佛師（止利佛師とも書す）又曇徵の筆と稱する繪畫あり西壁なるは阿彌陀の淨土、東壁なるは寶生佛の淨刹、北裏東脇は藥師の淨土、西脇は釋迦の國土を畫けり佛菩薩の像各丈七尺內外あり非凡の大作にして當代藝術の進步を見るべきものなり、南面中央なるは釋迦如來坐像（丈四尺五分）脇士藥王藥上菩薩聖德太子御生前の誓願により御母及び妃の冥福を祈らんため鳥佛師をして作らしめ給ひしもの東なるは藥師如來坐像（丈二尺五分）脇士日光月光菩薩これ太子の御父用明天皇の御爲に作らせ給ひし最初の本尊にして亦鳥佛師の作る所といふ皆金銅にして推古時代の特徵を具ふ。西なる彌陀如來坐像（長二尺六寸）は太子の御母の爲に造らせ給へるものなりしが

承德二年盜難に罹り今のは貞永元年佛師康勝銅工平國友の新造する所なり。此他堂內佛像の優秀なるもの多く傳百濟國渡來と稱する虛空藏立像（七尺四寸）の如きは最古のものなるべく四天王（各四尺一天光背の銘に曰く山口大口費上而次木閉二人作也又一天のに曰く藥師德保上而鐵師手古二人作也と山口大口費は孝德天皇時代の人）は最奇古なり其他文殊普賢、日光月光、觀音勢至諸菩薩の像、觀音菩薩立像、彌勒菩薩坐像、地藏菩薩立像、普賢延命坐像、多門天吉祥天立像（傳承曆二年造）の諸像あり玉蟲廚子は木造にして高七尺八寸傳推古天皇の御持佛と稱す（廚子の四方は密陀僧にて經說を描き鉸具は唐草の透彫にて其下に金花虫の羽を敷詰めて裝飾せり故に玉蟲の廚子と稱せるなり）橘夫人念持佛廚子高八尺八寸彌陀三尊を安す共に無類の名品とす。上方に釣る所の天蓋三蓋傳鳥佛師作と稱す之を飾れる技樂天女鳳凰等最優美なり。

五層塔　高二十五間、四方各五間半東方文殊維摩坐像化菩薩あり南面に彌勒脇士眷屬等あり西面には釋迦金棺寶塔羅漢等あり北面には釋迦涅槃像、菩薩、羅漢等あり何れも塑（そ）造（ざう）にして鳥佛師の作と傳へらる。

講堂　延長三年雷火に燒失し今のは正曆元年京都法性寺內より移建てたるもの本尊藥師如來、脇侍日光月光、四天王等を安す左右の回廊に鐘樓經藏あり。

上御堂（かみのみだう）　舍人親王の本願にて今のは應長元年の再造なり本尊釋迦、脇士、文殊普賢、四天王を安ず

西圓堂（さいゑんだう）　八角造俗に峯の藥師といふ養老二年橘夫人の本願にて行基菩薩の創建する處、本尊藥師如來行基の作といふ。

聖靈院（しやうりやうゐん）　東方にあり中殿に聖德太子坐像、山背大兄王、殖栗（ゑくり）王、茨田（まんだ）王、惠慈（ゑじ）法師像、西間に如意輪觀音、東間に地藏の立像を安ず。（西傍に觀勒堂あり推古の朝曆書天文地理等の書を獻じたる百濟の觀勒僧正像を安す）

綱封藏（かうふうざう）　聖靈院の東にあり優秀の寶器を藏す。佛体は金銅なるに釋迦文殊像一座（後背に戊午年云々の銘あり）誕生釋迦佛、觀音菩薩數軀、峰藥師胎內佛、檀製の三尊二面等あり、木造に九面觀音（沈香木、傳太子作と稱す、高一尺二寸餘最精妙なり）善女龍王像、乾漆の彌勒像等あり繪畫に孔雀明王、妹子筆と稱する毘沙門天、星曼荼羅圖、五尊像、扇面古寫經（天王寺、西教寺にあるものと同じ）屛風なるに蓮花水鳥圖（傳巨勢金岡筆或は云ふ尊智法眼筆）十六羅漢圖（傳顏輝筆）等あり其他舞樂面、銅の水瓶、鍍金の香水壺の如き紋錦裂、蜀江錦裂の如き珍什枚擧に遑あらず百萬塔は孝謙天皇の十大寺に寄附せられたるものなれど今當寺に存するのみ納むる所の經卷四種あり本邦最古の印刷と稱す。

食堂は綱封藏の後方にあり本尊藥師如來、脇士日光月光の木像、梵天帝釋四天王の塑像等あり

東院は上宮王院と號し聖德太子斑鳩宮の舊趾なりしを蘇我入鹿の爲に燒亡せられ後行信僧都の天平十一年に創立したるものなり、四方廻廊を繞らし西に四足門、南に禮堂、南門あり。

夢殿　八角造天平時代創立のまゝに存す本尊救世觀音長六尺五寸傳太子作と稱し古來秘佛として尊重せらる。前立聖觀音、行信僧都乾漆坐像、道詮律師塑像等を安す。

武殿院　其北方にあり繪殿ともいふ本尊金銅聖觀音爲佛師作と稱し夢違觀音といふ、太子七歲の坐像聖觀音像あり本殿の繪障子は秦致眞の筆なりしもの、明治二十年宮內省に献納せり、今のは天明四年吉村周圭の畫く所、其東並に舍利殿あり南無佛の舍利を本尊とす、武殿院の北方に傳法堂あり天平十一年の建立にして九品彌陀三尊の乾漆像梵天帝釋天等の像を安置す。其西に鐘樓あり。

中宮寺

中宮寺は初め法相宗なりしが今は眞言律宗なり、聖德太子御母の爲に創立する所、本堂如意輪觀音像長五尺二寸あり等身半跏趺の像にして傳聖德太子作といふ實は法相宗の本尊彌勒菩薩なり、寶物に天壽國曼荼羅刺繡掛幅ありこれ推古天皇の釆女に勅して刺繡せしめ給ひしものにして下繪は東漢末賢、高麗加西溢、漢奴加己利の畫く所といふ。本邦最古の織物なり。

法輪寺 富鄕村三井、法隆寺の東北八町

法輪寺は古義眞言宗推古天皇聖德太子に造立なりしを御子山背大兄王太子の遺命によりて成就せしめしものといふ。本堂に本尊觀音立像(傳聖德太子作)彌勒菩薩立像(傳同上)地藏菩薩立像、四天王像あり、金堂には本尊藥師如來坐像木造にして其式法隆寺の本尊に同じ夢違觀音、吉祥天、楊柳觀音皆鳥佛師の作と稱し虛空藏菩薩傳印度作といふ。三重塔は創立のまゝにして推古式と稱するもの、

法起寺 富鄕村岡本、法輪寺の東六町、小泉の西八町

法起寺は法相宗、聖德太子岡本宮の跡にして推古天皇の草創し給へる所。本堂に十一

面觀音像を安す。三重塔は高十一間半方三間半創立のまゝにして推古式に屬す。寶物に如意輪觀音銅像、虛空藏菩薩銅像等あり。

廣　瀬　神　社　河合村河合法隆寺停車場の東南二十町

廣瀬神社史には天武天皇の朝に龍田廣瀬二社を祭るとあるは初見なるも創始は崇神天皇の頃なるべし。中央は和加宇加乃賣命（豐宇氣姫一名保食神）にして水穀を守護し且天照太神の御饌を掌る。左は櫛玉姫神右は瓊穗雷神を祭る。古は三神社殿を異にせしを後兵燹に罹り本殿に左右二神を合殿として祭れり。官幣大社なり。

龍　田　川　法隆寺停車場より廿五町

龍田町に龍田新宮あり龍田川は町の西端を南に流る文武天皇始めて龍田川の紅葉を詠じ給ひしより詠歌最多く久しく紅葉の名所として天下に知らる、龍田橋の近傍楓樹最多く影を清流に涵して風光頗佳なり。少し下流の右岸に神南備三室山ありゝ左岸に磐瀬森、毛無岡あり皆名所なり。

達　磨　寺　王寺村、王寺停車場の南方八町、眞言宗

達磨寺は片岡山下にあり、傳ふる所によれば聖德太子路傍に臥せる飢者を憐み衣食を給し給ひしに翌日其死せるを悲み厚く葬りしがこの飢者こそ達磨の化身ならめとて墓を築きて達磨塚と名け草堂をも建てゝ達磨を本尊としたるものこれ當寺の草創なり。後大に廢頽したるを笠置の解脫再興して三層の塔婆を塚上に建て始めて達磨寺と稱したりといふ。名所片岡の朝原はこの邊にして昔時の大伽藍放光寺また近傍にありしなり。西方の山間に孝靈天皇陵あり。

龍田神社

三郷村龍野、王寺停車場より廿町、龍田より廿五町、信貴山へ廿町

龍田神社は官幣大社にして風の神なる天御柱神、國御柱神を祭り龍田の本宮と稱す。龍田町にある新宮に對して云ふなり。崇神天皇の朝の創立なるべし。

信貴山朝護孫子寺

平群村信貴畑、王寺停車場より一里眞言宗

河内と境せる連山中聳えて男嶽女嶽の二角をなせるは信貴山にして毘沙門天を安置せる朝護孫子寺は其山上にあり。聖德太子守屋を討たんとせる時勝利を祈りて伽藍を創立し給へるものといふ。楠公はこゝに祈りて生れたれば幼時の名を多聞といへり。戰

國の頭。松永久秀、信貴城を築きしが織田氏と戰ひて敗れ城陷り伽藍亦兵燹に罹りぬ。今の堂宇は慶長年間豐臣秀頼の再建せる所なり。本堂は舞臺あり。本尊毘沙門天を安ず、建物多く搭頭五院あり。寶物に繪卷物中の名品なる傳鳥羽僧正筆の信貴山緣起、武器類（兜袖、喉輪）等あり。

生駒山寶山寺　北生駒村菜畑奈良より三里餘、王寺より二里餘眞言律宗

寶山寺は生駒山腹にあり麓より上るには八丁ばかり本堂の西北に巉巖の聳ゆるを般若窟といふ。役行者の棲みし處、空海もまた、こゝに居たりといふ。延寶六年寶山和尙湛海始めて大伽藍を創始したるに世人の信仰最深し本堂は元祿年間の建立不動明王を本尊とす聖天堂奧之院共に多く湛海作の佛像を安す。寶物彌勒菩薩畫像を最優秀とす、其他寺什頗多し。

寶山寺の北方廿町俵口に長福寺あり聖武天皇朝の創立にして本堂內鎌倉時代の裝飾の模樣あり。其南方一分には生駒神社あり、古、神宮寺十一院ありて頗盛大なりき。西南鳴川に千光寺あり元山上と稱し役行者の開ける所なり。

月瀬(其一)

(其二)

時將二更、月色清朗、步抵眞福寺、枝々帶月、玲瓏透徹、影蓋横斜、寶鈿玉釵、錯落滿地、水流其下、鏘然有聲、覺非人境、傍岸西行、前望月瀨、水清如寒玉漾月影、殘作銀鱗、而兩山之花、倒蘸其上、隱約可見、一棹中流、山水俱動、

齋藤拙堂

谷川の水上あさし舟すてゝ
　岩かねつたひ梅の花みん

高崎正風

梅か香のかをりみちたる山影を
　くもりはてつそおもひけるかな

伴林光平

杳然別是一乾坤。峯轉溪回果得村。
曾見城西漁隱説。梅花亦自有仙源。

梁川星巖

大和神社　　石上神社

大神神社

後嵯峨天皇御製

いまは又行きても見はや石上ふるの瀧つせ跡をたづねて

宮居せしその初にも石上ふるの社を人やいひけむ　經家

味酒の三輪の祝の山てらす秋のもみちのちらまくをしも　長屋王

みしめ引三輪の杉むら古にけりこれや神代のしるしなるらん　爲家

我庵は三輪の山もと戀しくはとふらひきませ杉たてる門　讀人しらず

初瀨寺

遂證上覺至矣大仙理歸絕妙
事通感緣釋天眞緣降茲豐山
鷲峰寶塔涌此心泉負錫來遊
調琴練行披林晏坐寧枕熟定
乘斯勝善同歸實相壹投賢劫
俱値千聖歳次降婁漆莬上旬
道明率引捌拾許人奉爲飛鳥
清御原大宮治天下天皇敬造
（千体釋迦板佛銘）

はつせにまうづるごとにやどりける人の家に
久しくやどらでほどへて後にいたりければ家
のあるじかくさだかになむやどりはあるとい
ひ出して侍りければそこにたてりける梅の花
をたをりてよめる　　　　　　　　　貫　之

人はいさ心もしらずふるさとは
　花ぞむかしの香に匂ひける

紅のうす花櫻ほの〳〵と　　　　　　家　隆
　朝日いさよふ小初瀬の山

うかれける人やはつせの山さくら　　芭　蕉

笈摺に卯の花寒しはつせ山　　　　　去　來

室生寺彌勒菩薩

室生寺五重塔

抑此山は杉松峯をつゝみて青天につらなり巖石樹をも
れて黑雲かと疑はれ麓にめぐる川浪は春の雪のくづる
ゝにことならず地にみだるゝ落葉は秋の雨のふるかと
あやまたれ橋をふみゆけば廬山のさびしきをおもひ山
路をよぢ登れば鷄足のしづけささながらかくやとこそ
おもひやられけれ弘法大師の住みたまひし慈尊院は朽
ちやらずして山僧すめり護摩を修せられし巖窟は苔の
みむして風こそ宿り侍れ伽藍塔をならべて露しげく寶
鐸響ありて嵐冷し斯る靈區なればそて世の人女人の高
野ともいへりけり

（大和名所圖會）

多武峰

來てみれはこゝも櫻の嶺つゝき　雅章
よしの初瀬の花のなかやと

回合崗巒氣勢騰、　煇煌金碧廟廊層、　山陽
風雲一體君臣業、　山背誰諳天智陵、

藤かつらたえぬ根さしをとゝめける　資芳
跡もかしこき多武のやまてら

園城寺古袈裟少、　飛鳥宮空環佩閑、　鐵兜
唯有談峰神德在、　夕陽金碧照寒山、

多武の山みたにの杉のすきし世を　光平
しのふたもとに花そこほるゝ

橘寺聖德太子像

岡寺義淵僧正像

明日香川逝回岳の秋萩は　　丹比眞人

　けふふる雨にちりかすぎなん

釋義淵。世姓阿氏。和州高市郡人。……天智帝聞之。同皇子鞠育岡本宮。後出家從智鳳學唯識。又入唐稟智周法師相宗之訣。……歸朝盛倡相宗。受其業者。行基道慈玄昉良辨宣教隆尊等也。（元亨釋書）

寺寂し花橘に昔の香　　湘　夕

天香久山　耳無山　畝傍山

いにしへの事はしらぬを我見ても
　久しくなりぬ天のかく山　（萬葉）

君か代は天の香く山出づる日の
　照らむかきりはつきじとぞ思ふ　大宮前太政大臣

耳なしの山のくちなし得てしがな
　思の色の下そめにせむ　（萬葉）

神代をもかけてそしのぶたまだすき　富士谷成章
　畝火の山をけふし見つれば

橿原神宮

神武天皇畝傍山東北陵

夫畝傍山東南橿原地者。蓋國之奧區乎。可治之。卽命有司。經始帝宅。卽位於橿原宮。是歲爲天皇元年。

（日本書紀）

壬子冬奉使入大和
行經神武陵　　　柴野邦彦

遺陵纔向里民求　半死孤松數畝丘
非有聖神開帝統　誰教品庶脫夷流
廐王像設專金闕　藤相墳塋層寶樓
百代本支麗不億　幾人來此一回頭

後村上天皇御製

たかみくらをばりかゝげてかし原の
宮の昔もしるき春哉

うねひ山見ればかしこし橿原の
ひじりの御世の大宮所　　本居宣長

久米寺

壺坂寺

壺坂寺磚

久米仙者和州上郡人、入深山學仙法、食松葉服薜荔、一旦騰空過故里、會婦人以足踏浣衣、其脛甚白、急生染心、即時墜落、（元亨釋書）

秋寒しおしあふ石の佛達　　蝶　醉

寺　麻　當

和州路上

頼山陽

小市平橋路幾叉
法隆寺遠接當麻
行人買醉和州路
滿野東風黃菜花

二上山當麻寺に詣で庭上の松を見るに凡そ千年も經たるならん大きさ牛を隱すともいふべけん彼の非情と雖も佛緣にひかれて斧斤の罪をまぬかれたるぞ幸にして尊し

僧朝かほいく死かへる法の松　（野さらし紀行）

教へうれしき法の門、開くる道に出でうよ「是は念佛の行者にて候ふ、我此度三熊野に參り下向道に趣きて候ふ、又是より大和路にかゝり當麻の御寺に參らばやと思ひ候ふ「程もなく歸り紀の路の關越えてこや三熊野の岩田川、波も散るなり朝日影、夜晝わかぬ心地して、雲もそなたに遠かりし二上山の麓なる當麻の寺に着きにけり、（謠曲）

月瀬

月瀬は梅花の多きを以て天下の第一勝たり。奈良より至るに數條の道路あり、其最近きは春日山の南なる瀧阪、石切峠を越え水間、峯寺等を過ぐるものにして途中光仁天皇陵田原村日笠を拜すべし、行程六里半許。車を通ずるものは奈良阪より東して忍辱山柳生等を過ぐ、道路甚迂回せり。其最便なるは鐵路によりて加茂、笠置岩山にして奇勝あり元弘の亂後醍醐天皇の行在所たりし所を經、大河原もしくは嶋ヶ原より入るなり嶋ヶ原より石打を經て尾山に至る二里車を通す。大河原より桃香野に至る亦二里地大和の東北隅に位して添上郡に屬し今桃香野、月瀬、長引、尾山、石打の五大字を併せて月瀬村と稱す。名張川東南より來りて村の中央を貫流し兩岸杜鵑花多きを以て杜鵑花川の稱あり一帶の風色凡常にあらず、加ふるに兩岸の諸村梅樹最多く花時の光景美言ふべからず、或は山巓に攀ぢ或は溪流に棹して一日の清遊を縱にするを得べし。中にも尾山の如きは八個の溪谷ありて一目千本、大谷等の絕景あり。山陽の「和州の香世界を觀るに非んば此生何ぞ梅花を説くべき」と咏したるもの宜なりといふべし。普通賞觀する所は桃香野よ

り月瀨、長引を經て尾山に至る一里餘の間なれども梅花の領分は廣く二國三郡に跨り遲瀨、廣瀨、嵩の如きは月瀨村の東南に接して山邊郡波多野村に屬し白樫、治田の如きは梅溪の東口に連りて伊賀國名賀郡の花垣村に屬せり。此地方にかく多くの梅樹を栽培したるものは其實より烏梅といへる染料を取らんとてなりしなり。近時染色の方一變して其需用を失ひしより保勝會を設けて之が維持を圖れり。

圓成寺（大柳生村、忍辱山、奈良より二里、眞言宗）忍辱山と號す。天平勝寶八年聖武天皇の新願により唐僧虛瀧の開基する所ともいひ後白河天皇の御世寬辨僧正の開基ともいふ。本堂（柱に彩畫あり）多寶塔皆文明年間の再建に係る今頗る頽廢せり。

柳生は奈良を距る三里柳生氏一万石の城地たりき。柳生氏世々此地に住み新陰流劍法の祖柳生但馬守宗巖に至りて織田氏に仕へ其子但馬守宗矩德川氏に仕へたり。

月瀨の南方豐原村に神野寺（小觀音銅像を藏す）あり神龜元年行基の創建に係る山中躑躅は非常の美觀なり。其西南都介野村（神八井耳命の子孫の鬪鷄國造に任ぜられし處）に來迎寺（曼荼羅圖を藏す）都祁水分神社あり。

上街道（奈良榛原間）

奈良より三輪を經て榛原に至り伊賀の名張に出づるもの之を上街道といふ櫟本、丹波市、柳本を經て三輪に至る間東に春日高圓山より纏向、三輪山に至る連山あり。三輪より東に折れて溪間に入り初瀨を經て榛原に至る、此間神社に石上、大和、大神の三大社寺院に長谷寺を拜すべし。柳本崇神天皇陵は櫻花の多きを以て名あり。長谷は櫻楓牡丹共に賞すべし。

帶解今市に帶解寺あり地藏院と號し地藏尊を本尊とす。相傳ふ染殿皇后（文德皇后）御懷胎ありて三十三月に及びしをこの地藏尊に祈りて惟仁親王（淸和天皇）御平産ありしかばその御願として當寺を御建立ありしものなりと。其南方に龍象寺あり亦地藏尊を本尊とし帶解寺の奥の院とよべり。東方十六町に圓照寺あり寛文年間後水尾天皇第一皇女の御創立にして爾來代々皇族の尼公を住職とせられたり。

櫟本に柿本寺あり人麿塚其近傍にあり。東方廿五町に弘仁寺あり本尊の名に因りて

常に虚空藏とよぶ、空海の建立する處、今の本堂は寛永六年の再建なり。明星堂は本堂の南に連り傳空海作明星菩薩立像を安す、其東北廿五町に菩提山正暦寺あり今頽廢せり。

丹波市附近古は廣く石上とよべり布留の枕詞の地名とはなれるなり、東方十町の布留に官幣大社石上神宮あり、其東の山を布留山といひ其北を流れて丹波市に入るものを布留川といひ上流（石上神宮の東一里許）にある瀑布を布留瀧又桃尾瀧といふ高七丈幅五尺夏期凉を納るゝによし。天理敎會本部は三島（石上神宮の西北八町）にあり。

石上神宮　丹波市町布留、丹波市の東方十町

石上神宮は一に布留神社ともいひ官幣大社にして布都御魂を祭る。これ太古武甕槌神の中州を平定せる時帶びたる所の靈劍にして神武天皇東征に當り熊野の高倉下獻進して毒氣を攘ひ皇軍を振起せしことありき。後帝室の鎭護として可美眞手命の献納せる十種神寶と共に宮中に奉齋せしが可美眞手命の忠誠を嘉して之を托し給ひしより爾後長く物部氏祀典を掌りき。崇神天皇七年に至り神威を瀆さんことを恐れ伊香色雄命を

してこゝに祭らしめ給ひぬ。後素戔嗚命の八岐大蛇を斬りしてふ十握劍をも合せ祭れり本社の後に高庭とて禁足の地ありこゝには布都御魂劍、十握劍、十種神寶を齋藏してこれを神宮の正體としたるものなるが明治七年教部省の許可を得發掘して靈劍一口と勾玉等の古物數點を得たり、この寶劍は卽ち今の神体に祭り奉る所なり。本社は鎌倉時代の建築に係る、例祭は九月十七日。寶物に發掘したる勾玉類十一個と色々威腹卷（兜蓋袖付）等あり。

大和神社

朝和村新泉、丹波市の南三十町、柳本の北十町

大和神社は官幣大社にして大國魂、八千戈、御歳の三神を祭る、大國魂神は大巳貴神の荒魂なり。孝昭天皇以來天照大神と共に禁中に奉齋せられしを崇神天皇六年其褻瀆を恐れ豊鍬入姫をして天照大神を笠縫邑に祭らしむると同時に渟名城入姫をして此神を今の處に祭らしめたるは卽ち當社の創始なり。時に此地に神武天皇の時功績により て大倭國造に封せられたる椎根津彦の末裔長尾市といふものありしかば創立の翌年之を神主に補して祭祀を掌らしめき、これ神主補任の始なり。例祭は四月一日、ちやん

く祭といへり。

柳本はもと織田氏一萬石の城地たり。東南五町に崇神天皇の陵あり周邊多く櫻樹を植ゑ花時美觀なり、其南にあるは景行天皇の陵なり。柳本の東方釜口に長岳寺あり、天長年間空海の創始する處、昔は宏大なる伽藍なりしが今は大に衰微せり、門は鎌倉時代の建築に係れり、途中にある眞面堂は長岳寺の飛地境内にして方一間半の小堂の中央に柱を建て四方に梵字の額を揭げたり、もと養老年中唐僧善無畏の創設する所といへり。

纒向　垂仁天皇景行天皇の皇居ありし處にして纒向山其東に聳え纒向川穴師の邊を西に流れて初瀨川に入る。穴師兵主神社（景行陵の東南九町）は兵主神を祭り崇神天皇の朝の創立なり。二鳥居より二町許西方の右側に「かたやさし」と字する處これ野見宿禰、當麻蹶速角力の舊蹟なりといふ。

三輪　附近一帶古の磯城の地にして神武天皇の頭兄磯城弟磯城の據りたる處なり。三輪山東に聳えて官幣大社大神神社其麓に鎭坐まします。其北方檜原谷に玄賓庵あり弘

仁中學識德行共に高かりし名聲を厭ひて隱棲したる處、其北に檜原神社の趾ありこれ崇神天皇の天照大神を祭り給へる笠縫邑の舊地ならんかといふ。往昔繁華なる物品交易の市場にして「初瀨に參る人必ずそこに泊りける海柘榴市は金屋の海柘榴市觀音（三輪の東南五町）とそれより山崎に至る三輪山に沿へる處の海柘榴谷に名殘を留めたり。又此近傍は崇神天皇欽明天皇皇居のありし所なり。三輪は古來索麵を名產とす。

大神神社　（三輪町、奈良より）

三輪山は三輪の東方に聳えて御室山、神奈備山等の別稱あり森樹蓊鬱として森嚴なる名山なり。大和の一宮なる官幣大社大神神社は其麓に鎭坐ましまして大物主神を祭り古來この山を神體として別に寶殿の設けあらず。其由來を尋ぬるに大古大己貴神豐葦原中國を經營し給ひ其功成るに及びて自ら其幸魂奇魂を此處に祭り給ひしもの是則ち大物主神にして神社中最古きものと稱せらる。崇神天皇の世疫病大に行はれ人多く死亡せしが天皇之を大物主神の祟となし七年其子孫太田田根子を神主とし神地神戶を置き殊に尊敬を加へられたり、太田田根子の子孫は永く其職を襲ひて大神公を氏姓

とし數派に分れたる氏族の長となりて祭祀を掌り兼て族政を行ひ王室に盡す所ありき。有名なる印の杉は雷火に燒かれて今は古幹を存するのみ、一鳥居の北なる緒環塚は大已貴神、活玉依姫の許に通ひましゝ時姫は神の行方を知らんとて苧環の糸を着けたる針を大神の裳にさして跡をとめさせ給ふに其糸三諸山に留り其綰ぬる所の糸三丸殘れるを埋めたる所にして三輪の名の由て起る所なりといふ、一說には「みわ」は神酒の古語にしてもと酒を盛る土器をいへれば神を祭るに數多の御瓮を居ゑて奉りたるより出でたる名稱ならんともいへり。二鳥居の北方に大御輪寺の趾あり、こゝに若宮大直禰子神社あり、本社の北方に狹井社ありこれを廻りて流るゝものは狹井川なり神武皇后の御家は此河邊にありしなり。

長谷寺

三輪より東する街道は初瀨川に沿ひ爪先上りに進むこと五十町、驛路自ら幽情を加へて所謂籠り口の初瀨に至る、長谷寺は泊瀨山の山腹にあり、初瀨の市街を行きつめて左に上るなり。朱鳥元年弘福寺の僧道明上人天武天皇の御願によりて建立したるもの

は最初の伽藍にして神龜四年聖武天皇德道上人に勅して本堂を創立し十一面觀音を本尊としたるものは新長谷寺なり。爾後寺運益盛にして嘉祥年間定額寺に編入せられる。新義眞言宗の本山にして西國三十三番札所の第八番に當り世間の信仰最深し。二王門を入れば長廊を山腹に架して本堂に至る左右前後山に倚りて數十字の堂院學寮を構へ規模最宏壯なり。山光嵐色殊に淸秀なる處櫻花楓葉の時に美觀を添ふるあり、長廊の左右に多く植ゑたる牡丹の賞すべきあり。賽客四時群り至りて梵唄の聲晝夜絕えず。

本堂は南面、桁行十五間梁行十四間半、崖に倚りて舞臺を架せり、幕府の命によりて慶安三年造立する所、本尊は十一面觀音にして高二丈六尺あり天文年間東大寺の佛工良學及丹後の作る所といへり。小池坊は天正十一年根來より移したるものにして今のは寬文七年家綱の建立する處なり。寶物に銅盤法華說相圖あり千体釋迦板佛ともいふ竪二尺五寸幅二尺厚六分朱鳥元年開山道明の造りて本初瀨寺の本尊としたるもの佛像の雄健なる技術の精妙を見るべきのみならず明に年月を記せるは證徵上最珍とすべ

し。其他玉葛内侍念持佛と稱する觀音銅像、菅公の筆に係る長谷寺縁起、土佐光茂の筆なる長谷寺繪縁起、聖武天皇御納物の經卷及梨子地蒔繪の經箱、香爐、鼠燈檠（油盡くれば鼠の口より油を補給するやう作れるもの）彌陀來迎圖等珍什多し

宇陀地方

初瀨より東すること五十町古の墨阪なる西峠を越ゆれば卽其名の既に神武紀に見えたる榛原なり、神武天皇が天神を祭り給ひし鳥見山の靈畤の趾は今詳ならざれども古此邊より櫻井の東方なる外山の邊にわたれる一帶鳥見の名ありしが如し（墨阪神社は今榛原の東方にあれど古は西峠にありき、これ靈時の趾に設けたるものなりとの傳說あり）、榛原は山間の小市にして宗祐寺に涅槃の名畫を藏す道路之より二條に分岐す、一は大野三本松より伊賀の名張を經て伊勢に出づべく一は高井、上田口（神武天皇兄猾を誅し給ひし血原の地なりとも或は云ふ宇賀志其所なりと）神末（御杖神社あり倭姫命の天照大神を奉して暫く駐駕し給へる處）を經て直に伊勢の御嶽（一志郡伊勢路村に屬す）に出づべし、御嶽は櫻花の勝地なり。松山は榛原の南方にあり亦山間の小都邑にして葛粉を名產とす。道路の櫻井より通ずるもの半阪を過ぐ古の男坂是なり。

（宮奥は女阪なりといふ。）松山には伊勢の北畠氏に屬せし宇陀三將（秋山、澤、芳野、）の一なる秋山氏の城趾あり、其西方なる阿紀神社は倭姫命が天照大神を戴き宮所を索め給へる時暫く鎮坐し給ひし舊趾にして今縣社に列す。東南守道に高倉山あり神武天皇の國內の賊勢を望み給ひし處（或云桃俣の上方なる高見山）又其東南に宇賀志村あり、神武天皇の始めて宇陀に入り給ひし穿邑は即此處なり。

室生寺

室生寺は室生村にあり榛原を距ること三里許、一は大野より入るべく一は高井より入るべし。其地山に圍まれ擂鉢の底の如き處にあるを以て其何れよりするも一里餘の山路を登降せざるべからず。大野に大野寺あり室生の北門と稱す天長年間空海自作の彌勒像を安置したるもの其創建なりといふ、寺の對岸には巨巖並び立ち最大なるものに彌勒立像を筋彫にせり（長五丈四尺）傳へ云ふ土御門天皇の御願によりて承元年間春日佛師の作る所と。高井より左に入れば途中に佛隆寺あり室生の西門と稱す嘉祥三年空海の高足にして室生初代の住僧たる堅惠大德の創立に係る。

室生寺は鬱蒼森嚴なる室生山の麓にありて一水其前を流る。室生山はもと噴火山にして龍穴(りゆうけつ)といへるは噴火孔を殘せるなり傍に龍穴神社あり古來雨を祈るといふ、山内の岩窟總て九穴と稱し近傍の淵池八海と稱す皆名勝なり。本堂は灌頂堂といひ空海作と傳ふる本尊如意輪觀音坐像を安し彌勒(みろく)堂亦同作と稱する優美の彌勒菩薩立像を安す。金堂は弘仁時代に屬する建築にして後方の板壁には創建當時の帝釋曼荼羅(たいしやくまんだら)圖を殘せり。安する處釋迦、文殊、藥師（以上傳、空海作）地藏、十一面觀音（以上傳、太子作）十二神將（傳運慶作）等あり。五重塔亦傳へて空海の作といふ、弘仁時代に屬する貴重の建築なり、寶物に空海將來といふ銅鍍金皆具の兩部佛器を藏す。山上の奥院は頗幽森にして大師堂護摩堂等あり。

室生の東北に曾爾(そに)村あり、其上に聳ゆる山は古の國見岳(くにみのをか)にして神武天皇の八十梟帥(やそたける)を誅し給ひし處、又此邊古漆部(ぬりべ)郷と稱す、漆部の一族の住ひし所なり、日本武尊が始めて漆液を發見して器玩を塗らしめ給ひしとあるは此郡の阿紀山に遊獵し給ひし時の事なりとす。（或は云ふ孝安天皇の時三見宿禰といふ者あり漆部連の祖なりと。されどもこの姓を賜はりしもの其人なるか其子孫なるかを詳にせず）

櫻井、飛鳥、畝傍附近

櫻井は三輪の南方十四町にあり交通の要衝に當り市況繁盛なり。其西方一帶天香久山附近に亘りて古の磐余の地にして繼體天皇以後屢皇居を奠め給ひし處なり。東松山街道に忍阪あり神武天皇の大室を作りて八十梟帥を誅し給ひし處にして舒明天皇陵あり。

南方聖林寺に乾漆高一丈の十一面觀音を安すもと大御輪寺のものにして優秀なり

安倍文殊院　（安倍村、櫻井の西南八町）

安倍文殊院は崇敬寺と稱し大化中阿部倉橋麿の創始する所にして十五大寺の一に列せり。本尊文殊菩薩は丹後切戸、奥州永井のものと共に日本三文殊と稱せらる、脇士優塡王、佛陀利三藏、善哉童子皆承久二年安阿彌の作る所なり。此邊石窟多く本堂の左手にあるは高八尺廣七尺五寸奥行三丈九尺あり、大日堂の左傍なるは高さ七尺廣六尺五寸奥行二丈六尺あり、文殊院の東三町許なるは奥行三丈あり窟中に高四尺長六尺橫三尺八寸の石棺あり。

談山神社 （多武峰、櫻井、岡寺より各五十町上市を經て吉野に至る四里）

櫻井を南して一の鳥居を過ぐ路之より山間に入りて溪山の風光漸く淸爽なり、倉橋は崇峻天皇の皇居ありし處にして其陵溪間にあり。（東南三十町に音羽山あり、山中音羽觀音を安す、）

談山神社は多武峰の北面にあり屋形橋を渡りて上れば前面亦山近く聳ゆ一山綠樹蓊鬱として幽閑淸寂の一境なり殊に櫻楓多く春秋の眺望最佳なり。藤原鎌足公の長男定慧（ぢやう）入唐歸朝の後公が遺志に從ひ攝津の阿威（あゐ）山より移して此所に葬り墓所に就きて寺塔を建てたるものこれ當社の創立にして藤氏の盛大なると共に一門の尊敬を集め漸次繁榮したるなり。其後時に盛衰なきにあらざれども社殿の壯麗なるは今に關西の日光の稱あり、祠堂數十山腹に並びて規模最宏大なり、舊社祿三千石あり、今別格官幣社に列す。神殿は大寶元年定慧の創立より改築既に十三回に及べり。神殿の前なる拜殿は千鳥唐破風四棟造（ちどりからはふうよつむねづくり）にして神寶を展列せり。十三重塔は高七間方一間半、寶物は繪緣起に土佐光茂筆一條兼良詞書のもの四卷、住吉如慶具慶畫二條光平詞書のもの二卷、狩野永德筆と稱する三十六歌仙扁額、粟原寺（あうばらでら）の銅鑪盤（どうろばん）等あり。

鎌足公墓は談山の後方にして御破祭山と稱し天下事變ある時は墓山鳴動し神像破裂すといふ。其南方に不比等墳といふ十三重石塔婆あり

飛鳥附近　古は今の飛鳥、岡の邊總稱して飛鳥といひき、淵瀨定めなき譬に引かれたる飛鳥川は源を天武の朝に樹木の伐採を禁ぜられたる南淵山に發し岡橋の間より甘樫丘の東麓を繞りて西北に折れ今井八木の間に至る。允恭顯宗推古舒明皇極天武の諸帝皆この附近に都し給ひしかば史跡最多し。

岡寺

高市村岡、多武峯櫻井より五十町八木より一里餘

岡寺龍蓋寺と稱す、西國第七番の札所にして眞言宗なり。天智天皇の御願にして義淵僧正の開基に係る。義淵は本郡の人、天智天皇、日並知皇子と共に岡宮に收養し給ひしが後名僧となり法門に行基道慈等の碩德を出せり。本堂に本尊如意輪觀音坐像を安す丈六の塑像にして傳空海の作といふ。開山堂に傳自作と稱する乾漆の義淵僧正坐像及び釋迦涅槃像を安す。此處逝回の丘とよび岡宮の趾に就きて伽藍を構へられたるなり寶物に如意輪觀音小銅像（傳稽文會作）天人浮刻磚（傳岡本宮腰瓦方一尺三寸二分厚二寸）等を藏す。其下方に岡本寺あり

舒明天皇岡本寺の趾なり、或は云ふ岡寺其處なりと。多武峯街道の近傍島の庄に荒墳あり、土全く取れて唯大石の重れるを見るのみ。南方阪田には繼体天皇の時始めて我國に佛法を傳へたる南梁の司馬達等の孫鳥佛師が聖德太子の上宮を賜りて創立せる金剛寺の跡に小堂を殘し又其南方稻淵（岡寺より廿町）には天智天皇藤原鎌足の師たりし南淵先生の塋あり。

・橘寺

高市村橘岡寺より五町、橿原神宮より平田を經て三十町

橘寺は菩提寺といひ太子創立七寺の一なり。推古天皇十四年太子勝鬘經を宮中に講讃し給ひしに蓮花の降りたる奇瑞ありしよりそこに伽藍を造りたるもの當寺の創始なりといへり。金堂は太子殿と稱し聖德太子の像を安す。拜殿に日羅上人立像あり。觀音堂に如意輪觀音立像を安す。境内に畝割塚とて方六間の敷石あり、一反三百六十坪の十分一を象りしものといふ。又橘形石燈籠、二面石等あり。寶物に聖德太子繪傳（土佐光信筆）を藏す。

弘福寺（高市村川原）橘寺の北方二町にあり古の川原寺の名殘にして當時の礎石を存せり。堂内に持國多聞二天の立像を安す弘仁時代傑作の一なり。

飛鳥大佛は岡の北方なる飛鳥の安居院に安する丈六の銅像にして鳥佛師の作に係り堂宇を毀たずして大像を容れたる奇巧は史上に明記する所のものなれども今大に破損せり。これ實に崇峻天皇の朝蘇我馬子と聖德太子と議りて創立せられたる元興寺の形

見なり、當時法興寺とも稱し規模頗る宏大なりしが其平城に移されしより衰頽して今日に及べり。中大兄皇子が中臣鎌足と蹴鞠の遊びをなし給ひし處卽この寺なり 大宮大寺は平城大安寺の本寺にして古川原寺、飛鳥寺と共に三大寺と稱せられしもの北方十町に礎石を存す。

飛鳥神社 飛鳥寺の東方なる鳥形山に鎭坐す境内に大小社八十六社ましますといふ。其南三町許、岡寺より來る路の上方字酒谷山に酒槽石といふあり、高三尺五寸、平面長一丈三尺七寸幅六尺あり。水溜り溝等を刻し往古神酒を作りたる所といへり。又社の東方三町許の小原に鎌足の邸趾といふあり。之より櫻井に出づる時は路山田を過ぐ山田に石川麿の建立したる山田寺の趾あり。

向原寺（飛鳥村豐浦）は飛鳥神社より西して飛鳥川を渡り猶二町許西したる處にあり欽明天皇十三年に蘇我稻目、向原の地を捨てゝ寺となしたるものこれ當寺の創始にして實に我國寺院の嚆矢なりしなり。後推古天皇の都し給ひしも亦此處なり。こゝに甘樫坐神社あり、允恭天皇の時姓氏の混亂を正さんとて探湯をなしたる古跡とす。之より西南に孝元帝陵あり。

甘樫丘は蘇我入鹿の邸宅を構へし處、北方雷は雄略天皇の朝小子部栖輕が雷を捕へしといふ 雷丘 の地なり

天香久山

天香久山、畝傍山、耳成山を合せて三山といふ平野の間に鼎立せり。天香久山は神代より尊き山にして（天上に山あり地に下りて一片は伊豫國にあり一片は大和國にあるものとも記され、天照大神の岩戸籠りし給ひし處なりとも記され、神武天皇の時にも此山の土を取りて祭器を作らせ給ひぬ）其山容の優れたるは「畝傍をゝしと耳成と女を爭ひしとの譬あり「やまとにはむらやまあれどとりよろふ天のかく山」の歌あり、山巓に天香久山神社鎭坐し南麓に天之磐戸神社あり。埴安池は此山の北麓にありて大池なりしなるべけれど今所を知らず、持統文武両帝の都たりし藤原宮は其西方鴨公村高殿にありしなりこれより八木に至る十八町あり。

耳成山

耳成山は耳高山とも山梔子山ともいひ俗には天神山といふ、天香久山の北方十五町の所に孤立し樹木鬱茂山容愛すべし、もと火山なり。

耳成山の西北方に田原本あり其西南多に多坐彌志理都比古神社ありもと十市郡の大社にて朝廷厚く禮を加へたり。此地は神武天皇の皇子神八井耳命の來り住ひ給ひし處にして子孫相繼ぎてこゝに住み多氏を稱せ

り。北方八尾に鏡作坐天照御魂神社あり石凝姥神外二神を祭れり。されど元は石凝姥命の子孫鏡作氏が崇神天皇の世に此地に於て鑄造せしめたる内侍所神鏡の試鑄のものを祭れるならんといふ。

八木は田原本の南方一里にあり、中街道初瀨街道の要衝に當りて市況繁盛に（小房觀音南端にあり）其西方なる今井と共に多く大和木綿を産す。畝傍停車場は兩町の中間にあり。（今井の西方に忌部神社あり中臣氏と共に朝廷の祭祀を崇りたる齋部氏の住へる處にして其祖神を祭り其北なる曾我は蘇我氏の住ひし處、又其西なる曲川は安閑天皇宮趾のある處なり）

畝傍山

今井の南方にあり亦是一個の火山にして平野の間に孤立し山容最雄壯に其東南麓は實に皇祖建國の靈蹟たり。稜威の山と共に高きを仰いで誰か崇敬の念を起さゞらんや。

神武天皇畝傍山東北陵

（白橿村畝傍驛より十町）

神武天皇陵は兆域周圍四百七十間繞らすに二重壕を以てし緑樹鬱々として頗壯大森嚴なるを仰ぐ、殊に近時神苑を開き境愈清靈を加へんとす。しかも中世乾綱紐を解くに方りてや所在の陵墓荒壞に任せ皇祖の陵さへ其處を知らざるに至り元祿以後久しく綏靖天皇陵を以て之に擬せられ異説亦頗多かりしが文久年間戸田大和守の調査によりて

始めて其兆域を封せられ維新後益規模を擴大して今日の壯嚴を見るに至れり。綏靖天皇陵は其北方三町に孝元天皇陵は東方十二町にあり、安寧天皇陵は畝傍山の西方に（橿原宮より六七町）懿德天皇陵（安寧陵の南四町）宣化天皇及其皇后橘皇女陵（懿德陵の東南六町）倭彥命墓（宣化陵の南三町）等は其南方にあり。

橿原神宮（白橿村、神武帝陵の南方九町）

畝傍山の東南麓にあり皇祖神武天皇の底磐根に宮柱太しく立てゝ天地と共に動きなき高御座に卽かせ給ひし靈地にして神社は明治廿三年の創建に係り。祭る所は神武天皇及其皇后にして官幣大社に列す、神殿は京都內裏の內侍所、拜殿は神嘉殿を賜りて移し建てたるものなり。千古の靈蹟久しく湮沒して人の知るなかりしに今は淨潔の境を開き宏壯の殿を構へ皇祖の威靈を仰ぐを得るに至れるもの亦明治聖世の餘光なりと謂ふべし。

久米寺（白橿村、久米、橿原神宮の西南四丁）

久米寺は嘗て神武天皇の率ゐましゝ久米部の住へる所なりし久米にあり、聖德太子の

弟久目皇子の新願によりて創建したるものといへり。養老年中東僧善無畏こゝに留錫して佛法を弘め延暦中空海亦こゝに住せしことあり。本堂藥師如來を本尊とし、觀音堂には十一面觀音と女の脛の白きを見て墮落せりといふ久米仙人の坐像を安す。此寺の多寶塔は善無畏の本邦にて始めて建てたるものといふ、今のは寛政年間京都仁和寺のを移したるなり境内に益田池碑を摸したるものあり。

益田岩船（倭彥墓より東南六町見瀨の南端より西南七町）益田池は弘仁年間旱害を除かん爲に築かれたる大池にして畝傍山の南方一帶を籠めたりしが今は其跡を留めず、南妙法寺の山頭空しく空海の撰文なりし碑石の臺石を殘せり。高さ二丈許、縱二丈五尺、横一丈三尺許ありて上方に三尺角許の穴二つを堀れるは碑石の脚を嵌めたるなり。碑石今見るを得ず或は云ふ碑きて高取の城壘に用ゐたりと。

見瀨平田邊 見瀨は久米の東南にあり古の牟佐の轉訛したるものといふ、其北に接せる大輕は懿德孝元應神諸帝の都し給ひし輕の地名を殘せるなり。（見瀨の南端に圓山ありもと天武天皇陵と呼ばれたるものにして玄室の大なる羨道の長き大和諸陵中の第一に居るといふ）南方平田に**欽明天皇陵**（見瀨より十町）あり其東に並べる欽明皇

孫吉備姫王墓には畸形の石像四軀あり俗に猿石とよぶ、元祿年中欽明陵邊の田より堀出したるものなり。（欽明陵の東二町許道の南邊に鬼の雪隠とよぶ石あり又左の上方に鬼の俎とよぶ石あり皆石棺の毀れたるもの、高貴の人のなるべきをあらぬ名を負せたる畏しといふべし）東方に天武持統両帝合葬陵（欽明陵の東八町）あり、其南方に文武天皇陵（天武陵の南十八町）あり、此邊一帶宣化天皇皇居ありし古の檜隈の地にして今猶檜前の地名を存す。天武陵の東方は即橘寺にして相距る僅に五町のみ。

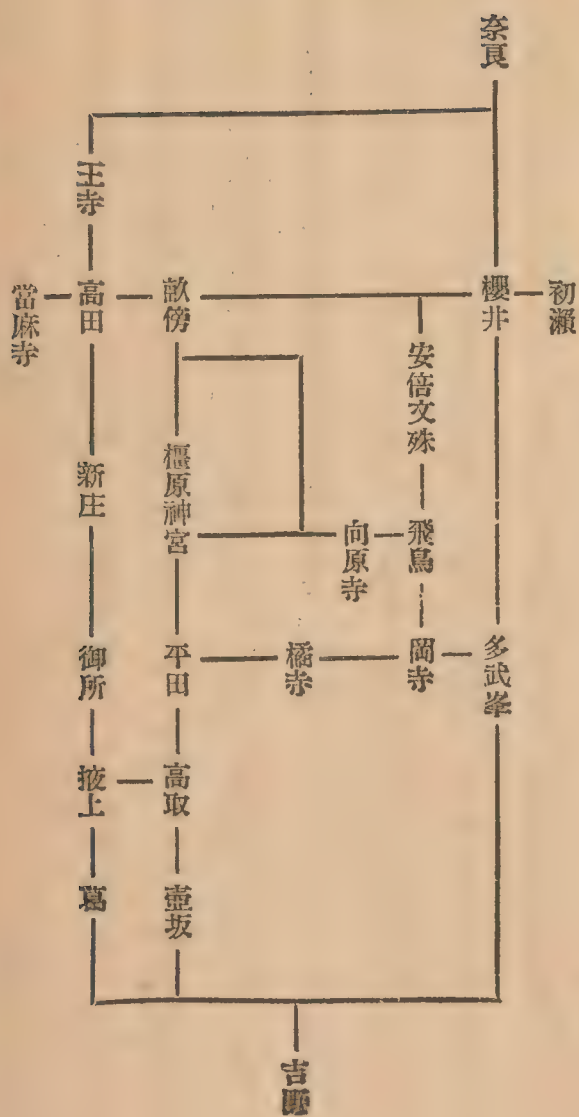
高取平田より南すれば道路二條に分れ右するものは崗宮天皇陵齊明天皇陵を右に見て掖上に出づべく左するものは觀覺寺（千壽院に紫綾金銀泥繪両界曼荼羅圖を藏す）を過ぎて高取に入るべし。高取は幕府の世植村氏四万石の城地たりし所にして高取城趾は其東南なる高取山上にあり、嘗て越智氏の據りて南朝の爲に北軍を防禦したる所なり。（高取は平城朝以前國府のありし所にして今國府神社を存す）

壺阪寺

（高取町壺阪、畝傍驛より二里掖上驛より一里半）

壺阪寺は高取より清水谷を越して山路を上ること十餘町の上にあり、南法華寺を本名とす西國三十三番第六の札所なり。大寶年間南都の僧道基の開創に係り本堂は八角造にして千手觀音を安す。三層塔、二王門は永久三年の再造とす。寶物に浮刻鳳凰磚あ

り。五百羅漢石は奥の院と稱し吉野街道を二町許上りて左に三町許入りたる處にあり、山腹處々に佛像羅漢等を刻す頗奇古なり。

之より南に下れば一里半にして直に吉野の口なる六田(むた)の少し東方に出づべし途中比曾寺(ひそてら)大淀村比曾の前を過ぐ比曾寺は欽明天皇の朝茅渟海(ちぬのうみ)に得たる樟木(くすのき)を以て造れる釋迦如來、及び十一面觀音等の佛像を安せる古寺なり。

高田御所附近

高田は八木の西方一里半にありて郡山より五條に通ずる下街道と河內の國分及び古市より來る兩路の衝に當り交通頻繁市況繁盛なり。（南方に式內多久虫玉神社あり）西方一帶の山脈は總稱して葛城山脈といふ、北方に男女二峰の並び立てるものは詞藻に巧なりし大津皇子の墓ある二上山にして二子山とも稱し南に連りて金剛山となる。二上山の麓に當麻寺あり堂塔最宏壯なり當麻蹶速此地に出でゝ空しく腰折田（蹶速の領地を野見宿禰に賜ひてしかよべるなり。）の遺跡を良福寺に留め惠心僧都は其近傍狐井（下田の南五町）に生れて小堂に遺物を藏せり。下田の北方は一帶に古の片岡の地にして王寺の邊に及ぶ顯宗天皇陵（下田の西南五町）武烈天皇陵（顯宗天皇陵の北方八町）志都美神社（武烈陵の南二町）あり。

當麻寺（當麻村下田、高田より一里弱）

當麻寺は二上山の麓なる麻呂古山の下にありて眞言淨土の兩宗たり。此地はもと役行者練行の地なりしが天武天皇白鳳年間河內の山田郷にありし聖德太子弟麻呂子皇子の

建立なる禪林寺を皇子の孫當麻國見のこゝに移し建てたるものにして藤原豊成の女中將姫こゝに剃髪せられたり。東方正門より入れば金堂講堂南面して相並べり金堂は正中三年の修理にして本尊彌勒坐像四天王等（傳行者作）を安し講堂は乾元二年の建築にして本尊阿彌陀、聖觀音、毘沙門等を安す。

東塔西塔は其南方の丘上にあり寺傳白鳳年間遷造のまゝといへども建築家は之を天平初期に屬せり、九輪の高さと其八輪なるとは他と其例を異にするのみならず雙塔の並び存するもの亦類を見ざる所となす。

曼荼羅堂は金堂の西方にありて東面し元千手觀音を安置せしが天平寶字年間曼荼羅を納めしよりこれを本尊とせり、厨子は高一丈六尺四寸正面一丈六尺左右各三枚の扉あり、仁治三年源頼朝の遺願により將軍頼經の建立する所、所謂鎌倉塗にして金銀蓮華の蒔繪あり、獨當時漆工の術を見るべきのみならず、其下方に記せる結縁衆名簿は史家の參考に資すべきなり。須彌壇は黒漆螺鈿にして唐草摸樣あり、高三尺三寸五分、正面幅三丈、奥行一丈五尺四寸金物に寛元元年の銘あり。淨土曼荼羅長一丈二尺九寸

幅一丈三尺其第一は所謂中將姫蓮絲(はすいと)の曼荼羅と稱するもの實に天平時代のものに屬す、第二は（順德天皇保延年間摸寫する所）畠山の亂に紛失して今傳らず、第三は繪所法橋慶舜、法橋專慶の筆（明正四年十月起筆永正二年十月成就）文龜曼荼羅と稱し（文龜三年後柏原天皇御母の爲に銘文を勅寫し給ふ）第四は法橋良慶の筆（延寶六年起筆同七年成就）貞享曼荼羅と稱す（銘文貞享四年靈元天皇宸翰）此他寶物後方の寶庫に藏む。法然上人行狀繪卷土佐吉光外數人の筆に成り詞書は伏見、後伏見、後二條諸帝の宸翰に係る智恩院のと共に四十八卷御傳と稱して世に臨傳する所なり、當麻寺緣起三卷土佐光茂の筆、詞書は後奈良天皇の宸翰を始め尊鎭親王外七八人の筆に成る。十界圖（傳惠心僧都筆）十王圖の屛風、俱利加羅龍蒔繪錫杖箱（梨子地蒔繪摸樣）等皆優秀なり。奥の院西方にあり大師堂圓光大師像を安す。

●新庄は高田の西南に當り近傍に飯豐青(いひてあを)天皇陵あり忍海(おしみ)は其角刺宮(つのさしのみや)のありし所、御所(ごせ)は高田を距る南方一里廿町下街道と下市街道の會せる所、多く木綿を產す、此地古の意富葦古原(おほゐこはら)の地にして東南掖上の地は孝昭天皇の都たりし處南方室（秋津村に屬す）は孝安帝の都ありし處西南森脇（吐田鄕村に屬す）綏靖天皇の都ありし處なり。近く茅原寺(ちはらでら)、鴨都波(かもつは)神社（南方三町）を拜し孝昭天皇陵（御所より八町）孝安天皇陵（御所より十七町）に詣るべく遠く一言主(ひとことぬし)神社（御所より三十町）

高鴨神社（御所より一里三十町、北宇智より二十町）に詣り又櫛羅瀧の勝を探り金剛山登攀の壯遊を試むべし。

櫛羅瀧 は御所の西方三十町、櫛羅まで車を通すべし、櫛羅は永井氏一萬石の陣營ありし所なり、瀧は葛城山中にあり、高五丈八尺、幅一丈八尺許谿谷幽邃なり。

金剛山 葛城山脈中の高峯にして高さ四千尺、役行者山中に修行しけるより道士絶ゆることなく修驗宗の靈場たりき。これより楠氏の孤軍を以て北條百萬の軍を防禦したる千劍破の城趾に下るべし。路險峻なれども僅に二十五町あるのみ。此山の名を負へ金剛砂は此地の產最著れ今も二上山下の穴虫等にはこれを產せり官奴が大阪（今の穴虫邊）にこれを得て玉を造りしことは天平の昔既に史に記せる所なり。

一言主神社（吐田鄕村森脇）一言主神一名味鉏高彥根命に雄略天皇を配祀す、此神雄略天皇御獵の時現れ給ひ共に馳せめぐり給ひて帝を久米川まで奉送し給ひしも不遜の罪ありて土佐に遷され給ひぬ天平寶字八年氏人の奏請によりて本國に復り給ふに及び初めて一言主の名を以て現れ給ひしなり。今縣社に列す。

高鴨神社（葛城村鴨神）一言主神社と同神にして紀元前よりこゝに鎭祭し孝昭帝の御世に神

殿を造りて奉祭せられしものといふ。亦縣社なり。

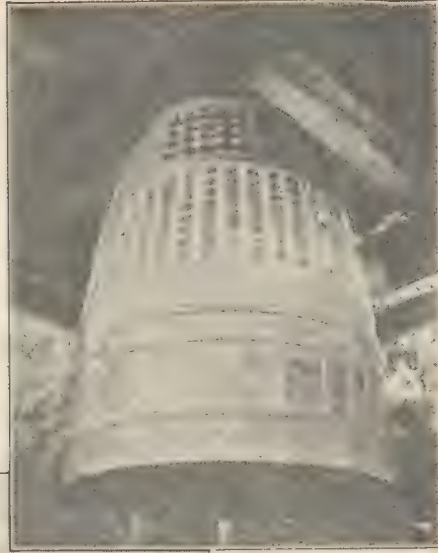
茅原寺即吉祥草寺は御所の東方にあり停車場を距る十町役行者誕生の處といふ其南方に玉手岡あり孝安天皇陵のある所其南方十町に日本武尊琴彈原陵あり南すれば直に戸毛驛に出づべし其東方に國見山あり掖上驛の西南に當り神武天皇の國中を一望し給ひし掖上嗛間丘は即是なり。

葛は戸毛驛の西南にあり炭酸泉を湧出し浴舍の設あり內服浴用兩つながら有効なりといふ此邊一帶巨勢の舊地にして古巨勢氏の住ひし處山を巨勢山とよび川を巨勢川とよび寺院に巨勢寺ありき、今大字に古瀨を存せり。古瀨の西南水泥に蘇我蝦夷入鹿の雙墓といふがあり。

阿田桃園

葛より南する十七八町、新田より左に上ること十町餘にして阿田の桃園に至るべし又北宇智よりするも距離相若けり、古の阿陀大野の地にして園は明治の初めに開く所年月猶淺けれども面積二百餘町東西五十町の廣きに亘り實に一個の新桃源なり。花時の淸賞漸く世人の傳稱する所とならんとす。

榮山寺鐘

榮山寺

賀名生皇居

北闕當年兇賊満。九重宮殿委塵埃。數間茅屋懸崖下。
曾作金城鐵壁來。

大窪詩佛

大和國賀名生郷堀孫太郎居宅地即往昔
後醍醐天皇
後村上天皇
後龜山天皇爲行在所而祖先忠臣之由ヲ
以テ右繪圖面中六石六斗三升ノ租税此
度被免候事

慶應四辰年五月朔

大和國鎭撫總督府

みやひとのあゆひふれけんあとならし
湍けになひく園のさゝ原

仲林光平

阿陀墓

贈太政大臣藤原朝臣良繼日本根子推國高彦尊天皇外祖父在大和國宇知郡兆域東西十五町南北十五町守戸一烟

後阿陀墓

贈太政大臣正一位藤原朝臣武智麿在大和國宇智郡兆域東西十五町南北十五町守戸一烟

（延喜式）

吉野宮

同上

村上義光墓

一阪といふ所の櫻一木道の
行手に盛なれば

見よしのや櫻一木に先見せて　　飛鳥井雅章
　山中しろく匂ふ春かぜ

凡此地は金峯山の尾の長く出たる高岡の背の上に民家有故に左右共にかけ作りにて三階の屋なり但上の第三級の客舍は道なみにて常の平屋のごとし三階の閣とは見えず其次の第二級は主の居室也かまどあり上の座敷より主の居る所に下る其口は穴に入がごとく梯より下る是は二階なり其下に又梯より下れば土座の屋有是は雜物薪等を積置所也浴所厠もこゝに有客舍は左右みな谷上に臨めり東方の客舍に景好所多し（貝原益軒大和めくりの記）

疊々春山別有天
花開花落鎭依然
羊腸險惡君休怒
曾護南朝五十年
　　頼山陽

吉野山（其一）

（其二）

一目千株花盡開、滿前唯見白皚皚、
近聞人語不知處、聲自香雲團裏來、　菅　茶山

吉野山霞の奥は知らねども　八田知紀
　みゆる限は櫻なりけり

吉野山去年の栞を見ちかへて　紀　定丸
　うろつくほどの花盛かな

雪を花花を雲ぞとみよしのゝ　市　人
　うそはいまだにやまさくら花

人は武士花は吉野の山さへも　宿屋飯盛
　腰にはしやんとさいてこそをれ

これは〳〵とはかり花の吉野山　安原貞室

藏王堂

吉水院

後醍醐天皇御製

花にねてよしや吉野の吉水の
　枕の下に石はしろ音

都だに淋しかりしを雲はれぬ
　吉野の奥の五月雨の空

藏王堂外彩霞蒸　如意輪邊香霧凝
花似有心巡幸處　翠紅千帳護山陵
　　　　　　　　　　　　篠崎小竹

よしのゝ山にいりにける、人はゆくへも白雪に、こひしき人をしたひても、いつこを春と尋ねまし。
　　　　　　　　　　　　本居宣長

さかば先ゆきてこそ見め我やとゝ
　たのむよしのゝ花の下蔭
　　　　　　　　　　　　宗良親王

歌書よりも軍書に悲し吉野山
　　　　　　　　　　　　支考

如意輪堂扉

同藏王權現像

後醍醐帝陵

正行、正時、和田新發意、舍弟新兵衞、同紀六左衞門子息二人、野田四郎子息二人、楠將監西河子息關地良圓以下、今度の軍に一足も引かず、一處にて討死せんと約束したりける兵百四十三人、先皇の御廟に參りて、今度の軍難義ならば、討死仕るべき暇申して如意輪堂の壁板に各名字を過去帳に書き連ねて、その奥に「かへらしとかねておもへは梓弓なき數にいる名をそとゝむると、一首の歌を書き留め云云　　（太平記）

萬人買醉攬芳叢　感慨誰能與我同　賴　杏坪
恨殺殘紅飛向北　延元陵上落花風

古陵松柏吼天飈　山寺尋春春寂寥　藤井竹外
眉雪老僧時輟帚　落花深處說南朝

山禽叫斷夜寥々　無限春風恨未消　河野鉄兜
露臥延元陵下月　滿身花影夢南朝

吉野山に登りけるに秋の日既に斜になれは名ある所をのこしてまつ後醍醐天皇のみさゝきを拜む

御廟をしを經てしのふは何を忍ふ艸　芭　蕉

妹脊山

大瀧

賀茂の大人と共に我はらからなどかいつらねて

大和の國へいきける時に吉野の大瀧を見てよめる　春海

神ろぎの遠き御代より語りつぎいひつぐ言をゆかしみと思ひたりぬる草枕たびの長路の山河のいづくはあれど名ぐはしき吉野の山の雲霧を八重かきわけて大瀧の川瀬を見れば上つ瀬はゆづ岩むらにおちたぎち水沫くだけて大雪のちりかふがごと下つ瀬は八十のくまわに青浪の渦浪まきて天雲のたゞよふなせり神がらかしかぞあやしき國がらかくぞさやけきかくしつゝ八百萬世にありかよひ常に見るともあきたらぬやも

おちたぎつゆづ岩むらに波ふりて山もとゞろに響あひにけり

吉野大瀧

ちる花をあつめて瀧のみかさ哉　蓼太

西河

ほろ／＼と山吹ちるか瀧の音　芭蕉

春くれば妹脊の山の隔てなくみゆる霞の中立もよし　鎌倉近江

大臺ヶ原山

大峰山本堂

土屋鳳洲

有木梯架險崖、拾而登、大巖當面、曰鐘懸、衆瞠若、曰是可登乎、嵒上偶有人、呼曰、不易登、亦可登、乃足據巖角、手執巖頭、蟹行魚貫而進、

大峰にて　　僧正行尊

もろともにあはれとおもへ山櫻花より外に知る人もなし

峯入は宮もわらぢの旅路かな　　宗因

花も奥ありとや芳野になかく吟し入りて

大峯やよしのゝおくの花の果　　曾良

川上村神ノ谷修羅出シ

高見村杉谷十年林相

左に吉野郡に於ける杉檜栽培創始の年度を掲げて參考に供す

川上鄕	三百九十八年前	（文龜年間）
黑瀧鄕	三百年前	（慶安年間）
西奧鄕	二百七十年前	（寛永年間）
北山鄕	二百六十年前	（寛永年間）
十津川鄕	二百卅七年前	（寛文年間）
池田鄕	二百十一年前	（元祿年間）
國樔鄕	二百十年前	（元祿年間）
小川鄕	二百八年前	（元祿年間）
中庄鄕	百九十五年前	（寶永年間）
龍門鄕	百廿七年前	（安永年間）

（吉野林業全書）

小川村三尾川木津川合流後作業

筏士よそはんよしのゝ水上も
いかばかりちる花のあらしを
連歌師　宗　賢

筏の乗り方は通常の筏にあつては人夫二人を要し大木の筏なれば三人若しくは五人を要す此乗人は先にあるものを鼻コギと云ひ次にあるものを脇乗といひ後にあるものを後流しといふ（吉野林業全書）

どろ八町

一棹廻崖則溪口、峻崖數尋、屹立作門、門之内、左右石壁、直立千尺、頂戴稚松雜木、如無一撮土者、水則深綠色、似巨巖作底、而深數十尋、不可測也、漾々不流、舟子按櫓緩進、峭壁幾曲、觀隨曲改、崖岩盡奇、其最奇者、右崖而跌石、蛭岩、牌石、雞冠石、大黑石、左崖而屏風巖、船岩、冷門、釜洞、皆可觀、釜洞口僅容身、其中嵌空受五六十人實奇觀也、

藤澤南岳

湯川清齋

秋峽水平舟可停　孤篷半捲坐玻璃
汀邊亂石虎斑古　洞口濕雲龍氣腥
山有鹿驪須結侶　地無桃李亦成蹊
瑩然玉井潔於玉　一笑土人呼作泥

五條附近

五條は吉野川の沿岸にありて下街道及紀伊伊勢交通の要衝に當り市況繁華にして鮎晒布を產物とす。元代官所ありし所にして文久三年天誅黨の亂を起すや先兵を此處に集め十津川の方に赴きて幕兵の來討を拒みき。其西端吉野川に臨みて五條遊樂園（二見驛より六町）あり眺矚頗佳に夏期の香魚獵は最妙なるべし、もと二見の城趾にして圖南の翼を振はんとせし松倉重政は實に大阪陣の戰功によりて此の處より島原へ封を移されしなり。西方に名所眞土山（まつちやま）あり之を紀伊との境となす、高野、和歌山に至らんものこれより西すべきなり。南すれば靈安寺（りやうあんじ）に御靈神社（五條驛より廿一町）あり寶龜三年巫蠱（ふこ）に座して廢せられたる井上皇后及他戸（をさべ）太子の靈を祭り御山（みやま）に皇后宇智陵（御靈神社より八町）あり。

賀名生（あなふ）皇居趾 （賀名生村和田、五條の南方二里）

後醍醐帝の賀名生に幸し給ふや和田村の鄕士堀信增先巳の宅に奉じ後行在を屋後の山の上に營み皇居となし奉り忠勤を抽んでたり楠正行吉野を出でゝ四條畷に戰死し高師

直勝に乘じて吉野を攻むるや後村上天皇また此處に移り給ひ次の帝後龜山天皇亦こゝに居給ひき。其居館今に存して舊觀を改めず遺愛の南天等あり來りて此處に遊ぶもの誰か懷古の淚に咽ばざるを得んや。子孫今猶堀氏を稱し家に勅賜の旗幟家の旗等を藏す。此處亦北畠親房公終焉の地にして其墳墓あり。東南方黑淵亦黑木御所といふあり。後村上帝皇居の趾といふ。

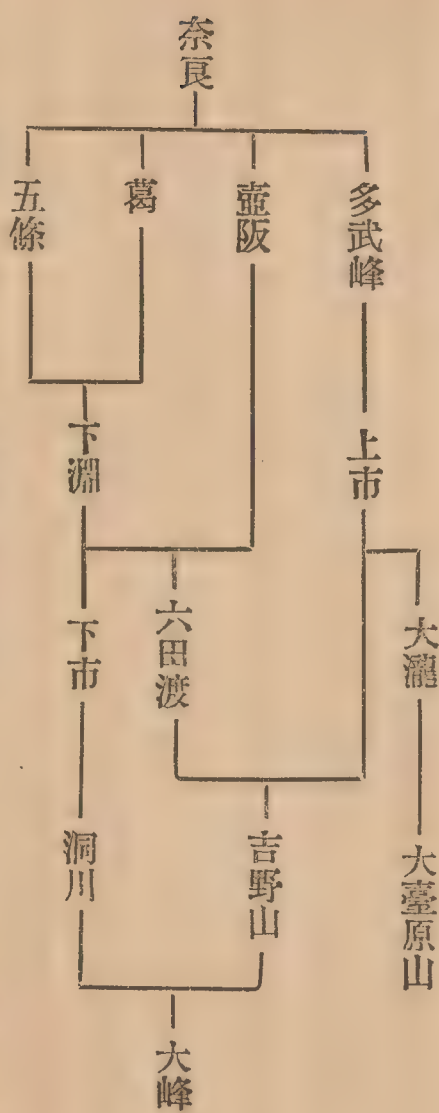
榮山寺　宇智村子嶋、五條より二十三町

榮山寺は吉野川の北岸にあり役小角の開始せる所にして養老三年藤原武智麿の建立せる所本堂には本尊藥師如來を安す。八角圓堂は一方一間五尺天平年中武智麿の子右大臣仲麿の創立する所にして天井柱等當時の彩繪の存するものあり。本尊大日如來長一丈三尺あり鐘樓の銅鐘高五尺徑三尺傳小野道風筆といふ、もと山城深草道澄寺にありしを移したるなり。寶物に後小松天皇宸筆の贊ある武智麿畫像あり、又前面吉野川の流水三四町の間音無川とよび巉巖並び立ち水よどみて流れず清澄魚を數ふべし禁獵場なり寺の後方七町許の山上に武智麿の墳墓あり古碑の殘片は此寺に藏せり五條より榮山寺に至る宇智川を渡る川に寶龜七年の銘ある磨崖碑あり。

吉野地方

吉野一郡至る所山秀で水清く自別寰をなせり。神武天皇既に吉野に行幸し給ひ應神天皇亦早く離宮を設けられ給ひき。櫻花の美を以て名を天下に擅にする吉野山は役行者の闢きたる大峰の門口に當り。彌山、釋迦、大日等の諸峰相連りて郡の中央を縱斷し以て熊野に至れり。山の西方は十津川の流域にして十津川村あり、大塔宮に關する遺蹟多く延元の亂、大塔宮、奈良より吉野に遁れ給ひ天の川の殿に至りて戸野兵衛の宅に宿り給ひ又谷瀬なる其舅竹原八郎が家に移らせ給ひぬ。十津川の五百瀨は村上義光が錦旗を奪ひかへしたる處にして腰抜田の名を殘し玉置山上は片岡八郎の討死したる處にして花折塚あり、小原の善山は蘆瀨川其麓を流れ宮の和歌を刻せる碑あり。東方は北山川の流域にして北山村と稱す。南朝史の筆を此鄕に絕つの悲事を見る。南北一統の後後龜山天皇の曾孫尊秀王北山鄕の龍川寺に潜みて南朝の恢復を圖り給ひしが賊赤松氏の遺臣に害せられ給ひぬ、墓は川上村神之谷の金剛寺にあり。大臺原山勢紀二州に跨りて勝地多く吉野、北山の二川皆源を此に發す、吉野川の沿岸亦奇勝多く尤山林に富めり。北山川のどろ八町に至りては天下罕に見るの絕勝たり。

吉野山公園

吉野山公園は吉野連峰の北端なる金峰山の山腹にあり。役行者大峰山を開きしより神佛威靈の地となり堂塔祠宇樹林の間に構へられて風光自清秀なり。殊に神靈櫻花を愛すと稱して古來多く之を植ゑたれば山脊溪畔至る所花ならざるはなく人をして「これはくとばかり」の感あらしむ。此地又南朝の行在所となり忠臣の遺跡を留むるもの少からず「歌書よりも軍書に悲し」の感亦深からざるを得ず。探古覽勝の客古より推して天下の第一となす所なり。

吉野山に至る葛よりするものは車阪を踰え五條よりするものは宇野峠を越え共に下淵

に出づ

下市は下淵と吉野川を相隔て千石橋を架せり。鮨屋彌助の鮎鮨、吉野塗箸を名產とす、釣瓶鮨は慶長九年朝廷に献納せしより爾來年々進献するを例とするに至れり。

丹生川上下社（南芳野村丹生）は下市より二里餘官幣大社にして天武天皇の朝の創立に係り高龗神を祭る古來旱水には此神に祈るを例とせり。此邊多く漆漉の吉野紙を產す。

●●洞川は吉野より四里小南嶺を越えて至る地十津川の上流にありて大峰參拜の別路に當り龍泉寺あり彌勒を安す。近傍に蟷螂窟あり石灰岩の大洞なり。

六田淀又柳の渡とよぶ、下淵の東方一里にあり壺阪を越ゆるものまた比曾寺の傍を過ぎて少し其東方に出づ。吉野に上るは之よりするを本道とす

上市は六田の東方一里にあり多武峰、松山よりするもの皆こゝに出づ上市の渡を櫻の渡とよぶ之より吉野に上るは裏道なり。道路東するものは伊勢街道にして高見山を越えて伊勢の波瀬に出づべく宮瀧より右に分岐するものは川上に入りて北山に出づべし（九八頁參看）

吉野宮　吉野山六田より十町

吉野宮は官幣大社にして後醍醐天皇を祭り奉る明治廿五年の創設なり。攝社御影社本殿の右側にあり藤原資朝藤原俊基を祭り、船岡社左側にあり兒島範長兒嶋高德櫻山茲俊を祭る、瀧櫻社其次に相並び土居通増得能通言を祭る。

口の一目千本

六田の七曲より二十餘町の間櫻樹多し長峰の櫻とよぶ、二十八町目に村上義光忠烈碑あり墓は其上方なり、三十町目前後の地は櫻樹最多く一望雲か雪かと疑ふべしこれを口の一目千本とす又日本が花の稱あり。見る者誰か其美觀に驚かざらんや。上市より來る裏通の街道こゝに至つて七曲をなすこれより仰ぎ見る亦最妙なり。

吉野山の民家之より山嶺を傳ひたる道路の左右崖によりて構へられ上層は道路と同平面にして店舗を開き中層は家人の住ふ所下層物置に充てたり。陀羅尼助、櫻菓子等を名産とす

金峯山寺

金峰山寺は大峰山上山下の伽藍僧房の總號にして役小角の開基する所なり。宗旨は眞言天台の二派にして初め僧坊百ヶ院ありしが中頃兵亂を經て維新に至り廢滅に歸したるもの少からず。一の橋を渡り黒門を過ぎ行くこと一町、銅の鳥居の高く立てるを見る高二丈五尺廻一丈一尺といふこれを過ぐれば二王門あり、金峰山寺の總門とす高さ五丈二尺東西七間南北四間傳へ云ふ康正元年再造天正十四年修補する所と。

藏王堂（ざうわうだう） 金峰山寺の本堂なり高さ十一丈二尺方十八間康正元年再造慶長十九年豐臣秀吉の修覆する所といふ莊巖華麗の大堂なり。本尊は木彫藏王大權現立像にして三軀あり一は二丈六尺一は二丈四尺一は二丈二尺なり釋迦立像（傳傳世尊寺本尊） 阿難迦葉（あなんかせふ）立像（舊世尊寺脇士） 等を安す。寶物に千手千眼觀音畫幅、金銅經函三合あり。

本堂の前に四本櫻あり護良親王の最後の御酒宴を催され舞樂を奏せしめし處、南門趾は村上義光の戰死せし處といふ。藏王堂の西方に實城寺趾あり南朝三帝五十餘年行在所たりし所なり。

吉水（よしみづ）神社 （藏王堂より三町）

吉水院は藏王堂の供僧坊にして吉水院といひしを明治八年改稱し後醍醐天皇楠正成を祭る、客殿に源義經潜居の間、辨慶の思案の間などあり。後醍醐天皇の此地に行幸し給へる時先こゝに入らせ給ひぬ「花にねてよしやよしのゝ吉水の枕の下に石はしる音」の御詠ありき。實城寺へは後に移らせ給へるなり。寶物に傳後醍醐天皇宸翰の御願文色々威腹卷其他南帝の遺物多し。

山口神社又勝手明神といふ祭神一は忍穗耳命外二神一は木花咲耶姫外二神。源義經の妾靜が法樂の舞を奏したりといふは此處なり。其後なる山を袖振山といふ。其前を西に少し入れば大日寺あり、これより五町ばかり洞川街道を南に行けば東方に村上義隆の墓あり。

如意輪寺　山口神社より七町

山口神社の前より左に下り一溪を渡りて東に上る處に如意輪寺あり、延喜年中日藏上人の開基する所にして南朝の勅願寺なりき。本堂には本尊如意輪觀音坐像（傳安阿彌作）を安す。楠正行が譬を截つて佛殿に納め一族百四十三人の姓名を記し鏃もて「かへ

ちじとの歌を彫り附けしといふ如意輪塔の趾は庫裏の北方にあり。寺内に楠正行の埋髻塚及森田節齋の撰せる髻塚碑藤本鉄石招魂碑等あり。寶物に木造厨子入藏王權現の立像を藏す。

後醍醐天皇陵は堂後にあり後龜山皇子**世泰親王墓**其傍に並べり、近時此近傍多く櫻を植ゑ花時風光最佳なり。

竹林院山口神社の南方三町許にあり宏大なる坊にして庭園は小堀遠州侯の築く所といふ尤奇巧なり。小丘あり頗眺矚に可なり。

中千本天王橋を渡り猿曳坂の上より東の谷を望む處をいふ、中院谷に佐藤忠信が山僧横川覺範を討ちたる所とて首塚といふあり。其上方花櫓は忠信が義經の爲に防戰せし處といふ布引櫻瀧櫻雲井櫻等を賞して更に上れば世尊寺趾あり一個の梵鐘保延六年の銘あるものを殘せり世に吉野三郎と稱するもの是なり。

吉野水分神社世尊寺趾より二町許上方にありて藏王堂を距ること十八町許始め子守山口神社といひき、今の社殿は慶長九年豊臣秀頼の再建に係れり。正殿天水分神、

右殿正面少彦名神左殿御子神右殿天忍穗耳命左殿正面玉依姫命右殿瓊々杵尊左殿栲幡千々姫命を祭る。

金峰神社水分神社の上方五町許にあり吉野八大神祠の第一にして此山しろしめす神なり。寶物に金銅經筒あり藤原道長の銘文を記せり。此下に蹴拔塔あり方二間許、源義經敵に追はれて此塔内に隱れたるを山僧に探し出され塔の屋根を蹴放ちて宮瀧の方へ逃げ去りしよりいふとぞ之より右西町許もけば苔清水あり西行法師の古跡といふ近傍に西行庵趾あり其後方を奥千本といふ。

愛染峰は緣樹鬱茂すと山頂に愛染堂ありしを以て名あり、大峰は之より上るを本道とす、其奥三町許に女人結界の標石あり、

大　峰

吉野より大峰に至る六里路小天井大天井の二嶺を過ぎ洞辻にて洞川よりの街道と合す。これより上れば路に鐘掛西覗等の行場あり鐘掛は危岩峙立す登りて北方を望めは山城大和遠近の景色皆眸中に落つべし。西覗は數十丈の絶壁にして不動像を彫れり、

大峰に上るものには匍匐うて之を俯瞰せしむ。山上に大峰山本堂あり宏大なる建物にして藏王權現を本尊とし傍に自作と稱する役行者の像を安す其後方危巖峙ち行者の登岩、蟻の戸渡、平等石等の行場あり山上の眺望最佳なり。山は四月十日に開きて十月十日に閉づ。半年の間人の住ふものなきなり。夏時最登拜の人多し。

吉野川上流沿岸

妹脊山 龍門村河原屋 上市の東方五町にあり妹山は北岸にして大名持社あり、脊山は其對岸にして飯貝に屬す、遠望最よし。妹脊山紀伊にありとの説もあれど吉野のを正しとすべく紀伊の兄山は別なるべしといへり

妹山の側を北に行けば龍門に至るべし。山中龍門瀧あり。

宮瀧 國樔村に屬し上市の東方五十町にあり。之より吉野山に至る二十四五町、櫻木神社は五町許の處にあり其前を流るゝを象小川といひ之に架するを假寐橋とも象の橋ともいふ名所なり。宮瀧は吉野川巉巖峙立し碧流鑿りて其下深潭をなす幅三間許深さ丈餘、橋其上に懸り柴橋といふ此邊禁獵地にして風光最佳なり。春夏の交瀧飛とて土人岩上より躍りて潭に投じ旅人を樂ましむることあり亦一奇なり。

國樔は此近傍を總稱す大字また國栖の名あり、神武天皇の吉野に幸し給へる時早く國栖部の始祖を見給ひしことあり、應神天皇の吉野に幸し給ひし時には醴酒を獻せしことありこれより後屢朝廷に參りて栗茸年魚の類を奉り朝廷大儀ある時には來朝して歌曲を奏し御贄を獻ずることと長く恒例となり國栖奏といへり、後藤原氏攝政の世の末の頃より國栖奏は廢絶せしも其儀式のみは長く殘れりといふ。

宮瀧より東するものは伊勢街道にして鷲家口を過ぐ吉村寅太郎等天誅黨義士戰歿の處にして其墳墓あり

天誅黨の起るや吉村寅太郎、藤本鐵石、松本謙三郎等中山忠光公を大將とし先五條に入りて代官鈴木源内を斬る十津川の鄕士野崎主計、田中主馬造、深瀨繁理等これに應し最力を盡ししが朝議俄に變じ津、和歌山、彦根、郡山等の諸藩兵を出して之を討するや天誅黨は高取城を攻めしも陷ることを得ず一たび五條に退き更に天の川邊を守り遂に陣營を燒き拂ひて十津川に入りしも止むことを得ず北山を經て鷲家口に出づるに及び藩兵の爲に討たれて義士の最期を見るに至れり。

大瀧は宮瀧と距る五十町其間五社嶺の嶮あり大瀧の名は吉野川の流れ急にして激湍をなせる處あるより起れるなるべし、支流蜻蛉瀧あり西河瀧とよぶ高さ十餘間幽深清冷なり。近傍の小平野蜻蛉野とよべり、これ往時吉野宮のありし處ならむかといふ

一說宮瀧を以て其處とす。

丹生川上上社 川上村迫大瀧より一里 下社と祭神を同じうし明治廿九年官幣大社に列せられぬ。

諸窟 北和田に水晶窟あり柏木に菊の窟、聖禪窟、不動窟等の諸窟あり皆石灰岩にして深洞をなす、不動窟の如きは深さ百間或は匍匐うて行くべく或は橋を渡るべく其奥滔々と漲り落つる激流を見る、皆案内者を雇ひて炬火を携へて探り見るを得べし。北和田の南方は尊秀王の墓ある神之谷なり 柏木より道路二條に分る 一は大臺原山に至るべく途中入波温泉あり 碇に井光神社あり神武天皇の吉野に入りまし丶時井より出でたる吉野首部の始祖の住へる處なり今縣社に列す 一は伯母峯を過ぎて北山に入るべし。

大臺原山

大臺原山は三國に跨り東西三四里南北四里餘反別四千八百町餘あり山中平坦にして高原をなし奇勝多く中にも三條の大瀑あり最壯絶となす 東の瀧凡高四百尺中の瀧八百尺西の瀧六百尺 近時大臺本殿の設けあり年々探勝の客を加ふるに至れり。

どろ八町

どろ八町は北山川の紀伊との境を流るゝ處にあり八町の間左右巉巖壁立し緣樹其上に繁茂し碧水淀んで流れず曲曲光景改る、山水の美名狀すべからざるものあり。下流十津

と合して熊野川となり紀伊の新宮に至りて海に入る。

吉野山林

吉野の山林其名天下に聞え杉檜の良材は本縣主要の物產に屬す其起原は三輪春日の両山に天然生育せし神代杉を移植せしにありて尚四百年以來の事なり。しかも其發達の速なる慶長年間既に京都桂離宮御造營の用材となり寛永年間杉種一石を隱岐國に分與したることありといふ。吉野附近の山林に入りて其林相を望み伐採、運搬、筏の作業等を見る利益と趣味と両ながら多かるべし。

大和巡　終

産業

農業　大和の一國大部分は山地に屬すといへども大和川の流域に一大沖積層を開き穀神廣瀬の社北方に鎭座し龍田、丹生川上の威靈に五風十雨其宜しきを得、由來米質の良好を以て自任し瑞穂國の一州たるに愧ぢず其耕作地三万餘町收穫凡六七十万石生駒郡其首位を占め品質亦最良好にして特に生駒谷の産は生駒米の名を以て世に鳴れり。麥は作る所二万町穫る所二十万石磯城郡最多くして凡全額の五分一を有す。其他豆類、粟、黍、稗等の産あり。甘藷は年々産額を加へ三百六十万貫以上に上り生駒其四分一あり矢田藷の名は人の知る所、之に次ぐを吉野北葛城となす。馬鈴薯五十五万貫、青芋二百八十万貫も漸次産額を加へ牛蒡百二十万貫、蒟蒻玉四十万貫亦多量を産す大根三百八十万貫生駒最多く織田氏の世「順慶の時世得られししるしには太く見事な筒井大根」の狂詠あり今も其近傍長安寺大根の名あり。其他西瓜百二十万貫は磯城山邊最多く南瓜、薑、山葵等の産亦少からず。果實類は田道間守が始めて此國に輸入したる柑橘の類近時漸く栽培の額を加へたるも猶平均百万貫に及ばず而して吉野其四割以上を占め山邊磯城之に亞ぐ柿は古來有名に

して其名の御所の産より起れる御所柿を最上品とす幕府の世郡山藩主献上品の中に大和柿の名あるもの即是なり。今産する所各種を通して三十六万貫以上に及び最生駒宇陀を多しとす。桃三十五万貫阿田の桃園を有する宇智郡其半を占め梅實十一万貫月瀬を有する添上郡其半以上を占め、梨子十一万貫生駒磯城各四割を占む。其他果實の栽培は一般に漸く盛況に向はんとするの狀態あり。

菜種は燈油の用を減せしより收穫幾分を減する傾きあり「菜の花の中に城あり郡山」の昔を見る能はず、實綿は河内と共に主要の產地なりしも外國綿の輸入盛なるより之を十年前に比すれば二十分一に減せり「木綿取生駒の山は雨の雲」の詩味亦漸くに薄からんとす。其他葉烟草、葉藍、大麻、藺、楮、生薬等の產あり。

漆汁は古來此國の名產にして吉野は今猶多く之を產す茶は產額三十万貫煎茶三分の二に近く他は多く番茶に屬し添上山邊郡最盛にして三分の一以上を占め。桑蠶の葉は近時漸く盛にして繭の產額凡一万餘石に及べり。皆山間部の產となす。

水產物に至りては其養殖に係るもの鯉一万六千貫（價八千圓）鮒八千貫（五千圓）あり、金魚は文龜年

而和蘭人の舶載したるものなれども寛永中生駒郡郡山人佐藤三左衞門養殖の法に巧なりしより爾後此地の特產となり今養殖場の面積四万坪世界に類を見ざる一種の美觀なり、收獲の數量百万尾（四萬圓）以上に及び其名品に至ては一尾五六圓に値するものあり。

其漁獲に係るもの鮎は吉野川の名產にして全國五千貫（八千圓以内）中其七割以上に及び其他鰻、鯉、鯇等を合せて五千貫（四千圓）あり、中にも鮎は製して粕漬（幕府の世献上品たり）糀漬、酢漬、煎餅、釣瓶鮨（九一頁參看）等となすも產額未だ多しと云ふべからず。

林業　大和は四境山嶽に圍まれ全國三分二を占むる吉野一郡の如き僅に吉野川の沿岸に小平野を有するのみ、山林業の此國に盛なる固より其所なりといふべし。官林は四千五百町、其最大なるを高取とし其次を室生とし菩提山とす、民林十三万町吉野其六割半を占む。中にも春日、三輪、畝傍、耳梨の如き神山に屬するもの南淵山（高市郡稻淵）の如き水源地に屬するもの古來伐木を禁じ長く森嚴の美觀を保てるあり、今日吉野十郷至る所林業の盛大を極め吉野山林の名天下に鳴るに至りしもの實に今より四百年前春日三輪両山の神代杉を移植したるに起るといふ（一〇〇頁參看）今民林の產物を數ふれば檜、杉、

松の類二百三十万本、百九拾萬圓其中杉百五十万本百四拾萬圓に上る而して其五分四は吉野のものとなす。竹五万束（二萬圓）添上最多く其副產物は椎茸二千貫（壹萬圓）吉野其大部を占め松茸一万五千貫（壹萬五千圓）に近く吉野其半を出して宇智生駒（矢田松茸最上品にして其名著る）之に次ぎ栗は一千貫（八千圓）宇智吉野最多し。

鑛物は數年前に比ずれば稍產額を減ず銅二十万斤其他皆少量なり。

工業　吳織漢織の渡來し來りて固有の製織に一層の精巧を加へたる大和も絹織物は久しく產出を絕ちたれども近時漸く少量を產し絹交織物亦好況を呈せんとす今產ずる所一万反に近く高市其半以上を占め吉野奈良市之に次ぐ綿織物に至つては大和木綿大和絣の名早く世に聞えぬ。其沿革を尋ぬるに綿種渡來の後大和を始め諸國に之を栽培し德川の初期早く木綿を製出して大和木綿の稱あり而も猶純白若くは縞物のみなりしが寶曆年間に至り御所の淺田五右衞門越後布の紺絣を見て之を木綿に應用したるもの實に大和絣の起原なりとす。「表の傍には機織る處女小歌を謳ひ、裏には絲繰る老婆詠歌をわぐる爪の長き仕入の商人あれば氣の短き織屋の親仁ありて恰もいさかひの如く

算盤の音機音に混していと靜ならざるは此邊一帶の盛況なり。總數七百万反價格參百萬圓以上に上り產地を以てすれば北葛城其首位を占めて三分一あり之に次ぐを高市南葛城とす。種類を以てすれば白木綿總價の四割五分を占め絣三割以上を占む。其產額全府縣に就いて三四位を下らず。麻織物は十三万反參拾萬圓奈良市其大部を占め反數を以てすれば蚊帳地八割以上に居り、價格を以てすれば麻布五分二に居り添上郡の東部產出最多く石打布の名世に聞えたり、晒布は奈良古來の名產に屬し德川家康既に具足師岩井某をして丈尺の不同を改めしめたるとあり德川の中世には奈良に晒屋七軒近郷に十七軒問屋三十二軒布中買六七百人ありき其盛大なりしを知るべし。

綿絲紡績は郡山高田の二所にあり百万貫内外を產するも原料は多く之を外國に仰げり。蠶絲は漸次盛況に進むを見るも總額猶七八千貫に滿たず磯城其四分一を占め宇陀北葛城添上の三郡之に次ぐ。

製紙は戶數三百軒職工千五百人產額九萬圓に近く九割以上は吉野に屬す其國樔の邊に產するものは宇陀紙國樔紙其他の諸紙あり丹生川の沿岸に產するものは漆漉にして古

來の名產に屬し吉野紙の名あり絹本裱裝の中裏に打つ翠簾紙の如き亦此地の特產に係るといふ。**油類**は總額七千石に近く其價格貳拾參萬圓生駒其四割に居り磯城之に次ぐ。**漆器**は日本武尊の宇陀にて漆樹を發見し器物に塗らしめ給へるに起ると傳ふ、（七〇頁參看）殊に宇陀に漆部郷あり漆器の此國に緣故深きを知るべく平城朝優秀の漆器を見る多くは此國の製出に係れるを想ふべし。後其沿革を詳にせず後醍醐天皇の吉野に南巡し給ふや工人をして金輪寺の茶器を製せしめ給ひぬ、其後奈良の茶匠珠光椽法に巧にして能く茶器を製し其後中次亦奈良特種の產物となれり茶器の外に於ては吉野根來五百年前のものあり古の吉野塗亦一種の妙味を見る膳椀の如きは粗製なれども今猶多く下市に產せり。奈良には小字に木地屋垣內の名を存せるは漆器の木地を引きし處ならんかとの傳說あり元祿の頭塗桶を出し近時奈良漆器大に產額を增せり然れども縣下總額僅に八萬五千圓奈良其五分三吉野五分二を占むるに過ぎず。

筆は少量なれども古來產出するが如し今總額四萬圓其大部は奈良にあり。**紙墨**の製は推古の朝高麗の僧曇徵之を傳ふといふ中世興福寺の僧二諦坊油煙を以て墨を製造せし

より此地多く工人を生するに至れり中にも古梅園松井元泰(げんたい)製墨の方を研究して其名最著れぬ今産出する所總額拾四萬圓亦奈良の特産に屬せり。

陶器は生駒郡に赤膚山(あかはだやま)の一窯(ひとかま)あるのみ正保年間京師の名工野々村仁清(ののむらにんせい)此地に來り土人に教へて器物を造らしめたるもの其始めなりといふ後其窯廢せしを郡山の城主再興して今に及べども精巧のものを出すに至らず（近頃郡山に木白(もくはく)といふもの父子二世技に巧なりき）今産出する所六百圓內外あるのみ。

奈良團扇はもと春日の禰宜(ねぎ)の內職に製せしものなるが今は一の名産となり透彫(すかしぼり)など精巧のものを出し「元直(もとね)にもならのものとて澁々(しぶく)に手を團扇賣捨ぐあきなひ」といふが如き、狀態は昔の事となす。奈良扇また一種の名産にして、今産する所共に十万本壹萬五千圓、茶筅は高山宗砌(たかやまそうぜい)其製法を一族に傳へしより（宗砌姪頼宗に傳ふ頼宗の子頼春の作る所精巧にして御銘高穗の名世に高く其子孫弘頼、頼資、廣頼相傳ふ、廣頼の作る所千利休の手を經て正親町院の叡覽に供し御感斜ならざりき其子頼盛の作る所天正年間豐公北野大茶湯の時百穗を献しぬ爾後禁裏仙洞幕府大藩等へ屢献納の事ありき）生駒郡高山の特産に屬し他國遂に之に勝るものを製する能はず。今産額十万本六千圓漸次需用を增進せんとす、其他簽(しんし)、竹箸、等の産あり。苽は八萬圓を出して磯城其三分一弱

を占め葷類は參萬五千圓南葛城四割以上を占む。
刻烟草は拾參萬圓磯城其首に在り。
索麪は二十五万貫拾貳萬圓磯城其大部に居り三輪索麪の名遠近に喧傳す。凍豆腐は二十万貫參拾萬圓山邊其半に居り。葛粉一万斤貳千圓吉野葛粉の名を以て世に聞ゆ今多く宇陀の產なり。醬油は一万四千石、拾七萬圓高市郡首位に居り曲川の名世に聞ゆ。
酒は四万餘石を產して價格百參拾萬圓に上る其中霰酒は古來奈良の名產にして永祿の頃既に酒屋菊屋の名の記錄に存するを見る。其他の特產奈良漬は其普通名詞となれるを見るにも古く產物に大和瓜の名あるを見るにも其由來の久しきを想ふべし。刀劍は奈良に千手院包永等の名工ありしが遂に一の物產となり南北朝の頃既に奈良刀の名あり幕府の當時晒布、墨、團扇、酒、甲冑等と共に皆御用に供せられたるものなりき。甲冑は岩井春田の二家善く製せしと稱せられ其他武器に關する工人は頗多かりしも維新後大方は跡を絕つに至れり。奈良人形は岡田松壽最長く業を傳ふ近時名工に森川杜園を出しき。此他產物一々枚擧するに暇あらず。

宮址一覽

春日率川宮（開化）奈良市春日神社南西、或云率川神社ノ地
平城宮（元明より光仁に至る）生駒郡都跡村佐紀大宮ノ地
石上穴穗宮（安康）山邊郡或云、丹波市、田村貴船神社（穴穗社）ノ地
石上廣高宮（仁賢）同郡或云、二階堂、嘉幡、字都田ノ地
黑田廬戸宮（孝靈）磯城郡、都村或云宮古、黑田間字都ノ森、內裏坪
纏向珠城宮（垂仁）同郡、纏向、或云穴師トヨウ堂、或云辻字玉井山
纏向日代宮（景行）同郡、纏向或云太田、都古谷、或云卷ノ內字ヒジリ
譯語田幸玉宮（敏達）同郡、纏向村太田、或云戒重春日社內
磯城瑞籬宮（崇神）同郡、三輪、金屋志貴神社南方ト云フ
磯城島金刺宮（欽明）同郡三輪、金屋、山崎ノ「シキ嶋」トヨブ地或云「カナサシ」ノ地
泊瀬朝倉宮（雄略）同郡、朝倉村黑崎ノ東北字天ノ森、或云磐坂谷
泊瀬列城宮（武烈）同郡、初瀨町或云、出雲十二社明神ノ地
倉梯宮（崇峻）同郡、多武峰村、倉橋、御陵ノ傍金福寺ノ邊ト云フ
磐余稚櫻宮（履中）同郡、櫻井町、谷、稚櫻神社ノ邊、或云香久山村池內
磐余玉穗宮（繼體）同郡、未詳
磐余池邊雙槻宮（用明）同郡安倍村阿倍池內ト云フ
磐余甕栗宮（清寧）同郡香久山村池內字御厨子或云白髮谷（今處ヲ失フ）

遠飛鳥宮（允恭）高市郡、飛鳥村飛鳥、字大垣內
近飛鳥八釣宮（顯宗）同郡飛鳥村八釣顯宗神社ノ地ト云フ
小墾田宮（推古）同郡、飛鳥村、豐浦甘樫神社ノ邊或云、高市村岡治田神社ノ邊
飛鳥岡本宮（舒明）高市郡高市村岡、岡本寺ノ地或云岡寺ノ地
飛鳥板蓋宮（皇極）同郡或云高市村川原村社板蓋神社ノ地
後飛鳥岡本宮（齊明）飛鳥岡本宮ト同所ナラン
飛鳥淨見原宮（天武）同郡、高市村上居、字都ノ地或云祝戸
藤原宮（持統・文武）同郡鴨公村高殿、字宮所、大宮等ノ地
橿原宮（神武）同郡、白橿村、畝傍、橿原神宮ノ地
輕曲峽宮（懿德）同郡、白橿見瀨「マハリチサ」ノ地ト云フ
輕境原宮（孝元）同郡、白橿村、見瀨「サカキバラ」ノ地ト云フ
輕島豐明宮（應神）同郡白橿村、大輕、
檜隈廬入野宮（宣化）同郡坂合村檜前
勾金橋宮（安閑）同郡金橋村曲川大宮坪ノ地或云釋迦堂、或云眞菅會土橋
片鹽浮穴宮（安寧）北葛城郡、浮孔村、三倉堂大殿ノ地或云浮ヶ坪或云高市郡白橿村四條
葛城掖上池心宮（孝昭）南葛城郡、掖上村池內、蓬原又同村辨財天ト云フ所或云玉手大池ノ南
室秋津島宮（孝安）同郡秋津村室宮山ノ地ト云フ
葛城高丘宮（綏靖）同郡吐田鄉村或云森脇字神宮ノ地

御陵一覽

陵名	所在地
春日率川坂上陵（開化）	奈良市油坂地方
奈保山東陵（元明）	仝市奈良坂
奈保山西陵（元正）	仝上
佐保山南陵（聖武）	添上郡佐保村法蓮
佐保山東陵（聖武皇后仁正皇后）	仝上
平城坂上陵（仁德皇后磐之媛）	生駒郡都跡村佐紀
楊梅陵（平城）	仝上
狹木之寺間陵（垂仁皇后日葉酸媛）	仝村山陵
高野陵（孝謙稱德）	仝上
狹城盾列池後陵（成務）	仝上
狹城盾列池上陵（神功）	仝上
菅原伏見東陵（垂仁）	仝村尼ヶ辻
菅原伏見西陵（安康）	仝郡伏見村寶來
田原東陵（光仁）	添上郡田原村日笠
田原西陵（光仁御父春日宮）	仝村矢田原
八島陵（光仁皇子崇道天皇）	仝郡東市村八島
衾田陵（繼體皇后手白香皇女）	山邊郡朝和村中山
山邊道勾岡上陵（崇神）	磯城郡柳本村柳本
山邊道上陵（景行）	仝村澁谷
吉隱陵（光仁御母紀橡姫）	仝郡初瀨町角柄
笠間陵（後村上中宮源顯子）	仝郡朝倉村笠間
押坂內陵（舒明）	仝郡城島村忍坂
倉梯岡上陵（崇峻）	仝郡多武峰村倉橋
劒池島上陵（孝元）	高市郡白橿村石川
檜隈大內陵（天武持統）	仝郡高市村野口
檜前安古岡陵（文武）	仝郡坂合村栗原
檜隈坂合陵（欽明）	仝郡坂合村平田
越智岡上陵（孝德皇后間人皇女）	仝上
畝傍山東北陵（神武）	仝郡白橿村大久保山本ノ間
桃花鳥田丘上陵（綏靖）	仝村四條
畝傍山西南御陰井上陵（安寧）	仝村吉田
畝傍山南纖沙溪上陵（懿德）	仝村池尻
身狹桃花鳥坂上陵（宣化）	仝村鳥屋
身狹桃花鳥坂上陵（宣化皇后橘皇女）	仝上
片丘馬坂陵（孝靈）	北葛城郡王寺村王寺
傍丘磐坏丘北陵（武烈）	仝郡志都美村今泉
傍丘磐坏丘南陵（顯宗）	仝郡下田村北今市
埴口陵（仁賢御姉飯豐）	仝郡新庄村北花內
掖上博多山上陵（孝昭）	南葛城郡三室
玉手岡上陵（孝安）	仝郡掖上村玉手
白鳥陵（日本武尊）	仝郡秋津村富田
宇智陵（光仁皇后井上內親王）	宇智郡坂合部村大野
塔尾陵（後醍醐）	吉野郡吉野村吉野山

古代建造物一覽

推古時代

- 法隆寺：金堂、五重塔、中門、回廊
- 法輪寺：三重塔
- 法起寺：三重塔

天智時代

- 藥師寺：三重塔

天平時代

- 東大寺：三月堂、轉害門、三月堂經庫、東南院經庫、勸學院經庫
- 正倉院 ○
- 新藥師寺：本堂
- 唐招提寺：金堂、講堂
- 海龍王寺：西金堂
- 秋篠寺：本堂 ?
- 法隆寺：西院鐘樓、經藏、同食堂、夢殿、傳法堂、東大門 ○
- 當麻寺：東塔、西塔
- 榮山寺：八角堂

弘仁時代

(春日神社本社四殿形式)

- 室生寺：金堂、五重塔
- 唐招提寺：校倉二棟 ○

藤原時代

- 興福寺：北圓堂、三重塔
- 法隆寺：講堂
- 春日神社：幣殿、直會殿、門廊、祭器庫、板藏、着到殿、車舍、若宮拜殿、手水屋

鎌倉時代

- 東大寺：鐘樓、南大門、大湯屋 ○、開山堂
- 般若寺：門 ○
- 新藥師寺：四足門
- 極樂院：本堂
- 十輪院：本堂
- 不退寺：本堂 ○、多寶塔 ○
- 唐招提寺：禮堂及舍利殿 ○、鼓樓

南北朝時代

- 靈山寺：本堂 ○、三重塔
- 長弓寺：本堂
- 長福寺：本堂
- 法隆寺：西圓堂、上御堂、聖靈院、舍利殿及繪殿、東院鐘樓
- 當麻寺：金堂、講堂、本堂
- 百濟寺：三重塔 ○
- 長岳寺：門 ○
- 石上神宮：本殿 ○
- 大神神社：攝社大直禰子神社
- 吉水神社：社殿 ○
- 來迎寺：本堂 ○

足利時代

- 興福寺：五重塔、東金堂、大湯屋
- 菅原寺：本堂
- 法隆寺：三經院 ○、北室院 ○、東院迴廊、同南門、同四脚門、同禮堂

豐臣時代

- 圓成寺：本堂 ○、多寶塔 ○、門 ○
- 吉田寺（龍田の南）：多寶塔 ○
- 岡寺：門 ○
- 金峯山寺：藏王堂、二王門 ○
- 壺阪寺：三重塔 ○
- 石上神宮：門 ○
- 高鴨神社：本殿
- 都祈水分神社：本殿 ○
- 法華寺：本堂 ○、鐘樓 ○
- 藥師寺：八幡宮 ○
- 吉野水分神社

德川時代

- 東大寺：大佛殿、門廊
- 橿原神宮：本殿

表中○符ヲ附シタルハ未ダ特別保護建造物ニ編入セラレザルモノナリ德川時代ハ多ク之ヲ省畧セリ

國寶一覽

既定ノ國寶千二百點ニ近ク奈良縣殆其四分一ヲ占ム殊ニ彫刻ニ至テハ其三分一以上ヲ占メタリ

彫刻

銅造

東大寺大佛
仝 誕生釋迦
興福寺東金堂藥師三尊
新藥師寺藥師
藥師寺藥師三尊
仝 講堂藥師三尊
仝 聖觀音
法隆寺釋迦三尊
仝 藥師三尊
仝 彌陀三尊
仝 仝（橘夫人念持佛）
仝 觀音
仝 釋迦文殊
仝 峰藥師胎内佛
仝 誕生釋迦
仝 觀音（五）
仝 槌製三尊（二）
長谷寺銅盤法華説相圖
岡寺如意輪觀音

乾漆

東大寺三月堂本尊
仝 仝 四天王
仝 仝 二力士
仝 仝 梵天帝釋
興福寺北圓堂四天
仝 十大弟子
仝 八部衆
福智院地藏（夾紵漆）
法華寺維摩
唐招提寺本尊
仝 千手觀音（夾紵漆）
仝 藥師（木心）
法隆寺觀音
仝 行信僧都
仝 西圓堂藥師
仝 彌陀三尊（木心）
仝 彌勒（同）
仝 觀音勢至
聖林寺十一面觀音

塑造

東大寺日光月光
仝 執金剛神
仝 辨財天吉祥天
仝 戒壇院四天王
新藥師寺十二神將（十一）
法隆寺食堂梵天帝釋
仝 仝 四天王
仝 塔内文殊維摩侍者（七）
仝 仝 男裝女裝侍者（二）
仝 仝 彌勒
仝 仝 涅槃釋迦侍者（三）
仝 夢殿道詮

石造

岡寺如意輪觀音
東大寺獅子（二）

磚

靈山寺彌陀三尊
岡寺天人浮刻
壺阪寺鳳凰浮刻

紙製

唐招提寺鑑眞

木造

東大寺良辨
仝 俊乘
仝 南大門二王
仝 彌勒
仝 僧形八幡
仝 多門天
仝 千手觀音
仝 獅子頭
仝 念佛堂地藏
興福寺彌勒
仝 世親無着
仝 法相六祖
仝 北圓堂釋迦
仝 金堂 同
仝 同
仝 同
仝 二力士
仝 東金堂維摩
仝 仝 文殊
興福寺梵天帝釋
仝 十二神將

仝　板彫仝(十二)
仝　龍燈鬼天燈鬼
仝　南圓堂四天王
仝　金堂　同
仝　　同
仝　日光月光
仝　地藏
仝　千手觀音
仝　聖觀音
仝　南圓堂不空羂索
仝　彌勒(厨子入)
仝　帝釋天
仝　多聞天
仝　阿彌陀
仝　佛頭佛首
新藥師寺千手觀音
仝　藥師
元興寺十一面觀音
仝　藥師
法華寺十一面

仝　佛頭
仝　二天頭
海龍王寺文殊
仝　十一面
不退寺聖觀音
秋篠寺十一面觀音
仝　梵天
仝　救脫
仝　帝釋天
仝　十一面觀音
仝　大元帥明王
西大寺行基
仝　釋迦
仝　四佛
仝　文殊
唐招提寺大日
仝　釋迦(厨子入)
仝　十一面(二)
仝　地藏
仝　彌勒

仝　藥師
仝　寶生
仝　獅子吼
仝　衆寶王
仝　梵天帝釋
仝　四天
仝　佛頭
仝　如來形
仝　天部形
藥師寺十一面觀音(二)
仝　彌勒
仝　比丘八幡
仝　神功皇后
仝　仲津姫
仝　二天
大安寺千手觀音
仝　不空羂索觀音
仝　楊柳觀音
仝　四天王
仝　十一面觀音

靈山寺十一面觀音
仝　塔中地藏
法隆寺夢殿觀音
仝　金堂四天王
仝　上ノ堂同
仝　九面觀音
仝　觀音
仝　彌勒
仝　藥師三尊
仝　釋迦三尊
仝　藥師
仝　金堂彌勒
仝　仝　吉祥天多聞天
仝　梵天帝釋
仝　夢殿聖觀音
仝聖靈院太子脇士(五)
仝　仝　如意輪觀音
仝　仝　地藏
仝　彌陀
仝　文殊普賢

仝　日光月光
仝　觀音勢至
仝　地藏
仝　善女龍王
仝　新堂藥師三尊
仝　仝　四天王
中宮寺如意輪觀音
法輪寺藥師
仝　十一面觀音
仝　虛空藏
仝　聖觀音
仝　吉祥天
白毫寺閻魔
弘仁寺明星菩薩
室生寺如意輪觀音
仝　彌勒
仝　釋迦
仝　藥師
仝　文殊
仝　十一面觀音

文殊院文殊脇士
岡寺義淵
橘寺日羅
弘福寺持國天多聞天
吉野水分社𣑥幡千千姫
仝　玉依姫
如意輪寺藏王權現（厨子入）

春日社舞樂面（五）
手向山社同（十五）
東大寺伎樂面（一九）
仝　舞樂面（三）
法隆寺同（五）

繪　畫

東大寺香象大師
仝　倶舍曼荼羅
仝　華嚴五十五所繪卷
興福寺二天
仝　慈恩大師
新藥師寺涅槃
法華寺彌陀三尊
海龍王寺毘沙門
極樂寺淨土曼荼羅
西大寺十二天
仝　文殊
唐招提寺東征繪卷
仝　大威德明王
藥師寺吉祥天
仝　慈恩大師
法隆寺蓮花屏風
仝　星曼荼羅
仝　孔雀明王
仝　五尊
仝　毘沙門天
朝護孫子寺信貴山緣起
寶山寺彌勒
橘寺太子繪傳（八）
十輪院紫綾金銀泥両界
　曼荼羅
當麻寺淨土曼荼羅
仝　法然上人行狀繪（四八）

刺　繡

中宮寺天壽國曼荼羅

筆　蹟

東大寺賢劫經
仝　大毗婆娑論
西大寺金光明最勝王經（一〇）
仝　大毘盧遮那經（七）
藥師寺增壹阿含經
法隆寺扇面古寫經
吉水社後醍醐帝御願文

勅　額

東大寺西大門
般若寺醍醐帝宸翰
海龍王寺聖武帝宸翰
唐招提寺

書　籍

東大寺、東大寺要錄（十）
仝　續要錄（九）

石　彫

藥師寺佛足石
仝　佛足石碑

器具類

東大寺銅製八角燈籠
興福寺南圓堂銅燈臺扉
仝　華原磬
仝　銅鐘
榮山寺銅鐘
金峯社金銅經筒
金峯山寺金銅經函（三）
談山社銅鑪盤
法隆寺銅壺
東大寺船形後背
不退寺金銅舍利塔
西大寺同（三）
仝　瓶形舍利塔（五）
東大寺五獅子如意
法隆寺玉虫厨子
仝　橘夫人念持佛厨子
仝　天蓋（三）
東大寺黑漆螺鈿卓
當麻寺
　倶利加羅龍蒔繪篋
春日社鼉大鼓
仝　赤銅造太刀
仝　耳木菟短刀
仝　菊作短刀
仝　籠手
朝護孫子寺武器類
石上社色々威腹卷
吉水社同
手向山社四枚居木
仝　黑漆螺鈿唐櫃

建　築

極樂院五重塔
海龍王寺同

發掘品

石上社勾玉類

明治三十六年三月廿五日印刷
仝年四月一日發行　（定價金七拾錢）
仝年十月一日飜行

發行所　奈良縣協賛會
奈良市上三條十三番地

著作者兼發行者　水木要太郎
奈良縣生駒郡郡山田町大字豆腐二十二番地

飜刻者　合資商報會社
京都市上京區三條通東洞院東入曇華院前之町十七番戸
右代表者　片桐正雄
京都市上京區小川通二條上ル槌屋町二十七番戸

印刷者　柿原太朗吉
京都市上京區三條通東洞院東入曇華院前之町十七番戸

印刷所　合資商報會社